

幼兒教育學科

發 展 科 目

授業名	教育原理 a・b	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Principles of Education	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	浅田 瞳	対象学生	幼児教育1ya~yf・yg~yl		
授業の概要	洋の東西を問わず、教育に求められる役割はますます肥大化し、教師の役割も同様になりつつある。本講義では、教育の基本的な考え方やしくみを社会や歴史との関係をふまえながら学習する。とりわけ幼児教育に大きな影響を与えたフレーベルおよびモンテッソーリの思想を中心に、幼児教育に求められる基本概念について理解する。また、今後の幼児教育のあり方を予測するとともに、人間の発達や現代社会と教育との関係をもとに、幼児教育で大切なことは何か、さまざまな資料や記事をもとに自らの意見を述べるのが授業の目的である。				
学習成果到達目標	1) 諸外国における教育の変遷や原理の違いについて説明できる 2) 幼児教育の発展過程について、専門的な知識をもとに説明できる。 3) 乳幼児に対する教育観・保育観について、説明できる。				
評価方法	定期試験 (30 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (70 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (授業に対する興味・関心) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	『やさしい教育原理』(新版補訂版)、田嶋一、中野新之祐、福田須美子、狩野浩二著				
参考書	適宜指示する。				
留意事項	主として講義により授業を進める。ただ、教育に関する時事について不定期に問うために適宜、指名して意見の発表もしくは記述を求める。緊張感をもって講義に臨んでもらいたい。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	イントロダクション	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備) 筆記用具			
第2回	教育とは何か	(内 容) 教育とは何かについて、その概念と性格について考察する。 (必要な準備) テキスト p.1-11 をよく読んでおくこと。			
第3回	学ぶことと教えること	(内 容) 「学び」と「教え」について考察する。 (必要な準備) テキスト p.12-26 をよく読んでおくこと。			
第4回	教育・教化と形成	(内 容) 教育と教化と形成の違いについて考察する。 (必要な準備) テキスト p.27-37 をよく読んでおくこと。			
第5回	学校とは何か	(内 容) なぜ学校が登場したのかについて解説する。 (必要な準備) テキスト p.39-47 をよく読んでおくこと。			
第6回	近代学校の特徴	(内 容) なぜすべての子どもが学校に通うようになったのかについて解説する。 (必要な準備) テキスト p.48-55 をよく読んでおくこと。			
第7回	日本の教育の歩み	(内 容) 日本の教育の変遷について概説する。 (必要な準備) テキスト p.68-86 をよく読んでおくこと。			
第8回	身体の発達と道徳	(内 容) 教育と発達に関する理論について概説する。 (必要な準備) テキスト p.99-110 をよく読んでおくこと。			
第9回	教育計画	(内 容) 子どもたちの学びを促進するためにどのような計画が必要か理解する。 (必要な準備) テキスト p.117-132 をよく読んでおくこと。			
第10回	教育評価を考える	(内 容) 評価の理論について概説する。 (必要な準備) テキスト p.133-149 をよく読んでおくこと。			
第11回	理論と実践のつながりを考える	(内 容) フレイレや生活綴り方運動を概観し、理論と実践のつながりについて理解する。 (必要な準備) テキスト p.159-168 をよく読んでおくこと。			
第12回	青年期と教育	(内 容) 青年期における教育の課題について概説する。 (必要な準備) テキスト p.203-218 をよく読んでおくこと。			
第13回	社会教育と生涯学習	(内 容) 社会教育と生涯学習について考える。 (必要な準備) テキスト p.219-232 をよく読んでおくこと。			
第14回	教育の権利について考える	(内 容) 知識基盤社会における子どもの権利について考える。 (必要な準備) テキスト p.233-248 をよく読んでおくこと。			
第15回	教育改革の動向とまとめ	(内 容) 現代の教育改革がどのように進んでいるのか、総括を行う。 (必要な準備) これまでの授業の振り返り。			
オフィスアワー	第1回目の授業にて告知。				

授業名	保育原理 I a	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Principles of Child Care I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	藤井裕子	対象学生	幼児教育 1ya~yf		
授業の概要	人格形成の基礎が培われる幼児期の保育の重要性を認識し、保育の基礎的知識を習得する。保育の意義、目的を学び保育者の役割を理解する。保育所保育指針や幼稚園教育要領を読み現代社会における保育内容、保育方法、保育計画について学ぶ。保育の基本から専門的知識までを習得し保育を通して社会の一員としての役割を果たせるようになる。保育の専門家として知識と感性を身につけることができるように実践的な内容も組み入れて学ぶ。				
学習成果到達目標	1) 保育の意義や目的に関する思想や、保育制度の歴史を学び、保育に関する理念の多様性を理解する。 2) 保育所保育指針と幼稚園教育要領を読み、現代保育の内容と方法を学び保育計画を立てられるようになる。 3) 子どもの発達を適切に支援、指導する保育者としての社会的責任を果たせるようになる。				
評価方法	定期試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	谷田貝公昭編『新版保育用語辞典』(一藝社)、大豆生田啓友『よくわかる保育原理』(ミネルヴァ書房)				
参考書	林邦雄編『保育用語辞典』(一藝社)、大豆生田啓友『よくわかる保育原理』(ミネルヴァ書房)				
留意事項	講義を中心とするが、理解を深めるために視聴覚資料も取り入れる。プリントは事前事後に熟読し、予習復習も積極的に行うこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション 保育とは何か、保育原理とは何か	(内 容) 講義の目的や授業の進め方を理解する。保育所保育の特性とその目的について理解する。 (必要な準備) テキスト、ノートを準備する。			
第2回	保育の基本的知識、保育における子どもも理解	(内 容) 学校教育法や児童福祉法など保育に関する基本的な法律について学ぶ。保育士の専門性について理解する。 (必要な準備) 幼稚園教育要領、保育所保育指針を読む。			
第3回	保育の制度、思想	(内 容) 保育所、幼稚園、認定こども園の特徴を知り共通点と違いについて理解する。 (必要な準備) 配布プリントを読んでくる。			
第4回	保育の歴史、日本における保育思想と保育施設、諸外国における保育思想と保育施設	(内 容) 日本と西洋における幼児教育思想を学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントを読んでくる。			
第5回	保育の目的、目標、保育者の役割	(内 容) 保育の目的を知り子どもの発達過程に応じた適切な指導や援助を行う保育者の専門職としての役割について学ぶ。 (必要な準備) 幼稚園教育要領、保育所保育指針を読む。			
第6回	子どもの発達と適切な支援(1)0歳から3歳	(内 容) 0歳から3歳の心身の発達や情緒的安定、社会性の育ちについて学び適切な発達援助の方法を学ぶ。 (必要な準備) 幼稚園教育要領や保育所保育指針を読む。			
第7回	子どもの発達と適切な支援(1)3歳から6歳	(内 容) 3歳から6歳の運動発達、言葉や社会性の発達を学び思考力や自立心が身につくような発達援助を理解する。 (必要な準備) 幼稚園教育要領や保育所保育指針を読む。			
第8回	保育の内容(1)健康、人間関係、環境	(内 容) 養護と教育について理解し、教育の5領域の構成および内容についてねらいと内容を習得する。 (必要な準備) 幼稚園教育要領、保育所保育指針を読む。			
第9回	保育の内容(2)言葉、表現	(内 容) 5領域のねらいに基づいた保育内容について理解し保育の中で実施できるようになる。 (必要な準備) 幼稚園教育要領、保育所保育指針を読む。			
第10回	保育の計画と評価	(内 容) 長期、短期の保育指導計画を作成し、記録と評価の仕方を学ぶ。保育指導計画を作成する。 (必要な準備) 幼稚園教育要領、保育所保育指針を読む。			
第11回	環境の整備、安全への対策	(内 容) 健康の保持と増進、安全の確保について配慮事項を学ぶ。 (必要な準備) 幼稚園教育要領、保育所保育指針を読む。			
第12回	保育所、幼稚園、小学校の連携	(内 容) 小1プロブレムの問題とそれを予防する方策を学び、保幼小の連携について学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントを読む。			
第13回	保護者に対する支援	(内 容) 保育の専門性を生かした子育て支援の意義と方法を学ぶ。職員間の連携について理解を深める。 (必要な準備) 幼稚園教育要領、保育所保育指針を読む。			
第14回	保育者の専門性の向上	(内 容) 保育の現状を理解し専門職としての保育者の質の向上を目標として自らの課題を明らかにする。 (必要な準備) 配布プリントを読む。			
第15回	まとめおよび自らの学びを振り返り、今後に繋がる課題を把握する。	(内 容) これまでの学びを確認し、今後に繋がる課題を把握する。質疑応答。ノート点検。 (必要な準備) 配布したプリント、テキストを復習する。			
オフィスアワー	木曜日 15:00 から 17:00				

授業名	保育原理 I b	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Principles of Child Care I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	岸 優子	対象学生	幼児教育 1yg~yl		
授業の概要	保育実践を支える基本原理を学ぶ。保育の意義、目的に関するルソー、ペスタロッチ、フレーベル、倉橋惣三などの思想や、制度の歴史を学び、保育や乳幼児教育についての考え方の視点を理解する。保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、保育者の役割と現代的課題を理解する。				
学習成果到達目標	1) 保育の意義や目的に関する思想や、保育制度の歴史を学び、保育に関する理念の多様性を理解する。 2) 現代保育の内容と方法を学び、部分実習指導計画が立案出来るようになる。 3) 子どもの発達を適切に支援、指導する保育者としての社会的責任が果たせるようになる。				
評価方法	定期試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	谷田貝公昭編『〈新版〉保育用語辞典』一藝社、2016年		『〈新版〉保育者論』一藝社、2013年		
参考書	厚生労働省「保育所保育指針」、文部科学省「幼稚園教育要領」、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(フレーベル館)				
留意事項	講義内容の理解を深めるために、DVD などの映像教材などを取り入れる。テキストは事前、事後に熟読し、保育についての基礎的知識を習得し、保育の理解を深めておくこと。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	科目ガイダンス 保育とは何か、保育原理とは何か		(内 容) 講義の目的や授業の進め方 (必要な準備) シラバス、テキスト第1章		
第2回	保育の可能性と必要性、保育における子ども理解		(内 容) 子どもとともに歩む保育 (必要な準備) テキスト第10章		
第3回	保育の制度、思想		(内 容) 保育所、幼稚園、認定こども園の固有性 (必要な準備) テキスト第3章、第8章		
第4回	保育の歴史、日本における保育思想、諸外国における保育思想		(内 容) 日本と西洋における幼児教育・保育思想 (必要な準備) テキスト第2章		
第5回	保育の目的、目標、保育者の役割		(内 容) 発達段階に応じた保育者の役割 (必要な準備) テキスト第4章		
第6回	子どもの発達と適切な支援(1)乳児期、幼児期(前半)		(内 容) 保育のねらいと内容、領域 (必要な準備) 幼稚園教育要領や保育所保育指針		
第7回	子どもの発達と適切な支援(2)幼児期(後半)		(内 容) 保育のねらいと内容、領域 (必要な準備) テキスト第7章 92頁~97頁		
第8回	保育の内容と方法(1)健康、人間関係、環境		(内 容) 多様な保育の方法、保育の形態 (必要な準備) テキスト第8章		
第9回	保育の内容と方法(2)言葉、表現		(内 容) 指導計画を作成と記録の評価 (必要な準備) テキスト第7章		
第10回	保育の計画と評価		(内 容) 保育指導計画を作成する。 (必要な準備) テキスト第12章		
第11回	家庭との連携、子育て支援		(内 容) 子育て支援の意義、方法 (必要な準備) テキスト9章		
第12回	保護者に対する支援 多様な子どもの保育への対応		(内 容) 多様なニーズを必要とする子どもへの対応 (必要な準備) テキスト第12章		
第13回	保育者の専門性の向上		(内 容) 保育の現状を理解し専門職としての保育者の質を向上するために自らの課題を考える。 (必要な準備) テキスト第5章		
第14回	保育の現状と課題 幼・保・小の接続		(内 容) 小1プロブレム等に対応するための連携 (必要な準備) テキスト第14章		
第15回	自らの学びを振り返り、今後に繋がる保育者の課題を把握する。		(内 容) これまでの学びを確認し、よりよい保育者になるために今後に繋がる課題を把握する。 (必要な準備) プリント、テキスト第15章		
オフィスアワー	月曜日・火曜日 12時10分から13時				

授業名	保育原理Ⅱa・Ⅱb		開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Principles of Child CareⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	鈴木 えり子		対象学生	幼児教育1ya~yf・yg~yl		
授業の概要	保育原理Ⅰを踏まえて、基本的理論や知識の習得を目的とする。保育内容や保育方法、保育形態など、年齢や発達過程に応じた保育計画の必要性を学ぶ。保育の思想及び歴史の変遷を理解する。保育の現状や課題、保育の計画・内容・方法・評価及び保育者の専門性について学ぶことを目的とする。					
学習成果到達目標	1) 保育の歴史、思想、諸制度について理解できる。 2) 保育計画が作成できるとともに保育方法や評価について理解できる。 3) 保育者の専門性について理解できる。					
評価方法	定期試験 (80%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (20%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" type="checkbox/>() <input type="/> ()				
テキスト	『保育原理』谷田貝公昭編 一藝社					
参考書	『新版 保育用語辞典』一藝社 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館					
留意事項						
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション		(内 容) 秋学期の授業について(到達目標など)説明 (必要な準備)			
第2回	保育の理念		(内 容) 保育所保育の目的、目標について再確認する。 (必要な準備) 保育原理Ⅰの内容、教科書第1章を読んでおく。			
第3回	保育の歴史①		(内 容) 諸外国の思想について学ぶ(春学期の振り返り) (必要な準備) テキスト第13章、配布プリントを読んでおく			
第4回	保育の歴史②		(内 容) 日本の保育思想を学ぶ(春学期の振り返り) (必要な準備) テキスト第14章、配布プリントを読んでおく			
第5回	保育の歴史 小テスト		(内 容) 保育の歴史の小テストの実施と解説 (必要な準備) 配布プリントを見直しておくこと			
第6回	保育の視点		(内 容) ビデオを視聴し、保育の基本について理解する ビデオを再視聴し、保育者の役割について学ぶ (子どもと生活することについて理解する) (必要な準備) テキスト 第8章を読んでおく			
第7回	保育と記録		(内 容) 記録の必要性と方法について学ぶ (必要な準備) 保育記録の具体例のプリントを見ておく			
第8回	子どもの生活とあそび		(内 容) 具体的なあそびを通しての子どもの生活における保育理論を理解する (必要な準備) 教科書第10章を読んでおく			
第9回	子どもの生活と援助		(内 容) 保育者の援助について学ぶ (必要な準備) テキスト 第11章、援助の方法について配布プリントを読んでおく			
第10回	保育計画①		(内 容) 保育計画の必要性を理解する (必要な準備) 教科書第12章と配布プリントを読んでわからない点を明確にしておく			
第11回	保育計画②		(内 容) 指導計画の意義と作成上の留意点 (必要な準備) 指導計画を作成してくる			
第12回	保育計画③		(内 容) 保育計画案の作成の実際について学ぶ (必要な準備) 指導計画を作成してくる			
第13回	保育の評価		(内 容) 保育評価の意義と必要性・方法について理解する (必要な準備) テキスト 第12章を読んでおく			
第14回	保育者の専門性		(内 容) 保育者の専門性について具体的に理解する (必要な準備) テキスト 第7章を読んでおく			
第15回	保育の現状と課題、まとめ		(内 容) 日本の保育の現状と課題を理解する。秋学期のまとめ (必要な準備) テキスト 第15章を読んでおく。今まででわからない点を明確にしておく			
オフィスアワー	月曜日 午後15時から17時					

授業名	保育の心理学 I a・b	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Child Care Psychology I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	下温湯 まゆみ	対象学生	幼児教育1ya~yf・yg~yl		
授業の概要	発達心理学の基礎知識を習得し、その知識を用いて子ども理解を深めていく。また、心理学の具体的な話題や幼児教育・保育現場の事例を紹介し、発達過程と保育実践を関連づけながら講義をすすめる。				
学習成果到達目標	1) 子どもの発達に関する心理学の基礎知識を習得する。 2) 発達心理学の基礎知識を用いて子ども理解をすすめ、発達過程と保育実践を関連づけて理解する。 3) 乳幼児期の経験の重要性を認識し、主体的に学ぶ態度を身につける。				
評価方法	定期試験 (75%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (25%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	使用しない				
参考書	授業中に随時紹介する。				
留意事項	授業は配付資料を使ってすすめる。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス	(内 容) 心理学とは何か、保育と心理学の関係について学ぶ。 (必要な準備)			
第2回	保育における発達心理学の意義と役割	(内 容) 子ども理解のために発達心理学の知識が必要であることを知る。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第3回	「発達」とは何か 1 発達段階と発達課題	(内 容) 発達の基礎理論を学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第4回	「発達」とは何か 2 発達のしくみ	(内 容) 発達の基礎理論を学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第5回	身体機能と運動機能の発達	(内 容) 身体機能・運動機能の発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第6回	情緒と自我の発達	(内 容) 情緒と自我の発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第7回	社会性の発達	(内 容) 社会性の発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第8回	知覚と認知の発達	(内 容) 知覚と認知の発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第9回	言葉の発達 1	(内 容) 言葉の発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第10回	言葉の発達 2	(内 容) 思考のための言葉や読み書きの発達について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第11回	遊びの発達	(内 容) 遊びの発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第12回	発達障がいの理解	(内 容) 発達障がいや発達検査について基礎的な内容を知る。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第13回	発達に応じた援助	(内 容) 保育事例より、子どもの発達や心身の状態をとらえて援助を考える。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第14回	児童期・青年期の発達	(内 容) 児童期・青年期の発達の特徴と発達課題について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第15回	まとめ	(内 容) 授業を振り返り、内容をまとめる。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
オフィスアワー	金曜日 12:30~14:00 (変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)				

授業名	教育心理学 a・b	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Educational Psychology	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	下温湯 まゆみ	対象学生	幼児教育 2ya～yg・yh～yn		
授業の概要	乳幼児期は、遊びや生活体験を通して、学ぶ喜びや楽しさを経験し、学ぶ態度の基礎を育む時期である。本授業では、学びに関する心理学の知識を習得し、教育の方法を理解し、保育実践に活かせる力を身につける。講義が中心ではあるが、保育・教育現場の事例や学生の実習体験のエピソードや視聴覚教材などを随時取り入れながら、具体的に学んでいく。				
学習成果到達目標	1) 学びに関する心理学の知識を習得し、教育の方法を理解する。 2) 教育心理学の知識を用いて子ども理解を深め、自分なりの対応方法を考える。 3) 保育者になるために、学生自身が学ぶ必要性を認識し、学ぶ態度を培う。				
評価方法	定期試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	使用しない。				
参考書	授業中に随時紹介する。				
留意事項	授業は配付資料を使ってすすめる。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	保育と教育心理学	(内 容) 教育心理学の目的 発達と学びのかかわり 保育者の教育観 (必要な準備)			
第2回	学びにかかわるころの働き 1 学習のしくみ	(内 容) 学習の定義 成熟と学習 条件づけ学習 観察学習 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第3回	学びにかかわるころの働き 2 学習の意欲	(内 容) 動機づけの定義 内発的動機づけ (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第4回	学びにかかわるころの働き 3 内発的動機づけ	(内 容) 知的好奇心 達成動機 コンピテンス動機づけ 自己決定感 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第5回	学びにかかわるころの働き 4 学ぶ楽しさ	(内 容) 原因帰属 学習性無力感 幼児期の学びの特徴 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第6回	学びにかかわるころの働き 5 記憶のしくみ	(内 容) 記憶の過程 二重貯蔵モデル 忘却 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第7回	学びにかかわるころの働き 6 記憶の発達	(内 容) 記憶の方法 記憶能力の発達 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第8回	学びにかかわるころの働き 7 思考の発達	(内 容) 思考とは 認知・思考の発達 心の理論 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第9回	幼児期における文字の学習・数の学習	(内 容) 遊びや生活の中で獲得する読み書き・数概念 (必要な準備) 前回までの復習プリントの提出			
第10回	学びの支援 1 指導法	(内 容) プログラム学習 発見学習 有意味受容学習 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第11回	学びの支援 2 保育のねらいと環境設定	(内 容) 適性処遇交互作用 発達の最近接領域 TT 縦割り保育 グループ編成の方法 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第12回	学びの支援 3 学ぶところを育てる人間関係	(内 容) 親子関係と意欲 学ぶところを育てる保育者のかかわり (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第13回	発達とところの問題への支援 1 保育カウンセラーとカウンセリングマインド	(内 容) カウンセリングマインドを学ぶ (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第14回	発達とところの問題への支援 2 気になる子ども・発達障がいの子どもの支援	(内 容) 支援が必要な子どもの理解と対応 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第15回	まとめ	(内 容) 授業を振り返り、内容をまとめる。 (必要な準備) 前回までの復習プリントの提出			
オフィスアワー	金曜日 12:30～14:00 (変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)				

授業名	総合演習 I ya	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior Seminar I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	浅田 瞳	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	少子高齢化、情報化、国際化の進む現代において、幼児と自然や人とのかかわりは様変わりし、子ども自身の遊びや幼児の人格も変化している。家庭、地域、幼稚園・保育園に問われる子どもの育ちについて調べたり遊びの教材研究をしたりし、発表・討議・分析を通じ、幼児教育についての理解を深める。				
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける 3) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる				
評価方法	定期試験 () % <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	使用しない。				
参考書	使用しない。				
留意事項	演習形式で、直接体験を学生自身が自ら計画・実践し、グループ研究を土台に、積極的に発言、意見交換し、各自が課題意識をもちながらすすめる。日頃より、幼児教育及び乳幼児と環境との関連について関心をもつことが望ましい。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	はじめに 自己紹介 演習の目標と方法	(内 容) 演習の目標と方法について話をする。 (必要な準備) 筆記用具			
第2回	課題についての問題意識の発見と計画	(内 容) 目標と方法について話し合い課題についての問題意識の発見を促す。 (必要な準備) 筆記用具			
第3回	子どもの育ちと環境(絵本を読んで創作絵本、パネルシアター、エプロンシアターを考える)	(内 容) 話し合い課題について自分の生育より問題意識の発見を促す。 (必要な準備) 筆記用具			
第4回	子どもの育ちと環境	(内 容) 幼児の大切なことを話し合い、計画を立てる。 (必要な準備) 必要なものを話しあう			
第5回	体験学習による事例研究か教材研究①制作	(内 容) 具体的に研究したり制作したりする。 (必要な準備) 必要なものは準備、個人での必要物は個人で準備			
第6回	体験学習による事例研究か教材研究②リズム	(内 容) 具体的に研究したり制作したりする。 (必要な準備)			
第7回	体験学習による事例研究か教材研究③音楽	(内 容) 具体的に研究したり制作したりする。 (必要な準備)			
第8回	体験学習による事例研究か教材研究④ゲーム	(内 容) 具体的に研究したり制作したりする。 (必要な準備)			
第9回	体験学習による事例研究か教材研究⑤素話	(内 容) 具体的に研究したり制作したりする。 (必要な準備)			
第10回	体験学習による事例研究か教材研究⑥集団遊び	(内 容) 具体的に研究したり制作したりする。 (必要な準備)			
第11回	体験学習による事例研究か教材研究⑦早期教育	(内 容) 具体的に研究したり制作したりする。発表の仕方の練習 (必要な準備)			
第12回	具体的事例か教材研究の発表・討議①造形	(内 容) 具体的に研究したか制作したことについて発表・討議する。 (必要な準備) 評価表			
第13回	具体的事例か教材研究の発表・討議②人間関係	(内 容) 具体的に研究したか制作したことについて発表・討議する。 (必要な準備) 評価表			
第14回	具体的事例か教材研究の発表・討議③言葉	(内 容) 具体的に研究したか制作したことについて発表・討議する。 (必要な準備) 評価表			
第15回	まとめ	(内 容) 研究したり制作したことについて反省する。 (必要な準備) 反省記入用紙			
オフィスアワー	第1回目の授業にて告知。				

授業名	総合演習 I yb	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior Seminar I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	乾 真理子	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	子どもたちの成長に適した教材研究を行う。実際に製作、発表、意見交換をとおして、教材研究のあり方、理解を深めていく。また、幼児を取り巻く現状の問題点を探る。				
学習成果到達目標	1) 乳幼児期の人間形成に重要な役割を担う自覚を持つことができる。 2) 学内外において、教育・保育の体験を積み重ね専門知識の幅を広げ、実践力を身に付けることができる。 3) 他者との協調を図り、豊かな人間関係を築くことができる。				
評価方法	定期試験 () % <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> ()	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> ()
テキスト	なし				
参考書	適宜提示する。				
留意事項	積極的な授業へのかかわりを重視する。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	ガイダンス	(内 容) (必要な準備)	授業の進め方などについて説明・自己紹介。 シラバスを読んでおく。		
第2回	校外学習	(内 容) (必要な準備)	自然観察・地域社会への理解を深める。 見学先の下調べをしておく。		
第3回	教材研究	(内 容) (必要な準備)	関心のあるテーマの内容を詳しく調べる。 実習をふり返る。		
第4回	教材研究（製作）	(内 容) (必要な準備)	テーマにそくした教材の製作。 材料の事前確保。		
第5回	教材研究（製作）	(内 容) (必要な準備)	テーマにそくした教材の製作。 材料の事前確保。		
第6回	教材研究（発表）	(内 容) (必要な準備)	製作した教材の実践方法を検討、意見交換をする。 発表に必要な準備。		
第7回	教材研究（発表）	(内 容) (必要な準備)	製作した教材の実践方法を検討、意見交換をする。 発表に必要な準備。		
第8回	保育にかかわる資料講読	(内 容) (必要な準備)	実習に向けて保育の現状を理解し、各自の問題意識を高める。 プリントを読んでおく。		
第9回	課題研究（調査）	(内 容) (必要な準備)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する。 調査した内容をまとめておく。		
第10回	課題研究（調査）	(内 容) (必要な準備)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する。 調査した内容をまとめておく。		
第11回	課題研究（調査）	(内 容) (必要な準備)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する。 調査した内容をまとめておく。		
第12回	課題研究（調査）	(内 容) (必要な準備)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する。 調査した内容をまとめておく。		
第13回	課題研究（発表）	(内 容) (必要な準備)	調査内容の発表。 発表に必要な準備。		
第14回	課題研究（発表）	(内 容) (必要な準備)	調査内容の発表。 発表に必要な準備。		
第15回	まとめ	(内 容) (必要な準備)	授業をふりかえり、今後の課題を検討する。		
オフィスアワー	初回に提示する				

授業名	総合演習 I yc	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior Seminar I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	小川 隆昭	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	様々な楽器や子どものうた等、手遊びも交え音楽表現を深める。				
学習成果 到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 3) 自らの学びを振り返り社会に貢献する自己の役割を自覚できる。				
評価方法	定期試験 (20 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技		平常試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技		
評価基準	主たる評価の 観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (音楽表現能力) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	使用しない。				
参考書	使用しない。				
留意事項					
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	ガイダンス		(内 容) 春学期授業内容の説明。 (必要な準備) シラバス		
第2回	保育実習反省会		(内 容) 春休みに行った実習の反省会。 (必要な準備) 実習をふりかえっておく。		
第3回	保育実習反省会		(内 容) 春休みに行った実習の反省会。 (必要な準備) 実習をふりかえっておく。		
第4回	歌唱・手遊び		(内 容) 子どものうたの歌唱と手遊び指導。 (必要な準備)		
第5回	歌唱・手遊び		(内 容) 子どものうたの歌唱と手遊び指導。 (必要な準備)		
第6回	教育実習準備		(内 容) 実習園で弾くピアノ伴奏などのアドバイス。 (必要な準備) ピアノ伴奏練習すること。		
第7回	教育実習準備		(内 容) [教育実習準備] 継続 (必要な準備) ピアノ伴奏練習すること。		
第8回	教育実習準備		(内 容) [教育実習準備] 継続 (必要な準備) ピアノ伴奏練習すること。		
第9回	楽器指導		(内 容) 楽器の使い方。 (必要な準備)		
第10回	楽器指導		(内 容) 合奏 (必要な準備)		
第11回	楽器指導		(内 容) 発表 (必要な準備) 発表の練習・準備をしておく。		
第12回	指導実践		(内 容) 他の学生を子どもに見立てて指導の仕方を実践。 (必要な準備)		
第13回	指導実践		(内 容) 継続 (必要な準備)		
第14回	指導実践		(内 容) 継続 (必要な準備)		
第15回	まとめ		(内 容) 春学期の反省 (必要な準備)		
オフィス アワー	後日研究室前に掲示。				

授業名	総合演習 I yd	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior Seminar I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	岸 優子	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	実習を経験して見えてきた自分自身の研究課題を客観的にとらえ、子ども理解と保育実践の力を、より確実に身につける。また、ゼミ生同士が積極的に交流を図り、お互いを高め合い、一人一人が集団作りを担うことが出来るようにする。				
学習成果到達目標	1) 乳幼児期の教育・保育における〈ひと環境〉の重要性について理解を深める。 2) 人間性豊かで、豊かな感性や知性、表現力を身につけ、自分らしい保育者像をイメージ出来る。 3) 自らの学びを振り返り、社会に貢献出来る自らの役割を明確化する。				
評価方法	定期試験 (20%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (80%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (協調性) <input checked="" type="checkbox"/> (リーダーシップ)			
テキスト	原田正文編著『親子の絆づくりプログラム 赤ちゃんがきた!』第2版 (日本BPプログラムセンター、2014)				
参考書	随時、必要に応じて紹介する。				
留意事項	無断欠席しないように、事前の連絡をすること。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション 自己紹介	(内 容) ゼミの目的・内容・進め方を理解する。 (必要な準備) 自己紹介の内容を考えてくる。			
第2回	実習体験交流会	(内 容) 実習体験を語り合い、意見交換をする。 (必要な準備) 実習で印象に残ったことをまとめておく。			
第3回	フィールドワーク(1)	(内 容) 学校周辺を散策し、身近な教材研究をする。 (必要な準備) 動きやすい服装で参加する。			
第4回	保育内容の研修①	(内 容) 保育場面での保育者の役割を演じる。 (必要な準備) 絵本・手遊びなどを練習してくる。			
第5回	保育内容の研修②	(内 容) 子育て支援場面での保育者の役割を演じる。 (必要な準備) 絵本・手遊びなどを練習してくる。			
第6回	フィールドワーク(2)	(内 容) 保育教材研究の研修をする。 (必要な準備) 事前に計画を立て情報を収集する。			
第7回	教材研究と制作①	(内 容) 絵本や紙芝居の読み聞かせを練習する。 (必要な準備) 必要な資料や材料を準備する。			
第8回	教材研究と制作②	(内 容) 絵本や紙芝居の読み聞かせを練習する。 (必要な準備) 必要な資料や材料を準備する。			
第9回	フィールドワーク(3)	(内 容) 子育て支援教材研究の研修をする。 (必要な準備) 必要な資料や情報を収集しておく。			
第10回	教材研究と制作③	(内 容) 絵本や紙芝居の読み聞かせを練習する。 (必要な準備) 必要な資料や材料を準備する。			
第11回	フィールドワーク(4)	(内 容) 身近な自然を体験し、教材の研究をする。 (必要な準備) 動きやすい服装で参加する。			
第12回	制作発表	(内 容) 各自制作した絵本を発表し、全員で合評会。 (必要な準備) 発表準備をしてくる。			
第13回	個人面談①	(内 容) 学生生活全般・進路などについて相談する。 (必要な準備) 面接練習			
第14回	個人面談②	(内 容) 学生生活全般・進路などについて相談する。 (必要な準備) 面接練習			
第15回	まとめ 秋学期に繋ぐ課題の明確化	(内 容) 春学期を振り返り今後の取り組みを考える。 (必要な準備) 春学期の取り組みについてまとめておく。			
オフィスアワー	月曜日・火曜日 12時10分から13時				

授業名	総合演習 I ye	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior Seminar I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	坂口 みゆき	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	音楽や制作を体験しながら、どのようにして子どもたちに創造的活動を促すことができるのか考える。教育実習・保育実習に向けて、特に音楽的な側面について実践的に学びを深める。				
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身に付ける。 3) 自らの学びを振り返り社会に貢献する自己の役割を自覚できる。				
評価方法	定期試験 (20 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	平常試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	使用しない。				
参考書	使用しない。				
留意事項	まずは、自分自身が音楽を楽しみ、子どもと一緒に楽しむことができるよう学んでいきましょう。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	イントロダクション	(内 容) 春学期授業内容の説明、自己紹介 (必要な準備) シラバス			
第2回	フィールドワーク:大学周辺の散策	(内 容) 大学周辺を散策し春らしい物事に触れる。 (必要な準備) 動きやすい服装と靴、メモ用紙など			
第3回	グループワーク:製作など	(内 容) 前回の散策で受けたインスピレーションを元に、「春らしさ」を子どもに伝えられる方法(製作・音楽など)を考える。グループ単位で意見をまとめ、発表の準備をする。 (必要な準備) 前回のメモ			
第4回	グループワーク:発表	(内 容) 前回準備したプレゼンテーションの実施。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備。			
第5回	教育実習準備①:ピアノと歌	(内 容) 実習で弾く童謡などのピアノ伴奏や弾き歌いの練習とアドバイス。 (必要な準備) 実習で弾くピアノや弾き歌いの練習			
第6回	教育実習準備②:ピアノと歌	(内 容) 前回の続き (必要な準備) 実習で弾くピアノや弾き歌いの練習			
第7回	教育実習準備③:ピアノと歌	(内 容) 前回の続き (必要な準備) 実習で弾くピアノや弾き歌いの練習			
第8回	教育実習準備④:ピアノと歌	(内 容) 前回の続き (必要な準備) 実習で弾くピアノや弾き歌いの練習			
第9回	個別面談①	(内 容) 個別面談(主に実習に向けて、不安や悩みなどの相談を含む) (必要な準備) 相談したいことがあれば考えておく。			
第10回	個別面談②	(内 容) 個別面談(主に実習に向けて、不安や悩みなどの相談を含む) (必要な準備) 相談したいことがあれば考えておく。			
第11回	合奏①:楽器に触れる	(内 容) 様々な打楽器に触れ、鳴らし方を学ぶ。 次回から練習する曲を決める。 (必要な準備) 合奏してみたい曲を考えておく。			
第12回	合奏②:簡単な合奏を体験する	(内 容) 担当楽器を決め、合奏の練習をする。 (必要な準備) 担当したい楽器を考えておく。			
第13回	合奏③:簡単な合奏を完成させる	(内 容) 前回から継続。 (必要な準備) 必要に応じて練習しておく。			
第14回	季節の行事:七夕の制作と演奏	(内 容) 七夕用の笹に飾り付けをする。 「たなばたさま」を合奏する。 (必要な準備) はさみとのり			
第15回	まとめ	(内 容) 春学期の感想、気づいたこと、秋学期に向けての課題などを発表し共有する。 (必要な準備) 発表することを考えておく。			
オフィスアワー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。				

授業名	総合演習 I yf	開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar I	開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	下温湯 まゆみ	対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	実習を経験して見えてきた自分自身の課題について客観的にとらえ、子ども理解と保育実践の力を、より確実に身につける。ゼミ生同士が積極的に交流を図り、お互いを高め合い、集団のひとりとしての自覚をもって活動する。					
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 3) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる。					
評価方法	定期試験 () % <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技				
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> ()		
テキスト	使用しない。					
参考書	随時紹介する。					
留意事項	実習や就職・進路に向けて、落ち着いて臨めるように、随時面談を行う。					
授業計画	学習項目	学習内容・課題				
第1回	オリエンテーション 自己紹介	(内 容) ゼミの目的・内容・進め方を共通理解する。 (必要な準備) 自己紹介の内容を考えてくる。				
第2回	フィールドワーク	(内 容) 京都の春の自然や文化に親しむ。 (必要な準備) 動きやすい服装で参加する。				
第3回	実習体験交流会	(内 容) 実習体験を語り合い、意見交換をする。 (必要な準備) 実習で印象に残ったことをまとめておく。				
第4回	教材研究と制作1	(内 容) 共通のテーマのもと、各自が教材を制作する。 (必要な準備) 必要な資料や材料を準備する。				
第5回	教材研究と制作2	(内 容) 共通のテーマのもと、各自が教材を制作する。 (必要な準備) 必要な資料や材料を準備する。				
第6回	フィールドワーク	(内 容) 遠足のスポットに出かけて体験し、保育者の視点で考える。 (必要な準備) 動きやすい服装で参加する。				
第7回	教材研究と制作3	(内 容) 共通のテーマのもと、各自が教材を制作する。 (必要な準備) 必要な資料や材料を準備する。				
第8回	教材研究と制作4	(内 容) 共通のテーマのもと、各自が教材を制作する。 (必要な準備) 必要な資料や材料を準備する。				
第9回	保育内容の研修1	(内 容) 順番に保育内容を計画し、全員で演習し検討する。 (必要な準備) 担当者は保育内容を計画し指導できるように準備する。				
第10回	保育内容の研修2	(内 容) 順番に保育内容を計画し、全員で演習し検討する。 (必要な準備) 担当者は保育内容を計画し指導できるように準備する。				
第11回	保育内容の研修3	(内 容) 順番に保育内容を計画し、全員で演習し検討する。 (必要な準備) 担当者は保育内容を計画し指導できるように準備する。				
第12回	制作発表	(内 容) 制作した教材を保育形式で発表する。 (必要な準備) 発表準備をしてくる。				
第13回	個人面談	(内 容) 学生生活全般・実習・進路・演習課題などについて (必要な準備)				
第14回	個人面談	(内 容) 学生生活全般・実習・進路・演習課題などについて (必要な準備)				
第15回	まとめ 秋学期の課題について	(内 容) 春学期の演習を振り返り、秋学期の取り組みを考える。 (必要な準備) 春学期の取り組みについてまとめておく。				
オフィスアワー	金曜日 12:30~14:00 (変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)					

授業名	総合演習 I yg	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior Seminar I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	鈴木 えり子	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	乳幼児の保育活動を実践的にイメージし保育者としての資質を向上させる。 様々な角度から子どもを取り巻く環境について体験を通して考える機会をもつ。				
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 3) 自らの学びを振り返り社会に貢献する自己の役割を自覚できる。				
評価方法	定期試験 () % <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 ()			
テキスト	使用しない。				
参考書	随時提示する				
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション 自己紹介	(内 容) 総合演習の目的・方法について、講義内容の説明と相互交流 (必要な準備)			
第2回	フィールドワーク	(内 容) 自然環境をリサーチする (必要な準備) 歩きやすい服装で参加する。			
第3回	保育教材研究 ① 身近な素材研究	(内 容) 身近な素材を使った保育教材を考える (必要な準備) 身近な素材とは何かを考えてくる			
第4回	保育教材研究 ② 発表内容をまとめる	(内 容) 発表内容をまとめる (必要な準備) 身近な素材を収集しておく			
第5回	保育実践 発表 ① (参加型)	(内 容) グループで実践発表する。発表内容をともに体験し意見交換しながら進める (必要な準備) 提示された必要な材料を準備してくる			
第6回	保育実践 発表 ② (参加型)	(内 容) グループで実践発表する。発表内容をともに体験し意見交換しながら進める。 (必要な準備) 提示された必要な材料を準備してくる			
第7回	保育実践 発表 ③ (参加型)	(内 容) グループで実践発表する。発表内容をともに体験し意見交換しながら進める。 (必要な準備) 提示された必要な材料を準備してくる			
第8回	フィールドワーク (動物園見学)	(内 容) 春の遠足先である動物園へ行く (必要な準備) 動きやすい服装で参加する			
第9回	個別課題を設定する	(内 容) 個別課題を決定し計画をたてる (必要な準備) 資料収集など事前にテーマを考えてくる			
第10回	個別課題の取り組みについて	(内 容) 個別課題に取り組む (必要な準備) 資料など必要なものを持ってくる			
第11回	個別課題に取り組む①	(内 容) 個別課題を進める (必要な準備) 発表について振り返っておく			
第12回	個別課題に取り組む②	(内 容) 個別課題を進める (必要な準備) 発表について振り返っておく			
第13回	個人課題の取り組み確認	(内 容) 各自の状況を把握し、指導を実施する (必要な準備) 課題を仕上げしておく			
第14回	個別課題のまとめ	(内 容) 個別課題を発表、自己評価反省を行う。 (必要な準備) 課題をまとめて発表準備をする			
第15回	まとめ 秋学期の課題について	(内 容) まとめ。秋学期に向けての課題 (必要な準備) 自分の意見を考えてまとめておく			
オフィスアワー	月曜日 午後15時から17時				

授業名	総合演習 I yh	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	History Seminar I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	土井 哲治	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	各自のテーマを設定し、秋学期にまとめ上げる準備を十分に行う。調査・資料収集の方法や考究の仕方に重点を置いて、訓練してゆく。				
学習成果到達目標	1) 調査・資料収集の方法と考究の仕方が習得できている。 2) 他者の意見と自分の意見を明確に区別して、説明できる。				
評価方法	定期試験 (40 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (60 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	<input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()		
テキスト	なし。				
参考書	なし。				
留意事項	各自が自分の課題に主体的に取り組むことを求める。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	導入	(内 容) 授業の進め方について (必要な準備)			
第2回	教育・保育に関連する法令を読む・基礎	(内 容) 法令を読むための基本事項について (必要な準備) 指定した資料の用意			
第3回	幼児教育に関連する法令を読む	(内 容) 幼児教育に関連する法令を読む (必要な準備) 不明箇所を明確にしておく			
第4回	保育所に関連する法令を読む	(内 容) 保育所に関連する法令を読む (必要な準備) 知りたいことの用意			
第5回	各自で法令を調べよう・調査	(内 容) 各自のテーマについて調査 (必要な準備) テーマの設定			
第6回	各自で法令を調べよう・発表	(内 容) 各自のテーマについて発表 (必要な準備) 発表の準備			
第7回	教育・保育に関係するニュースを読む	(内 容) 新聞のニュースを選び出す (必要な準備) ニュースの調査			
第8回	ニュースについて発表・討議	(内 容) ニュースについて討議 (必要な準備) 発表の準備			
第9回	ニュースについて再発表・再討議	(内 容) ニュースについて再討議 (必要な準備) 発表の再準備			
第10回	別のニュースについて発表・討議	(内 容) ニュースについて討議 (必要な準備) 発表の準備			
第11回	ニュースについて再発表・再討議	(内 容) ニュースについて再討議 (必要な準備) 発表の再準備			
第12回	幼児教育・保育の今日的課題	(内 容) 各自の課題設定について (必要な準備) 大まかな課題の設定			
第13回	課題について発表・指導	(内 容) 各自の課題について指導 (必要な準備) 問題意識の取りまとめ			
第14回	課題決定	(内 容) 各自の課題の決定 (必要な準備) 内容について表明する用意			
第15回	まとめ	(内 容) 授業の総括・夏休みの学習について (必要な準備)			
オフィスアワー	木曜日午後 15 時から 18 時まで				

授業名	総合演習 I yi	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior Seminar	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	名賀 亨	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	保育者としての自覚を深める。 教育に携わる者としての幅広い知識と教養を身につける。 視野を広げ多様な保育や幼児教育にも関心を広げる。				
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育、保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 3) 自らの学びを振り返り社会に貢献する自己の役割を自覚できる。				
評価方法	定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input "="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checkbox"="" type="checkbox/>(</td> <td><input type="/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 5"="" type="checkbox/)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> プリント			
参考書	随時提示する				
留意事項	積極的に取り組み、学習成果を発表する。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション、本講義の目的、自己紹介、学習の進め方	(内容) 講義の目的を理解し学習の進め方を理解する (必要な準備) 各自のファイルとノートを用意する			
第2回	1年間の学習計画の作成	(内容) 実習体験をふりかえり1年の学習を考える (必要な準備) 実習での体験をふりかえる			
第3回	図書館の利用について学ぶ	(内容) 図書館で参考文献を探し活用方法を学ぶ。 (必要な準備) 実習での体験をふりかえる			
第4回	学外授業	(内容) 大学周辺の史跡、文化施設の見学 (必要な準備) あらかじめ訪問施設について調べておく			
第5回	各自の研究テーマを計画する、文献の収集	(内容) 自分自身の研究計画を考える (必要な準備) 文献リストを作成して整理しておく			
第6回	各自の研究テーマを計画する、文献の収集	(内容) 自分自身の研究計画を考える (必要な準備) 文献の概要をまとめる			
第7回	各自の研究テーマを計画する、文献の収集	(内容) 自分自身の研究計画を考える (必要な準備) 文献の概要をまとめておく			
第8回	各自の研究テーマを計画する、文献の収集	(内容) 自分自身の研究計画を考える (必要な準備) 文献の概要をまとめておく			
第9回	個別に学習の進捗状況の確認	(内容) 学習が計画的に進んでいるか確認 (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく			
第10回	個別に学習の進捗状況の確認	(内容) 学習が計画的に進んでいるか確認 (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく			
第11回	個別に学習の進捗状況の確認	(内容) 学習が計画的に進んでいるか確認 (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく			
第12回	個別に学習の進捗状況の確認	(内容) 学習が計画的に進んでいるか確認 (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく			
第13回	春学期の反省	(内容) 春学期の振り返り、夏期休業中の学習の計画 (必要な準備) 振り返り内容を確認しておく			
第14回	春学期の反省	(内容) 春学期の振り返り、夏期休業中の学習の計画 (必要な準備) 振り返り内容を確認しておく			
第15回	春学期の反省	(内容) 春学期の振り返り、夏期休業中の学習の計画 (必要な準備) 振り返り内容を確認しておく			
オフィスアワー	水曜日 昼休み				

授業名	総合演習 I yj	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior Seminar I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	堀出 雅人	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	1年生時の授業や実習から保育者としての自らの強みと課題を分析し、実践力の向上にむけて、①一人ずつテーマを設定する課題解決的な学び、②共通の問題意識をもったグループでの協調的な学び、③ゼミ生全員で取り組む各種活動を通して、子どもへの理解を深め、保育者としての実践力を、より確実に身につける。その過程で、ほかのゼミ生への学びの貢献によって相互に高める関係づくりを通して、現場で求められる同僚性を獲得する。				
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について説明することができる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につけることができる。 3) 自らの学びを振り返り社会貢献する自己の役割を自覚できる。				
評価方法	定期試験 () % <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	適宜、担当者が作成したプリントを配付する				
参考書	適宜、紹介する				
留意事項	授業中の質疑応答を積極的に行うことを期待する。学期中に2～3回課題を設定しレポート・制作物を提出してもらう。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方とテーマの設定 (必要な準備)			
第2回	問題意識をつかむ	(内 容) ブレイン・ストーミングにより課題発見 (必要な準備) 前時の復習			
第3回	問題意識の整理	(内 容) マインドマップによる問題意識の整理 (必要な準備) 前時の復習			
第4回	研究テーマの明確化	(内 容) ワールド・カフェ形式で見通しをもつ (必要な準備) 完成したマインドマップ			
第5回	子ども関係の社会教育施設への見学	(内 容) 子育てを支援する施設の機能を理解する (必要な準備) ホームページなどで情報収集			
第6回	資料収集	(内 容) 問題意識の近い者でグループになり資料集め (必要な準備) 研究テーマをまとめたワークシート			
第7回	資料整理	(内 容) 集めた資料を整理し発表の役割分担 (必要な準備) 前時に収集した資料			
第8回	発表資料の作成	(内 容) 役割分担に基づきグループ発表資料作成 (必要な準備) 前時にまとめた工程表			
第9回	子どもの遊びを考える	(内 容) 子どものさまざまな遊びを全体で研究 (必要な準備) 遊びの提案			
第10回	グループ発表①	(内 容) グループによる発表・討議 (必要な準備) グループ発表の資料			
第11回	グループ発表②	(内 容) グループによる発表・討議 (必要な準備) グループ発表の資料			
第12回	グループ発表③	(内 容) グループによる発表・討議 (必要な準備) グループ発表の資料			
第13回	映像から子ども理解を深める	(内 容) 映像教材をみて子どもの視点をまとめる (必要な準備) グループ発表のふりかえりシート			
第14回	個人レポートの作成	(内 容) 今期追究したテーマをレポートにまとめる (必要な準備) これまでの研究ノート			
第15回	レポート発表と総括	(内 容) 各自の研究成果に対する総括 (必要な準備) 個人発表資料			
オフィスアワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み（研究室：1号館3階）				

授業名	総合演習 I yk	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior Seminar I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	山部 泰司	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	パネルシアターなどの劇表現や壁面構成によって造形力、表現の力を身につける。 また、教材研究として造形関連の指導案、作品制作などを行う。 お互いのよいところに気付き、集団で活動するためのコミュニケーション能力を高める。				
学習成果到達目標	1) 子どものためのストーリー、表現等をよく考え、制作して演じる力を身につける。 2) 造形材料、色や形から教材研究する力をつける。 3) 仲間の取り組みから学び、それぞれの表現の良さを発見する。				
評価方法	定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	使用しない。				
参考書	必要に応じて指示する。				
留意事項	造形活動にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい気持ちを忘れないこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業についての概要説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく			
第2回	劇表現の取り組み①	(内 容) パネルシアターの構想を練る (必要な準備) 劇表現にするアイデアを考えておく			
第3回	劇表現の取り組み②	(内 容) パネルシアターに用いる人形の制作を始める (必要な準備) 制作に必要な資料を持参する			
第4回	劇表現の取り組み③	(内 容) パネルシアターに用いる人形の制作を進める (必要な準備) 新たに必要なものを持参する			
第5回	劇表現の取り組み④	(内 容) 人形を仕上げ、発表練習などをする (必要な準備) 大まかな時間の流れを考えておく			
第6回	劇表現の取り組み⑤	(内 容) パネルシアターの発表と鑑賞 (必要な準備) 発表練習をしておく			
第7回	実習報告会	(内 容) 教育実習の反省・報告 (必要な準備) 自分の実習について振り返っておく			
第8回	フィールドワーク①	(内 容) ギャラリーをまわる (必要な準備) 歩きやすい服装			
第9回	フィールドワーク②	(内 容) 作品についてのレポート (必要な準備) つくる人の言葉をインタビューする			
第10回	教材研究①	(内 容) テーマの設定 (必要な準備) 材料、技法を調べておく			
第11回	教材研究②	(内 容) 参考作品の制作 (必要な準備) 細部のアイデアを考えておく			
第12回	教材研究③	(内 容) 指導案づくり (必要な準備) 仕上がりの様子を考えておく			
第13回	教材研究④	(内 容) 発表会 (作品の鑑賞 取り組みの評価) (必要な準備) 自分の作品や取り組みについてまとめる			
第14回	秋学期の取り組みに向けて	(内 容) 絵本づくりについて (必要な準備) お気に入りの絵本を持ち寄る			
第15回	まとめ	(内 容) 春学期授業の振り返り (必要な準備) 授業で学んだことをまとめておく			
オフィスアワー	学生の希望により決定し、緊急室前に掲示する。				

授業名	総合演習 I yl	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior Seminar I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	山本 明美	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	1年生時の授業や実習から保育者としての自らの強みと課題を分析し、実践力の向上を図る。特に、食を通じて健康な心と体を育て、自らが健康で安全な生活を作り出す能力を養う必要がある。食嗜好や朝食の欠食、咀嚼力の低下等の多様な問題点を理解し、解決するため保育者としての実践力を習得する。				
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について説明することができる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身に付けることができる。 3) 自らの学びを振り返り社会貢献する自己の役割を自覚できる。				
評価方法	定期試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	使用しない。				
参考書	使用しない。				
留意事項	授業中の質疑応答を積極的に行い、学期中に2～3回課題を設定し提出してもらう。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 自己紹介 (必要な準備) シラバスを読んでおく			
第2回	発表(1)	(内 容) 保育実習での学びと気づいたこと (必要な準備) 実習を振り返っておく			
第3回	発表(2)	(内 容) 保育実習での学びと気づいたこと (必要な準備) 実習を振り返っておく			
第4回	フィールドワーク	(内 容) 大学周辺を散策する (必要な準備) 大学周辺の地図を確認しておく			
第5回	研究課題の検討	(内 容) 興味ある課題を考えておく (必要な準備) ホームページなどで情報収集			
第6回	資料収集	(内 容) 問題意識の近い者でグループになり資料集め (必要な準備) 研究テーマをまとめたワークシート			
第7回	資料整理	(内 容) 集めた資料を整理し発表の役割分担 (必要な準備) 前時に収集した資料			
第8回	発表資料の作成	(内 容) 役割分担に基づきグループ発表資料作成 (必要な準備) 前時にまとめた工程表			
第9回	子どもの遊びを考える	(内 容) 子どものさまざまな遊びを全体で研究 (必要な準備) 遊びの提案			
第10回	グループ発表①	(内 容) グループによる発表・討議 (必要な準備) グループ発表の資料			
第11回	グループ発表②	(内 容) グループによる発表・討議 (必要な準備) グループ発表の資料			
第12回	グループ発表③	(内 容) グループによる発表・討議 (必要な準備) グループ発表の資料			
第13回	映像から子ども理解を深める	(内 容) 映像教材をみて子どもの視点をまとめる (必要な準備) グループ発表のふりかえりシート			
第14回	個人レポートの作成	(内 容) 今期追究したテーマをレポートにまとめる (必要な準備) これまでの研究ノート			
第15回	レポート発表と総括	(内 容) 各自の研究成果に対する総括 (必要な準備) 個人発表資料			
オフィスアワー	木曜日 午後16時から18時まで				

授業名	総合演習Ⅱ ya	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	浅田 瞳	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	総合演習Ⅰで学んだことを基礎に、子育てと環境とのかかわりについて、自分が問題とする課題のもと研究をすすめる。その間、中間発表をしながら討議・分析を重ね、課題について、幼児の人間としての育ちを援助するための方法・技術を考え、保育者としての役割の重要性を自覚する。				
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける 3) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる				
評価方法	定期試験 () (%)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input "="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 ()			
テキスト	使用しない。				
参考書	使用しない。				
留意事項	課題にそってグループ研究を進め、レポートとしてまとめ発表する。授業への積極的参加を求めます。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	休暇中の課題の発表と討議		(内 容) 休暇中の課題の発表と討議 (必要な準備)		
第2回	各自の課題の絞り込み①資料の収集		(内 容) 各自の課題の絞り込みのために意見交換をする。 (必要な準備)		
第3回	各自の課題の絞り込み②パワーポイント作成		(内 容) 各自の課題の絞り込みのために意見交換をする。 (必要な準備)		
第4回	課題による研究・実践①実習での課題		(内 容) 課題による研究・実践をするための教材の計画や準備をする。 (必要な準備) 各自教材・資料を持参する。		
第5回	課題による研究・実践②子どもたちの支援		(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備)		
第6回	課題による研究・実践③早期教育の功罪		(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備)		
第7回	課題による研究・実践④教材研究		(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備)		
第8回	課題による研究・実践⑤環境構成と発達		(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備)		
第9回	課題による研究・実践⑥制作と遊び		(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備)		
第10回	課題による研究・実践⑦人間関係の構築		(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備)		
第11回	課題の発表・討議①ディベート		(内 容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (必要な準備)		
第12回	課題の発表・討議②KJ法を用いた要約		(内 容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (必要な準備)		
第13回	課題の発表・討議③シンポジウム形式の発表		(内 容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (必要な準備)		
第14回	課題の発表・討議④幼児教育の方向性		(内 容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (必要な準備)		
第15回	レポート作成にむけて		(内 容) レポートを作成するための留意点について解説する。 (必要な準備) これまでの発表資料を持参すること。		
オフィスアワー	第1回目の授業にて告知。				

授業名	総合演習Ⅱyb	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	乾 真理子	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	自分の興味のあることからテーマを選び、深く掘り下げて考える。調べたことをわかりやすくまとめ、パワーポイントを使って発表する。				
学習成果到達目標	1) 社会に対する責任感・自己の役割を果たす努力ができ、社会的責任を自覚できる。 2) 学内外において、教育・保育の体験を積み重ね専門知識の幅を広げ、実践力を身につけることができる。 3) 自己の意見を的確に表明でき、他者と対話ができ、社会的責任を自覚できる。				
評価方法	定期試験 () % <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	なし				
参考書	適宜提示する				
留意事項	積極的な態度を重視する				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス	(内 容) (必要な準備)	授業の進め方などについて説明する シラバスを読んでおく		
第2回	課題の検討	(内 容) (必要な準備)	関心のある事柄について、概要を調べる プリントを読んでおく		
第3回	テーマ発表	(内 容) (必要な準備)	決定したテーマを発表する テーマの検討		
第4回	個別指導	(内 容) (必要な準備)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する 資料収集と整理		
第5回	個別指導	(内 容) (必要な準備)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する 資料収集と整理		
第6回	学外研修	(内 容) (必要な準備)	芸術に親しみ、感性を養う 見学先の予習		
第7回	個別指導	(内 容) (必要な準備)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する 資料収集と整理		
第8回	個別指導	(内 容) (必要な準備)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する 資料収集と整理		
第9回	個別指導	(内 容) (必要な準備)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する 資料収集と整理		
第10回	個別指導	(内 容) (必要な準備)	レポートの組み立てについて個別に指導する レポートの組み立てを考える		
第11回	発表原稿作成 (図・写真の貼り付け)	(内 容) (必要な準備)	パワーポイントによって原稿を作成する 資料の整理		
第12回	発表原稿作成 (構成・内容整理)	(内 容) (必要な準備)	パワーポイントによって原稿を作成する 資料の整理		
第13回	発表	(内 容) (必要な準備)	調査内容の発表 パワーポイント完成		
第14回	発表	(内 容) (必要な準備)	調査内容の発表 パワーポイント完成		
第15回	レポート作成・提出	(内 容) (必要な準備)	レポートを完成させて提出する		
オフィスアワー	初回に提示する				

授業名	総合演習Ⅱyc	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	小川 隆昭	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	幼稚園・保育所などでは様々な行事が行われるが、生活発表もその中で重要な位置を占める。最近では園外での合奏発表なども盛んである。そこでこの授業では、どの楽器をどのように使えば有効かなど、曲選び・アレンジを中心に、保育現場での実践的な指導を研究する。				
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 3) 自らの学びを振り返り社会に貢献する自己の役割を自覚できる。				
評価方法	定期試験 (20%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技		平常試験 (80%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技		
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> 音楽表現能力) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	使用しない。				
参考書	使用しない。				
留意事項	自分たちだけが合奏を楽しむのではなく、合奏することの楽しさを、いかに子どもたちに伝えるかを各自考察してほしい。そして何より保育現場で役立つように。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス、実習反省会、合奏指導実践準備	(内 容) 授業内容の説明、夏休みに行った実習の反省会。 (必要な準備) 実習の感想を考えてくる			
第2回	実習反省会、合奏指導実践(グループ発表)	(内 容) 個々の幼児用楽器の演奏法を練習。 (必要な準備) グループで練習			
第3回	合奏指導実践(グループ発表)	(内 容) 個々の幼児用楽器の演奏法を練習。 (必要な準備) グループで練習			
第4回	合奏指導実践(グループ発表)	(内 容) 個々の幼児用楽器の演奏法を練習。 (必要な準備) グループで練習			
第5回	個別相談	(内 容) 就活の相談 (必要な準備)			
第6回	就職試験に向けて	(内 容) 履歴書・自己PR・模擬面談・ピアノ (必要な準備)			
第7回	就職試験に向けて	(内 容) 履歴書・自己PR・模擬面談・ピアノ (必要な準備)			
第8回	合奏指導実践	(内 容) 他の学生を子どもに見立てて、合奏指導。 (必要な準備) 合奏指導練習			
第9回	合奏指導実践	(内 容) 他の学生を子どもに見立てて、合奏指導。 (必要な準備) 合奏指導練習			
第10回	合奏指導実践	(内 容) 他の学生を子どもに見立てて、合奏指導。 (必要な準備) 合奏指導練習			
第11回	合奏指導の基礎知識	(内 容) 生活発表での選曲・アレンジ・記譜法・指揮法。 (必要な準備)			
第12回	個別相談	(内 容) 就活の相談 (必要な準備)			
第13回	合唱・合奏	(内 容) 合唱。クリスマス曲の合奏。 (必要な準備)			
第14回	合唱・合奏	(内 容) 合唱。クリスマス曲の合奏。 (必要な準備)			
第15回	まとめ	(内 容) 短大2年間で学んだこと。 (必要な準備)			
オフィスアワー	後日研究室前に掲示。				

授業名	総合演習Ⅱyd	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	岸 優子	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	すべての実習を終了し見えてきた自分自身の研究課題を総合的にとらえ、問題意識を持って研究に取り組む。また、ゼミ生同士が積極的に交流を深め、意見を交換し高め合い、一人一人が集団作りを担うことが出来るようにする。				
学習成果到達目標	1) 乳幼児期の教育・保育における〈ひと環境〉の重要性について理解を深める。 2) 人間性豊かで、繊細な感性を持ち、表現力を身につけた保育者をめざす。 3) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を明確にする。				
評価方法	定期試験 (20%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (80%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" checked="" type="checkbox/>(協調性) <input type="/> ()			
テキスト	Nobody's Perfect Japan 監修 カナダ・公衆衛生局著『[完べきな親なんていない] 子どもの感情・親の感情』				
参考書	随時、必要に応じて紹介する。				
留意事項	進路に応じて、自己の持つ能力を最大限に発揮できるように、随時、個人面談を行う。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション 実習体験交流会	(内 容) 実習体験を語り合い、意見交換する。 (必要な準備) 実習で学んだことを具体的にまとめておく。			
第2回	グループ研究課題設定	(内 容) グループの研究課題を設定する。 (必要な準備) 課題と方法について考えておく。			
第3回	フィールドワーク(1)	(内 容) 身近な自然を体験し、教材研究をする。 (必要な準備) 動きやすい服装で参加する。			
第4回	実践力を高める研究①(グループワーク)	(内 容) グループで研究課題を解決する。 (必要な準備) 現代の教育課題の資料を集める。			
第5回	実践力を高める研究②(グループワーク)	(内 容) グループで研究課題を解決する。 (必要な準備) 保育関連の資料を集める。			
第6回	実践力を高める研究③(グループワーク)	(内 容) グループで研究課題を解決する。 (必要な準備) 子育ての資料を集める。			
第7回	グループでの発表と全体討議	(内 容) 発表と討議を行う。 (必要な準備) 発表できるようにまとめておく。			
第8回	フィールドワーク(2)	(内 容) 秋の自然に親しみ、教材研究をする。 (必要な準備) 動きやすい服装で参加する。			
第9回	実践力を高める研究①(個人)	(内 容) 各自が課題研究に取り組む。 (必要な準備) 資料や材料を準備する。			
第10回	実践力を高める研究②(個人)	(内 容) 各自が課題研究に取り組む。 (必要な準備) 資料や材料を準備する。			
第11回	実践力を高める研究③(個人)	(内 容) 各自が課題研究に取り組む。 (必要な準備) 発表に向けてまとめる。			
第12回	フィールドワーク(3)	(内 容) 施設見学し、子どもについての知見を深める。 (必要な準備) 施設内容について事前に調べておく。			
第13回	個人による発表と全体討議①	(内 容) 発表と討議を行う。 (必要な準備) 発表できるようにまとめておく。			
第14回	個人による発表と全体討議②	(内 容) 発表と討議を行う。 (必要な準備) 発表できるようにまとめておく。			
第15回	まとめと振り返りをし、今後につなげる課題を見出す	(内 容) 1年間を振り返り、レポートを作成する。 (必要な準備) 1年間を振り返って、まとめておく。			
オフィスアワー	月曜日・火曜日 12時10分から13時				

授業名	総合演習Ⅱ ye		開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior SeminarⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	坂口 みゆき		対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	音楽を通して子どもと関わり、発達を援助する方法を体験的に学ぶ。まず、自分自身が音楽に親しむことから始め、音楽的創造力を高めた上で、ロールプレイを通して、特に障がいのある子どもとの音楽活動を体験的に学ぶ。また、障がいについて学び、子どもの立場になって子どもを理解しようと努める姿勢を養う。					
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身に付ける。 3) 自らの学びを振り返り社会に貢献する自己の役割を自覚できる。					
評価方法	定期試験 (20%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技		平常試験 (80%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点		<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 6"="" type="checkbox/>()</td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> 適宜資料を配布する。			
参考書	使用しない。					
留意事項	好きな音楽を聞きながら体を動かしたり手拍子を試みたりして、普段から「音楽的」な自分を意識してみましよう。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	イントロダクション		(内 容) 秋学期の授業内容の説明。 (必要な準備)			
第2回	音楽に親しむ		(内 容) 音楽に合わせて体を動かす。ボディーパーカッションなど。 (必要な準備) 動きやすい服装			
第3回	楽器に親しむ		(内 容) 様々な打楽器に触れる。様々なリズムを学ぶ。 音楽に合わせて楽器を鳴らす。 (必要な準備)			
第4回	構造のある即興演奏の体験①		(内 容) 『オルフ＝シュールヴェルク：子どものための音楽』を用いた即興演奏の体験 (必要な準備) オルフ＝シュールヴェルクについて調べておく			
第5回	構造のある即興演奏の体験②		(内 容) 前回からの続き (必要な準備) 前回の復習をしておく			
第6回	障がいについて学ぶ①:		(内 容) 子どもの障がいについて調べ、まとめる (第11回の授業で発表する)。 (必要な準備) どのような障がいがあるか調べておく。			
第7回	学外見学		(内 容) 京都市防災センター見学予定。 (必要な準備) 動きやすい服装・交通費			
第8回	学外見学の事後学習		(内 容) 前回の学外見学の学びについてまとめる。 (必要な準備) 見学先で入手した資料やメモなど			
第9回	個別面談①		(内 容) 就職活動について。課題の進行状況の確認とアドバイス。 (必要な準備) 「子どもの障がいについて」の課題を進めておく。			
第10回	個別面談②		(内 容) 就職活動について。課題の進行状況の確認とアドバイス。 (必要な準備) 「子どもの障がいについて」の課題を進めておく。			
第11回	障がいについて学ぶ②		(内 容) 子どもの障がいについて、調べたことを発表する。 (必要な準備) 「子どもの障がいについて」の課題を完成させておく。			
第12回	障がいのある子どもとの音楽活動の体験①		(内 容) ロールプレイをしながら、オルフ＝シュールヴェルクを元にした構造のある即興的音楽活動を体験する。 (必要な準備) 子どもの障がいについて復習しておく。			
第13回	障がいのある子どもとの音楽活動の体験②		(内 容) ロールプレイをしながら、様々な音楽活動を体験する。 (必要な準備) 子どもの障がいについて復習しておく。			
第14回	障がいのある子どもとの音楽活動の体験③:まとめ		(内 容) 前回からのつづきとまとめ。 (必要な準備) 子どもの障がいについて復習しておく。			
第15回	まとめ		(内 容) 短大2年間の体験や学んだこと、将来の夢などを発表・共有。 (必要な準備) 発表する内容を考えておく。			
オフィスアワー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。					

授業名	総合演習Ⅱyf	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	下温湯 まゆみ	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	すべての実習を終えて見えてきた自分自身の課題や、保育現場の課題、子育てをめぐる社会状況などを総合的にとらえ、課題意識を持って実践研究に取り組む。ゼミ生同士が交流を深め、積極的に意見を交換しながら高め合い、集団作りを担う。				
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 3) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる。				
評価方法	定期試験 () %	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input "="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input "="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 5"="" type="checkbox/>()</td> <td></td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> 使用しない。			
参考書	随時紹介する。				
留意事項	就職・進路に向けて落ち着いて臨めるように、随時個人面談を行う。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション 実習体験交流会	(内 容)	ゼミの内容や進め方を共通理解する。実習体験を語り合い、意見交換する。 (必要な準備) 実習で印象に残ったことをまとめておく。		
第2回	グループ研究課題設定	(内 容)	グループの研究課題を設定する。 (必要な準備) 課題と方法について考えておく。		
第3回	フィールドワーク	(内 容)	遠足のスポットに出かけて体験し、保育者の視点で考える。 (必要な準備) 動きやすい服装で参加する。		
第4回	研究実践1(グループ)	(内 容)	グループで課題研究を進める。 (必要な準備) 資料を集める。		
第5回	研究実践2(グループ)	(内 容)	グループで課題研究を進める。 (必要な準備) 資料を集める。		
第6回	研究実践3(グループ)	(内 容)	グループで課題研究を進める。 (必要な準備) 資料を集める。		
第7回	グループ発表と討議	(内 容)	発表と討議を行う。 (必要な準備) 発表できるようにまとめておく。		
第8回	フィールドワーク	(内 容)	京都の秋の自然や文化に親しむ。 (必要な準備) 動きやすい服装で参加する。		
第9回	研究実践1(個人)	(内 容)	各自が課題研究に取り組む。 (必要な準備) 資料や材料を準備する。		
第10回	研究実践2(個人)	(内 容)	各自が課題研究に取り組む。 (必要な準備) 資料や材料を準備する。		
第11回	研究実践3(個人)	(内 容)	各自が課題研究に取り組む。 (必要な準備) 発表に向けてまとめる。		
第12回	フィールドワーク	(内 容)	教育施設を見学し、教養を深める。 (必要な準備) 施設内容について調べておく。		
第13回	個人発表と討議1	(内 容)	発表と討議を行う。 (必要な準備) 発表できるようにまとめておく。		
第14回	個人発表と討議2	(内 容)	発表と討議を行う。 (必要な準備) 発表できるようにまとめておく。		
第15回	まとめ	(内 容)	1年間を振り返り、レポートを作成する。 (必要な準備) 1年間を振り返って、まとめておく。		
オフィスアワー	金曜日 12:30~14:00 (変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)				

授業名	総合演習Ⅱ yg	開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	鈴木 えり子	対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	総合演習Ⅰで内容を継続し発展させていく。 保育者として自己課題を持ち、他者との意見交流や保育現場での実践体験を通して、実践力を向上させる。					
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 3) 自らの学びを振り返り社会に貢献する自己の役割を自覚できる。					
評価方法	定期試験 () % <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技				
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> ()		
テキスト	使用しない					
参考書	随時提示する					
留意事項						
授業計画	学習項目	学習内容・課題				
第1回	オリエンテーション	(内 容) 総合演習の目的・方法について、講義の内容の確認 (必要な準備)				
第2回	施設見学	(内 容) 施設見学に行く (必要な準備) 見学にふさわしい服装で参加する				
第3回	課題テーマ 発表	(内 容) 各自の課題テーマについて発表。意見交流。 (必要な準備) 課題に向けての計画を考えておく				
第4回	個別指導①	(内 容) 個人のテーマについて個別指導 (必要な準備) 資料収集				
第5回	個別指導②	(内 容) 個人のテーマについて個別指導 (必要な準備) 資料整理				
第6回	個別指導③	(内 容) 個人のテーマのまとめ 指導 (必要な準備) 課題の整理とまとめ 発表準備				
第7回	学外見学	(内 容) 学外の環境について考察する (必要な準備) 見学観察の準備				
第8回	体験学習	(内 容) 学外での体験 (必要な準備) 体験学習の準備				
第9回	フィールドワーク	(内 容) 保育施設を見学する (必要な準備) 見学にふさわしい服装で参加する				
第10回	中間発表②	(内 容) 計画に基づき、個人指導 (必要な準備) 発表準備				
第11回	課題発表①	(内 容) 課題の発表・意見交換 (必要な準備) プレゼンテーションの準備				
第12回	課題発表②	(内 容) 課題の発表・意見交流 (必要な準備) プレゼンテーションの準備				
第13回	課題発表③	(内 容) 課題の発表・意見交流 (必要な準備) プレゼンテーションの準備				
第14回	自己評価	(内 容) 自分の課題についての自己評価を実施 (必要な準備) レポートを振りかえる				
第15回	まとめ	(内 容) 一年間のまとめとして、自己評価をする。意見交流会を行う。 (必要な準備) レポート作成 完成させる				
オフィスアワー	月曜日 午後15時から17時					

授業名	総合演習Ⅱ yh	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	History SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	土井 哲治	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	2年間の学習の集大成として、自分のテーマに関する報告をまとめて上げられるように指導してゆく。				
学習成果到達目標	1) 幼児教育・保育に関する今日的な課題を理解することができる。 2) 課題を深く掘り下げ、考察を深めることができる。				
評価方法	定期試験 (40 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (60 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> ()	
テキスト	なし。				
参考書	なし。				
留意事項	各自が自分の課題に主体的に取り組むことを強く求める。 個別指導はオフィスアワーを併用する。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	導入	(内 容) (必要な準備)	授業の進め方について 夏期学習の成果のまとめ		
第2回	課題の確認	(内 容) (必要な準備)	春学期に設定した課題について 春学期レポートの内容の再確認		
第3回	課題についての発表と意見聴取・前班	(内 容) (必要な準備)	各自の課題についての発表と意見聴取 発表内容の整理		
第4回	課題についての発表と意見聴取・後班	(内 容) (必要な準備)	各自の課題についての発表と意見聴取 発表内容の整理		
第5回	個別指導・資料	(内 容) (必要な準備)	資料について個別指導 意見を聞いての考究		
第6回	課題についての再発表と意見聴取・前班	(内 容) (必要な準備)	再発表と討議 発表内容の整理		
第7回	課題についての再発表と意見聴取・後班	(内 容) (必要な準備)	再発表と討議 発表内容の整理		
第8回	個別指導・考究	(内 容) (必要な準備)	考究について個人指導 考究の整理		
第9回	考究内容の文章化	(内 容) (必要な準備)	中間まとめ 概要の執筆		
第10回	個別指導・文章	(内 容) (必要な準備)	文章の個別指導 中間まとめの清書		
第11回	考究内容の再文章化	(内 容) (必要な準備)	指導を承けた文章化 再考文章の執筆		
第12回	最終個別指導	(内 容) (必要な準備)	最終的な個別指導 再考文章の完成		
第13回	課題についての最終発表・前班	(内 容) (必要な準備)	最終発表 発表内容の完成		
第14回	課題についての最終発表・後班	(内 容) (必要な準備)	最終発表 発表内容の完成		
第15回	まとめ	(内 容) (必要な準備)	1年間の総括		
オフィスアワー	金曜日 12時から 15時まで				

授業名	総合演習Ⅱyi	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior Seminar	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	名賀 亨	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	保育者としての自覚を深める。 教育に携わる者としての幅広い知識と教養を身につける。 就職を意識して社会人としての心構えをしっかりと持つ。				
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育、保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 3) 自らの学びを振り返り社会に貢献する自己の役割を自覚できる。				
評価方法	定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	
テキスト	プリント				
参考書	随時提示する				
留意事項	アクティブラーニングの手法を用いて授業を実施するので、毎回の講義には主体的かつ積極的に取り組み学びを深める。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	科目ガイダンス、夏期休業中の学習の成果を確認する。		(内 容) 春学期総合演習での学習を再確認する (必要な準備) 夏期に行った課題を確認しておく		
第2回	大学行事に積極的な参加を行う		(内 容) 大学行事の意義を理解し積極的に参加する (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第3回	大学行事に積極的な参加を行う		(内 容) 大学行事の意義を理解し積極的に参加する (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第4回	大学行事に積極的な参加を行う		(内 容) 大学行事の意義を理解し積極的に参加する (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第5回	学外授業		(内 容) 大学周辺の史跡や文化施設の見学 (必要な準備) プリント		
第6回	研究レポートの作成		(内 容) 文献や資料を基にレポートを作成する (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第7回	研究レポートの作成		(内 容) 文献や資料を基にレポートを作成する (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第8回	研究レポートの作成		(内 容) 文献や資料を基にレポートを作成する (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第9回	個別指導		(内 容) レポート執筆に関する個別指導 (必要な準備) 執筆途中のレポート		
第10回	個別指導		(内 容) レポート執筆に関する個別指導 (必要な準備) 執筆途中のレポート		
第11回	個別指導		(内 容) レポート執筆に関する個別指導 (必要な準備) 執筆途中のレポート		
第12回	研究レポートの作成		(内 容) 文献や資料を基にレポートを作成する (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第13回	研究レポートの作成		(内 容) 文献や資料を基にレポートを作成する (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第14回	研究発表		(内 容) 各自のレポート発表 (必要な準備) 執筆レポート、プリント		
第15回	研究発表		(内 容) 各自のレポート発表 (必要な準備) 執筆レポート、プリント		
オフィスアワー	水曜日 昼休み				

授業名	総合演習Ⅱyj	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	堀出 雅人	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	前期のゼミで一人ひとりの問題意識に基づいて学んだ研究テーマを教育・保育の現場で実践できるように、それぞれのフィールドを設定し、実態を把握した上で実際に教育・保育プログラムを計画する。ゼミ全体での協働的な学びを通して、幼児教育者として求められる多面的な力を伸ばす。				
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について説明することができる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身に付けることができる。 3) 自らの学びを振り返り社会貢献する自己の役割を自覚できる。				
評価方法	定期試験 () % <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	適宜、担当者が作成したプリントを配付する				
参考書	適宜、紹介する				
留意事項	授業中の質疑応答を積極的に行うことを期待する。学期中に2～3回レポートや制作物を提出してもらう				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の概要と進め方。 (必要な準備)			
第2回	個人の研究テーマの再確認	(内 容) 夏休み中に作成した課題の共有 (必要な準備) 作成した課題			
第3回	幼児教育関連施設へのフィールドワーク	(内 容) 関連施設へフィールドワーク (必要な準備) 見学先の情報収集			
第4回	幼児教育関連施設へのフィールドワーク	(内 容) 関連施設へフィールドワーク (必要な準備) 見学先の情報収集			
第5回	幼児教育関連施設へのフィールドワーク	(内 容) 関連施設へフィールドワーク (必要な準備) 見学先の情報収集			
第6回	フィールドワークの結果の整理	(内 容) 中間発表とディベート (必要な準備) フィールドワークのノート整理			
第7回	フィールドワークで得た知見の共有	(内 容) 中間発表とディベート (必要な準備) 前時成果をまとめた資料			
第8回	教育・保育プログラムの計画立案の方法	(内 容) 中間発表とディベート (必要な準備) 「教育方法の研究」のテキスト			
第9回	教育・保育プログラムのアイデア抽出	(内 容) 中間発表とディベート (必要な準備) 前時ワークシートの完成			
第10回	教育・保育プログラムの方向性の確定	(内 容) 中間発表とディベート (必要な準備) 前時のアイデアの整理			
第11回	教育・保育プログラムの計画案の作成	(内 容) レポート作成の最終段階 (必要な準備) プログラムの柱となる項目			
第12回	教育・保育プログラムの計画案の完成	(内 容) レポート作成の最終段階 (必要な準備) プログラムの工程表			
第13回	教育・保育プログラムの計画案の発表	(内 容) レポート作成の最終段階 (必要な準備) 発表資料			
第14回	個人研究の最終レポートの作成	(内 容) レポート作成の最終段階 (必要な準備) これまでの資料			
第15回	ふりかえりと全体総括	(内 容) まとめと総評 (必要な準備) 最終レポートの提出			
オフィスアワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み（研究室：1号館3階）				

授業名	総合演習Ⅱyk	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	山部 泰司	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	前半は絵本の共同制作に取り組む。 また、職業選択にむけての面談やディスカッションの時間を持つ。 後半は設定したテーマで各自がそれぞれのアイデアをもとに研究を深める。				
学習成果到達目標	1) 集団で活動する力、リーダーシップの力を養う。 2) お互いの研究や表現から学び、他者の表現の良さを発見する。 3) 学んだ事、考察した事等を分かりやすく、美しくまとめることができる。				
評価方法	定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	使用しない。				
参考書	必要に応じて指示する。				
留意事項	造形活動にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい気持ちを忘れないこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	導入	(内 容) 絵本の楽しさ (必要な準備) シラバスを読んでおく			
第2回	絵本作り①(構想)	(内 容) 共同でつくる絵本の構想を練る (必要な準備) テーマに沿ったアイデアを考えておく			
第3回	絵本作り②(版画の体験)	(内 容) 全体の統一感をつくる工夫 (必要な準備) 下絵を考えておく			
第4回	絵本作り③(版作り)	(内 容) 分担するページの版をつくる (必要な準備) 版づくりに必要な材料を持参する			
第5回	絵本作り④(絵の刷り)	(内 容) 必要枚数を刷る (必要な準備) 色彩計画を立てる			
第6回	絵本作り⑤(文字の刷り)	(内 容) 文字を刷り込む (必要な準備) 文字原稿を用意しておく			
第7回	絵本作り⑥(ページ貼り合わせ)	(内 容) ページを貼り合わせる 表紙を制作する (必要な準備) 表紙に使う布を持参する			
第8回	絵本作り⑦(製本仕上げ)	(内 容) 表紙とページを貼り合わせて仕上げる (必要な準備) 各自が所持する絵本の完成			
第9回	仕事についてのディスカッションなど	内 容) 就職活動の情報交換 (必要な準備) 将来設計について考えておく			
第10回	造形表現に関わる研究①	(内 容) 新聞紙を使った教材研究 (必要な準備) 新聞紙ほか			
第11回	造形表現に関わる研究②	(内 容) 素材の探索行為から表現へ (必要な準備) 紙粘土について調べておく			
第12回	造形表現に関わる研究③	(内 容) 技法からの指導計画 (必要な準備) テーマに沿った応用例を調べておく			
第13回	研究の報告会	(内 容) 制作からの考察 (必要な準備) いろいろな可能性について考えておく			
第14回	フィールドワーク	(内 容) 展覧会見学 (必要な準備) 展覧会について調べておく			
第15回	まとめ	(内 容) 一年間の振り返り (必要な準備) 自分の取り組みについてまとめておく			
オフィスアワー	学生の希望により決定し、緊急室前に掲示する。				

授業名	総合演習Ⅱyl	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Senior SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	山本 明美	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	前期のゼミで一人ひとりの問題意識に基づいて学んだ研究テーマを教育・保育の現場で実践できるように、食育を中心として、その実態を把握した上で実際に教育・保育プログラムを計画する。また、食育教育に必要な資料を制作する。				
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における食育に関する環境の重要性について説明することができる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身に付けることができる。 3) 自らの学びを振り返り社会貢献する自己の役割を自覚できる。				
評価方法	定期試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 5"="" type="checkbox/>()</input></td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> 適宜プリントを配付する。			
参考書	使用しない。				
留意事項	授業中の質疑応答を積極的に行い、学期中に2～3回レポートを提出してもらう。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の概要と進め方。 (必要な準備)			
第2回	個人の研究テーマの確認	(内 容) 夏休み中に作成した課題の共有 (必要な準備) 作成した課題			
第3回	フィールドワーク	(内 容) 秋の食材を調べる (必要な準備) 見学先の情報収集			
第4回	フィールドワークの結果の整理	(内 容) 資料を整理して食育のための制作物を考える (必要な準備) 資料の整理			
第5回	フィールドワークで得た知見の共有	(内 容) 中間発表 (必要な準備) 制作物の提出			
第6回	グループ研究(1)	(内 容) グループで研究課題を考える (必要な準備) 資料の収集			
第7回	グループ研究(2)	(内 容) グループで研究を進める (必要な準備) 課題と方法を考えておく			
第8回	グループ研究の発表と討論	(内 容) 発表と討論 (必要な準備) 制作物かレポートの提出			
第9回	個別面談①	(内 容) 個人の課題設定 (必要な準備) 課題を考えておく			
第10回	個別面談②	(内 容) 個人の課題設定 (必要な準備) 課題を考えておく			
第11回	中間発表	(内 容) 課題の発表と意見交換 (必要な準備) 発表の準備			
第12回	資料収集	(内 容) 資料の再収集 (必要な準備) 資料の整理			
第13回	個人の発表と討論(1)	(内 容) 発表と討議 (必要な準備) 発表をまとめておく			
第14回	個人の発表と討論(2)	(内 容) 発表と討議 (必要な準備) 発表をまとめておく			
第15回	まとめ	(内 容) 1年間を振り返り、レポートを作成する (必要な準備) 1年間の総まとめをしておく			
オフィスアワー	木曜日 午後16時から18時まで				

授業名	保育者論 a・b	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Child Care Worker	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	浅田 瞳	対象学生	幼児教育1ya~yf・yg~yl		
授業の概要	保育者が担う役割について総合的に把握できるように、様々な要素・側面を取り挙げ考察していく。そこでは各自が自己考察を深めることによって、保育者としての自身の在り方を確立していく手がかりを得てもらいたい。				
学習成果到達目標	1) 自己の意見を明確に表明でき、他者との対話ができ、社会的責任を自覚できる 2) 一人ひとりの乳幼児の発達を理解した教育観・保育観をもつことができる 3) 教師や保育者を捉える3つの見方について理解し、自分がどの立場に立って保育するのかわかるように表明できる				
評価方法	定期試験 (30%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (70%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	秋田喜代美編集代表『今に生きる保育者論(第2版)』(株) みらい 2009				
参考書	鈴木昌世編『子どもの心によりそう保育者論』福村出版 2012				
留意事項	主として講義により授業を進める。ただ、教育に関する時事について不定期に問うために適宜、指名して意見の発表もしくは記述を求める。緊張感をもって講義に臨んでもらいたい。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス・保育者論への導入	(内 容) 授業のねらいと概要について (必要な準備) 保育者を志望した動機について改めて問い掛ける。			
第2回	保育者の位置づけ I 倫理観と守秘義務	(内 容) 保育士倫理要項等から保育者の倫理観を知る。 (必要な準備) 保育者に求められているものについて考察する。			
第3回	保育者の位置づけ II 専門性の担保	(内 容) 教育要領や保育指針から保育者の専門性への認識を持つ。 (必要な準備) 保育者の独自性について考える。			
第4回	子どもとのかかわり I 保育者の視点	(内 容) 子どもを見る「保育者の視点」について (必要な準備) 自分は子どもをどのような存在として見ているか省察する。			
第5回	子どもとのかかわり II 子どもから見た保育者	(内 容) 子どもにとつての「保育者」という存在について (必要な準備) 自分は子どもからどのように見られているか洞察してみる。			
第6回	保護者とのかかわり	(内 容) 保護者との連携の実際について (必要な準備) 保護者が期待していることについて考察する。			
第7回	地域社会とのかかわり I 教育資源としての保育	(内 容) 地域文化・教育資源とのかかわりについて (必要な準備) 地域性を活かした活動についてイメージしてみる。			
第8回	地域社会とのかかわり II 幼小連携	(内 容) 教育活動としての連続性について (必要な準備) 幼小連携の実際について調べてみる。			
第9回	現代的課題と保育者	(内 容) 保育を取り巻く現代的課題についての認識を持つ。 (必要な準備) 子どもに影響を及ぼす社会状況を挙げてみる。			
第10回	保育者の職能 I 記録	(内 容) 保育現場での記録について理解を深める。 (必要な準備) 事例から自分が記録する際の手がかりを得る。			
第11回	保育者の職能 II 指導計画	(内 容) 保育活動指導計画について理解を深める。 (必要な準備) 指導案の事例からその作成についてのポイントを読み取る。			
第12回	保育者同士のつながり	(内 容) ティーム保育の事例から学ぶ。 (必要な準備) 協力の可能性についてイメージしてみる。			
第13回	保育者としての成長	(内 容) 研修の実際や成長のモデルから学ぶ。 (必要な準備) 生涯的視点で保育者としての自身の変化を想定してみる。			
第14回	保育者のあり方について考える	(内 容) 3つの価値観について学ぶ (必要な準備) テキスト			
第15回	まとめ	(内 容) 自身の目指す保育者像、またそれに近づくための課題についてまとめる。 (必要な準備) 授業から自分なりに学んだことを整理しておく。			
オフィスアワー	第1回目の授業にて告知。				

授業名	教育課程総論 a・b	開講学年	1 回生	単位数	2 単位
英文名	Outline of Curriculum	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	岸 優子	対象学生	幼児教育1ya～yf、yg～yl		
授業の概要	1) 幼児教育の基本を学び、幼稚園・認定こども園・保育所の共通性と固有性を理解する。 2) 各機関・施設での保育や教育の課程編成を理解し、指導計画の立案の仕方を学ぶ。 3) 保育や教育課程の編成原理をふまえ、計画・実施・評価・改善のPDCAサイクルを学ぶ。				
学習成果到達目標	1) 保育者の立場から、幼稚園、認定こども園、保育所における教育課程や保育課程の実際を理解する。 2) 一人一人の子どもに対応できる教育・保育のデザイン力を身につけ、指導計画が作成出来るようになる。 3) 実践と理論を往還することが出来る保育者になる。				
評価方法	定期試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (60%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (デザイン力、構築力、計画力、) <input checked="" type="checkbox"/> (実行力)			
テキスト	奈良女子大学附属幼稚園編『教育課程・指導計画』 高橋弥生編『保育・教育課程論』一藝社（以下、テキストと明記する）				
参考書	文部科学省編「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省編「保育所保育指針解説書」 内閣府・文部科学省・厚生労働省編「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」				
留意事項	通常は、2つのテキストを必ず持参すること。参考書に関しては、主に予習・復習をする時に活用し、日頃から基本的知識の習得、確認を怠らないこと。したがって参考書については、指示した回に限り持参すること。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション：子どもの現代的教育課題	(内 容) 学校における教育課程の概要 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』、テキスト第1章			
第2回	幼児教育の基本(1)：遊びを通しての総合的な指導	(内 容) 教育課程の編成原理 (必要な準備) 「幼稚園教育要領」			
第3回	幼児教育の基本(2)：環境を通して行う教育	(内 容) 経験カリキュラムと教科カリキュラムの系譜 (必要な準備) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」			
第4回	幼稚園における教育：学校教育としての幼稚園	(内 容) 「幼稚園教育要領」「学習指導要領」 (必要な準備) 「幼稚園教育要領解説」テキスト第3章			
第5回	保育所における保育：「養護と教育の一体性」	(内 容) 「児童福祉法」 (必要な準備) 「保育所保育指針」テキスト第2、8章			
第6回	認定こども園における保育：「子育て支援機能」	(内 容) 子ども・子育て関連三法 (必要な準備) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」			
第7回	課程編成と指導計画(1)：幼稚園の場合①	(内 容) 社会に開かれた教育課程、育成すべき資質・能力 (必要な準備) テキスト第3章、『教育課程・指導計画』			
第8回	課程編成と指導計画(2)：幼稚園の場合②	(内 容) 「深い学び」としてのアクティブ・ラーニング (必要な準備) プリント、『教育課程・指導計画』			
第9回	課程編成と指導計画(3)：保育所の場合	(内 容) 保育課程の編成と指導計画の具体的な筋道 (必要な準備) テキスト第2章、第8章			
第10回	課程編成と指導計画(4)：認定こども園の場合	(内 容) 「子育て支援機能」の実際 (必要な準備) プリント、『教育課程・指導計画』			
第11回	幼児教育の評価の類型および第三者評価	(内 容) ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』、テキスト第15章			
第12回	事例研究(1)：幼稚園の場合	(内 容) 健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域の理解 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』、テキスト42～43頁			
第13回	事例研究(2)：保育所の場合	(内 容) 保育所保育指針と指導計画 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』、テキスト第2章			
第14回	事例研究(3)：認定こども園の場合	(内 容) 社会に開かれた教育課程 (必要な準備) プリント			
第15回	幼・保・小の接続・連携・交流：カリキュラム・マネジメント	(内 容) アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム (必要な準備) テキスト46頁～48頁、197頁～207頁			
オフィスアワー	月曜日・火曜日の12時10分から13時				

授業名	保育内容総論 a・b		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Outline of Child Care		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	鈴木 えり子		対象学生	幼児教育1ya~yf・yg~yl		
授業の概要	乳幼児保育（教育）では、幼稚園教育要領・保育所保育指針が基本となり、保育内容のねらい・内容を理解し、実践することが求められる。つまり、子どもの生活＝遊びを通して、保育者が行うべき養護的内容と子ども自身の教育的側面としての「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域があることを理解する。また、養護と教育が相互に関連をもちながら総合的に展開されるものであること及び5領域の保育内容のねらいと内容を知り、実際の保育における具体的な援助の内容や方法について理解する。保育活動の総合的指導を視野に入れて実践し発表を行う。					
学習成果到達目標	1) 保育内容の5領域についてねらいと内容を理解する。 2) 保育における指導計画の意義について理解する。					
評価方法	定期試験 (40 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (60 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技		
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	『保育内容総論』大沢裕・高橋弥生編著 一藝社					
参考書	『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館					
留意事項	子どもの生活を知るために視聴覚教材を取り入れていく。日頃から身近な子どもを観察する意識をもってほしい。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション		(内 容) 「保育内容」とは何かをイメージする (必要な準備)			
第2回	「保育内容」とは		(内 容) 「保育」と「教育」の違い、「保育内容」「領域」と「教科」との違いから「保育内容」を理解する (必要な準備) テキスト第1章を読んでおく			
第3回	保育内容の構造		(内 容) 保育所と幼稚園の保育内容の相違点を学ぶ (必要な準備) テキスト第2章を読んでおく			
第4回	保育内容の歴史		(内 容) 戦前・戦後の保育内容を知る (必要な準備) テキスト第3章を読んでおく			
第5回	社会環境の変化と保育		(内 容) 個と集団、道徳性から保育内容を考える (必要な準備) テキスト第4章を読んでおく			
第6回	養護と教育		(内 容) 養護と教育から保育内容を理解する (必要な準備) テキスト第5章を読んでおく			
第7回	遊びと保育内容		(内 容) 遊びとは何か、遊びの重要性、保育者の援助について理解する (必要な準備) テキスト第6章を読んでおく			
第8回	子どもの活動と保育環境		(内 容) 保育環境について理解する (必要な準備) テキスト第7章を読んでおく			
第9回	保育内容と援助		(内 容) 活動や内容のとらえ方、保育者の援助、ねらいを具体的に理解する(領域的側面から理解する) (必要な準備) テキスト第8章を読んでおく			
第10回	一日の流れと保育内容		(内 容) 幼稚園、保育所の一日の生活から保育内容を考える (必要な準備) テキスト第9章を読んでおく			
第11回	年齢別の発達と保育内容— 乳児クラス		(内 容) 乳児、低年齢児の発達と保育内容を理解する (必要な準備) テキスト第10章を読んでおく			
第12回	年齢別の発達と保育内容— 幼児クラス		(内 容) 幼児期の発達と保育内容を理解する (必要な準備) テキスト第11章から第13章を読んでおく			
第13回	家庭・地域との連携		(内 容) 家庭、地域との連携を通して保育内容を理解する (必要な準備) 活動を考えておく			
第14回	遊びを通しての総合的指導①		(内 容) 保育教材を使って発表を通してねらいを理解する (必要な準備) 発表のグループで話し合いと準備をする			
第15回	遊びを通しての総合的指導②		(内 容) 保育教材を使って発表を通してねらいを理解するとともに保育者の資質、責任について学ぶ (必要な準備) 幼稚園教育要領・保育所保育指針を読んでおく			
オフィスアワー	月曜日 午後15時から17時まで					

授業名	児童福祉 I a・I b	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Child Welfare I	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	山川 宏和	対象学生	幼児教育1ya~yf・yg~yl		
授業の概要	1. 少子化・保育・虐待など児童問題について 2. 現代の子どもの生活について 3. 諸外国の児童福祉について 4. 児童福祉の法制度について				
学習成果到達目標	1) 社会問題のひとつである児童問題と児童福祉の関係が理解できる。 2) 保育士に求められる福祉援助職としての働きが理解できる。 3) 児童福祉の制度が、日本と諸外国ではどのように相違があるか理解できる。 4) 児童福祉の法制度の対象とサービス内容が理解できる。				
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	赤木正典・流王治郎 編著 「児童家庭福祉論 第2版」[建帛社]				
参考書	随時指示する。				
留意事項	出席とレポートを重視する。積極的な発表も評価の対象となる。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	現代社会と子ども	(内 容) 人口減少社会 (必要な準備) テキスト1章を参照しておく			
第2回	児童の権利保障	(内 容) コルチャック、子どもの権利条約について (必要な準備) テキスト2章を参照しておく			
第3回	児童福祉の歴史	(内 容) 日本・欧米の児童福祉史 (必要な準備) テキスト2章を参照しておく			
第4回	児童福祉法について 児童相談所	(内 容) 児童福祉六法、行政機関について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく			
第5回	児童福祉法について 1997、2001年の改正	(内 容) 児童福祉法改正について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく			
第6回	児童福祉法について 2004~2014年の改正	(内 容) 児童福祉法と児童虐待防止法について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく			
第7回	非行少年について	(内 容) 非行少年の対策とケアについて (必要な準備) テキスト10章を参照しておく			
第8回	児童虐待について 身体的虐待・ネグレクト	(内 容) 児童虐待の定義と対策 (必要な準備) テキスト7章を参照しておく			
第9回	児童虐待について 心理的・性的虐待	(内 容) 児童虐待の定義と対策 (必要な準備) テキスト7章を参照しておく			
第10回	児童福祉の専門職について	(内 容) 児童福祉に従事する専門職について (必要な準備) テキスト4章を参照しておく			
第11回	保育支援と福祉について	(内 容) 日本と諸外国の保育政策・サービスについて (必要な準備) テキスト9章を参照しておく			
第12回	母子保健について	(内 容) 妊産婦死亡率や保健所、未熟児医療について (必要な準備) テキスト4章を参照しておく			
第13回	社会的養護について	(内 容) 里親ケアの実際について (必要な準備) テキスト10章を参照しておく			
第14回	障がい児の福祉について	(内 容) 障がい児の現状と福祉サービスについて (必要な準備) テキスト4章を参照しておく			
第15回	児童の健全育成について	(内 容) 児童館・児童厚生員について (必要な準備) テキスト5章を参照しておく			
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。				

授業名	養護原理 a・b	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Principles of Corporate Parenting	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	浦田 雅夫	対象学生	幼児教育1ya~yf, yg~yl		
授業の概要	保育士として必要な社会的養護の基本原則と知識を深めるために、以下の内容で授業を進める。 1. 社会的養護の概念と歴史的経過について 2. 社会的養護体系について 3. 施設によるケアについて 4. 里親によるケアについて				
学習成果到達目標	1) 社会的養護の概念と歴史的経過、種類と役割について理解することができる。 2) 乳児院や児童養護施設等に入所してくる児童の特徴や、背景を総合的に理解することができる。 3) 里親によるケアの現状と課題を理解することができる。				
評価方法	定期試験 (60%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	『社会的養護論』第2版 赤木正典・流王治郎編 [建帛社]				
参考書	随時指示する。				
留意事項	出席を怠らないこと。学習内容の順番は事前説明の上、変更することがある。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業概要、計画、評価などについて説明する。 (必要な準備) 事前にシラバスをよく読んでおくこと。			
第2回	今日の子どもを取り巻く状況	(内 容) 子どもの貧困、要保護児童などについて学ぶ。 (必要な準備) テキスト第1章を読んでおくこと。			
第3回	社会的養護の歴史的経過	(内 容) 石井十次の養育観と実践について学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。			
第4回	子ども観の変遷と権利擁護の視点	(内 容) 権利の主体としての子ども観について考える。 (必要な準備) 子どもの権利条約を事前に読んでおくこと。			
第5回	施設養護の基本原則	(内 容) ケアの基本原則を学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。			
第6回	施設養護の基本原則と実際	(内 容) ケアの展開過程について学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。			
第7回	乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設などについて	(内 容) 乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設などについて学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。			
第8回	児童自立支援施設などについて	(内 容) 児童自立支援施設などについて学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。			
第9回	障害児・者施設などについて	(内 容) 障害のある子どもたちへのケアを考える。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。			
第10回	施設養護と権利侵害	(内 容) 施設内虐待について考える。 (必要な準備) 各自でメディアから情報を集める。			
第11回	小規模ケアの実際	(内 容) 小規模ケアについて考える。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。			
第12回	里親による養育	(内 容) 里親による養育の現状と課題を学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。			
第13回	関係機関との連携	(内 容) 児童相談所や市町村などの連携を考える。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。			
第14回	社会的養護の今日的課題	(内 容) 社会的養護の今日的課題を整理する。 (必要な準備) 事前に指示する課題に取り組むこと。			
第15回	社会的養護の近未来	(内 容) 今後の社会的養護のあり方について考える。 (必要な準備) 事前に指示する課題に取り組むこと。			
オフィスアワー	非常勤講師のため授業外の質問はメールにて対応。初回講義時にメールアドレスを伝える。				

授業名	保育の心理学Ⅱa	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Child Care Psychology Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	下温湯 まゆみ	対象学生	幼児教育 1ya~yf		
授業の概要	保育の心理学Ⅰで学んだ内容を演習科目としてさらに深めていく。発達心理学の基礎知識を用いて、子ども理解を深め、遊びや生活を通した学びの過程を理解する。幼児教育・保育の具体的な事例やビデオ映像などをもとに、子どもや保育について学生自身が考え実践力を身につけられるように、演習を取り入れていく。				
学習成果到達目標	1) 発達心理学の基礎知識を用いて子ども理解をすすめ、心身の発達と保育実践を関連づけて理解する。 2) 乳幼児期に適した、遊びや生活を通した学びの過程を理解する。 3) 保育における発達援助について学び、保育者としての実践力を身につける。				
評価方法	定期試験 (50%) □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技	□筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート □制作物	平常試験 (50%) □口述 □実習 □実技	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート □制作物	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 □()	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 □()	□プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 □()
テキスト	『保育の心理学Ⅱ 演習で学ぶ、子ども理解と具体的援助』 井戸ゆかり編著 萌文書林				
参考書	随時紹介する。				
留意事項	自分が保育者だったらどのように考え対応するかを想定しながら、主体的に学んでほしい。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	保育現場における発達のとらえ方	(内 容) 子ども理解に必要な発達の把握について学ぶ。 (必要な準備) テキスト予習 P2~P27			
第2回	保育の中の身体感覚と知覚の発達	(内 容) 身体感覚や知覚の発達と環境の相互作用を学ぶ。 (必要な準備) テキスト予習 P28~P39			
第3回	保育の中の人間関係の発達① 保育者と子どもの関係づくり	(内 容) 保育者のかかわりと人間関係の発達について学ぶ。 (必要な準備) テキスト予習 P40~P49			
第4回	保育の中の人間関係の発達② 子ども同士のかかわりと関係づくり	(内 容) 子ども同士のかかわりと人間関係の発達について学ぶ。 (必要な準備) テキスト予習 P50~P61			
第5回	保育の中の自己主張と自己抑制の発達	(内 容) 自己主張と自己抑制の発達やトラブル対応について学ぶ。 (必要な準備) テキスト予習 P62~P75			
第6回	遊びや生活を通した学びの過程① 子どもの学びの特徴	(内 容) 子どもの学びの特徴と保育者のかかわりについて学ぶ。 (必要な準備) テキスト予習 P92~P105			
第7回	遊びや生活を通した学びの過程② 学びと発達	(内 容) 遊び経験と心身の機能の発達について学ぶ。 (必要な準備) テキスト予習 P106~P119			
第8回	遊びや生活を通した学びの過程③ 生きる力の基礎を培う	(内 容) 生きる力とは何か、生きる力を育むために必要な視点について学ぶ。 (必要な準備) テキスト予習 P120~P139			
第9回	保育における発達援助① 基本的生活習慣の獲得	(内 容) 基本的生活習慣の獲得の重要性と保育者の援助について学ぶ。 (必要な準備) テキスト予習 P140~P149			
第10回	保育における発達援助② 主体性の獲得	(内 容) 子どもの主体性の形成を育む保育者の援助について学ぶ。 (必要な準備) テキスト予習 P150~P171			
第11回	保育における発達援助③ チーム援助の取り組み	(内 容) 発達援助におけるチーム支援の取り組みについて学ぶ。 (必要な準備) テキスト予習 P172~P193			
第12回	保育における発達援助④ 発達検査の基礎知識	(内 容) 発達検査や知能検査などの心理検査について学ぶ。 (必要な準備) 発達検査について調べる。			
第13回	保育における発達援助⑤ 発達検査を援助に生かす	(内 容) 心理検査の結果を保育の中でどのように生かすのか学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。			
第14回	保育における発達援助⑥ 現代社会における保育の課題	(内 容) 現代社会における保育の課題について取り上げ、保育者の役割について考察する。 (必要な準備) テキスト予習 P194~P203			
第15回	まとめ	(内 容) 授業の内容を振り返り、内容をまとめる。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
オフィスアワー	金曜日 12:30~14:00 (変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)				

授業名	保育の心理学Ⅱb	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Child Care Psychology II	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	石井 信子	対象学生	幼児教育1yg~yl		
授業の概要	発達心理学の基礎的な知識を土台として、乳幼児期の心身の発達に関する課題を理解し、実践的に学んでいく。保育者・教育者としての発達援助について対応できる専門的能力と態度を身につくよう、自己理解力を高めるメンタルヘルスを学ぶ。				
学習成果到達目標	1) 子どもの発達段階について理解することができる。 2) 保育場面での実践について考えることができる。 3) 発達援助についての専門的知識や能力を実践できる自己のメンタルヘルスを知る。				
評価方法	定期試験 (40%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (実習参加度) <input checked="" type="checkbox"/> (積極的受講態度)			
テキスト	メンタルヘルスを学ぶ 村井俊哉・森本恵子・石井信子編著 ミネルヴァ書房				
参考書	随時指示する。				
留意事項	授業の内容については、学生の履修状況に応じて前後することもある。授業においては、ワークを取り入れる。積極的な授業への参加を求める。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備) テキストを読んでおく			
第2回	「こころ」の理解	(内 容) こころの理論 (必要な準備) テキスト p. 1-15 の予習			
第3回	命のはじまりを知る	(内 容) 命のはじまりについて解説する (必要な準備) こころの理論確認			
第4回	子どもの発達理解① 身体運動と認識の発達	(内 容) 身体運動と認識の発達について解説する (必要な準備) テキスト p. 23-28 復習			
第5回	子どもの発達理解② 基本的習慣と対人関係の発達	(内 容) 基本的習慣と社会性の発達について解説する (必要な準備) 発達の表を作成しておく			
第6回	子どもの発達理解③ 発語と言語理解の発達	(内 容) 発語と言語理解の発達について解説する (必要な準備) 発達の表を作成しておく			
第7回	子どもの発達理解まとめ	(内 容) 子どもの発達を理解する (必要な準備) 子どもの発達理解の表を作成しておく			
第8回	子どもの発達理解④ 子どもの発達をとらえるための方法	(内 容) 子どもの発達をとらえる方法について解説する (必要な準備) 子どもの発達理解の平常試験実施			
第9回	子どもの発達理解⑤ 親子の関係性	(内 容) 母子相互作用と愛着について解説する (必要な準備) テキスト p. 29-34 復習			
第10回	保育実践に向けて① 自己理解のためのワーク	(内 容) 自身の歴史を振り返り、保育実践を考える (必要な準備) 教科書 p. 35-37 の予習			
第11回	保育実践に向けて② 自己理解のためのワーク	(内 容) 自身の特徴を理解し、保育実践を考える (必要な準備) 具体的な援助方法について考える			
第12回	保育実践に向けて③ 自己理解のためのワーク	(内 容) 自身の特徴を理解し、保育実践を考える (必要な準備) 具体的な援助方法について考える			
第13回	保育実践に向けて④ 自己理解のためのワーク	(内 容) 自身の特徴を理解し、保育実践を考える (必要な準備) サインペン&色鉛筆			
第14回	保育実践に向けて⑤ 保護者理解	(内 容) 親になることについて解説する (必要な準備) テキスト p. 58-64, p. 144-145 の予習			
第15回	まとめ	(内 容) これまでの総復習をする。 (必要な準備)			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授業名	小児保健 I a・I b	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Infant Health I	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	渡邊 美也子	対象学生	幼児教育1ya~yf・yg~yl		
授業の概要	子どもの発達が見守られている社会は、私たち大人にとっても安心して健康に暮らしやすい社会でもある。保育や健診、療育現場でのエピソードを交えながら、子どもの心身の保健について医学的・臨床発達心理学的に理解する				
学習成果到達目標	1) 子どもの発達を支え見守るさまざまな環境について考える 2) 子どもの身体発達についての知識を学び、保育や子育てに結びつけて理解する 3) 子どもの精神発達について学び、近年の社会状況の中での保育を考える				
評価方法	定期試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	よくわかる「子どもの保健」第3版（ミネルヴァ書房）				
参考書	「図表で学ぶ子どもの保健 I」（健帛社）				
留意事項	常に身の回りで起きている子どもの発達や保健に関するニュースや情報に気づき、興味や関心を持つ。知識と自分の経験（将来も含む）を必ず結びつけて理解しよう。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス/子どもの保健という学問	(内 容) 本講義の目的と概要を説明 (必要な準備)			
第2回	子どもの健康と保育	(内 容) 健康水準、保育、保健活動、福祉サービス (必要な準備) テキスト p6~13 を読んでおく			
第3回	母子保健	(内 容) 妊娠から新生児期まで (必要な準備) テキスト p14~17 を読んでおく			
第4回	子どもの生活と健康(乳幼児期の暮らし)	(内 容) 乳幼児の生活と世話 (必要な準備) テキスト p100~111 を読んでおく			
第5回	子どもの生活と健康(家庭と集団)	(内 容) 家庭生活の現状と集団(保育・教育)生活 (必要な準備) テキスト p112~p117 を読んでおく			
第6回	身体発育と保健(発育の原則と測定)	(内 容) 身体発育の原則、測定、 (必要な準備) テキスト p18~p29 を読んでおく			
第7回	身体発育と保健(影響する要因)	(内 容) 身体発育のバランス、影響要因 (必要な準備) テキスト p30~p35 を読んでおく			
第8回	生理機能の発達と保健(自律神経・体温 他)	(内 容) 自律神経、循環・消化機能の発達 (必要な準備) テキスト p36~p47 を読んでおく			
第9回	生理機能の発達と保健(排泄・睡眠 他)	(内 容) 排泄、睡眠、感覚器官の発達、免疫 (必要な準備) テキスト p48~p55 を読んでおく			
第10回	精神機能の発達と保健(言語・社会性・情緒)	(内 容) 言語、社会性、情緒の発達 (必要な準備) テキスト p64~p69 を読んでおく			
第11回	精神機能の発達と保健(発達の評価・影響要因)	(内 容) 発達の評価(発達検査)、影響要因 (必要な準備) テキスト p70~p73 を読んでおく			
第12回	子どもの精神保健(心身症・行動上の問題)	(内 容) 精神保健とは、心身症、行動上の問題 (必要な準備) テキスト p74~p83 を読んでおく			
第13回	子どもの精神保健(発達障害を抱える子ども)	(内 容) 発達障害とその対応、保護者への寄添い (必要な準備) テキスト p84~p87 を読んでおく			
第14回	子どもの精神保健(虐待・親のメンタルヘルス)	(内 容) 育児環境、虐待、地域精神保健活動 (必要な準備) テキスト p88~99 を読んでおく			
第15回	まとめ	(内 容) 総復習、質疑応答 (必要な準備) 関心を持ったテーマについて考えておく			
オフィスアワー	講義の後、申し出に応じて時間設定する。				

授業名	小児保健Ⅱa・b	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Infant Health Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	渡邊 美也子	対象学生	幼児教育1ya~yf・yg~yl		
授業の概要	現在子どもの出生や発育を取り巻く環境は急速に変化してきている。その中でも子どもが本来持っている能力を健康で十分発揮できるように、その可能性を伸ばすことができるよう、良い環境や病気の予防等を学んでいく。安全の確保、感染予防、事故予防等、基本的知識を学ぶ。				
学習成果到達目標	1) 医学的基礎知識の理解 2) 子どもの病気の看護、予防対策の獲得 3) 子どもの健康増進対策の獲得				
評価方法	定期試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	「小児保健Ⅰ」で使用したもの				
参考書	「図表で学ぶ子どもの保健Ⅰ」(建帛社)				
留意事項	小児の病気や育児における環境として衛生管理並びに安全の実施体制について、学びを深めることが大切であるので、教科書等事前に読んでおくこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	科目ガイダンス・小児保健Ⅱの意義	(内 容) 小児保健Ⅱの目的と意義・授業の進め方 (必要な準備)			
第2回	子どもをめぐる環境と脳の発達	(内 容) 保育における小児保健上の留意点について (必要な準備) 配布資料を読んでおくこと			
第3回	子どもの育つ生活環境	(内 容) 子どもの生活環境の現状について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおく事			
第4回	新生児・低出生体重児の養護	(内 容) 新生児の特徴と養護、低出生体重児について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおく事			
第5回	子どもの精神保健と保育の多様化	(内 容) 子どもの精神発達・保育の多様化 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおく事			
第6回	健康と病気・その症状	(内 容) 病気の症状と異常の理解 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおく事			
第7回	子どもの病気と看護	(内 容) 子どもの症状と看護について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおく事			
第8回	事故と応急処置	(内 容) 事故と応急処置、事故防止のために (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおく事			
第9回	感染症に対する対応と予防対策	(内 容) 感染症への対応と予防のための対策 (必要な準備) 配布された資料を読んでおくこと			
第10回	感染症と予防接種	(内 容) 予防接種の種類と効用、副反応 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおく事			
第11回	免疫とアレルギー性の疾患	(内 容) 免疫のしくみとアレルギー性の病気と看護 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおく事			
第12回	小児の生活習慣病	(内 容) 小児の生活習慣病の原因と対策 (必要な準備) 配布資料を読んでおくこと			
第13回	消化器系、呼吸器系の病気と看護	(内 容) 特徴的な消化器、呼吸器系の病気と看護 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおく事			
第14回	皮膚・運動器系の病気と看護	(内 容) 特徴的な皮膚、運動器系の病気と対応 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおく事			
第15回	母子保健行政・まとめ	(内 容) 母子保健行政とこれまでの総復習をする (必要な準備) 配布した資料を持ってくる			
オフィスアワー	講義の後、申し出に応じて時間設定する。				

授業名	音楽 Ia・Ib・Ic・Id		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Music I		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	坂口みゆき・小川隆昭・阿久津啓・今井順子・遠藤玲子・岡田千秋・加藤雅子・北村陽子・木島佳都子・小鍛治弘美・権田志帆子・千田浩美・高科絵美代・玉井明・永峯翠子・内藤規子・福永圭子・松村佳奈		対象学生	幼児教育1ya~yc・yd~yf・yg~yi・yj~yl		
授業の概要	音楽的感性と技能の両方を兼ね備えた指導者を養成することを目標とし、幼児教育の実施展開のため、基礎技能を培うと同時に音楽に親しませる指導者に必要なピアノ演奏技術、「こどものうた」の歌唱の基礎能力を身に付ける。					
学習成果到達目標	1) 音楽の基礎技能を培うことができる。 2) ピアノ演奏技術の基礎能力を身に付けることができる。 3) 歌唱の基礎能力を身に付けることができる。					
評価方法	定期試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技		平常試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> (音楽的基礎能力)		<input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (演奏能力)			
テキスト	「バイエルピアノ教則本」バイエル著 (音楽之友社)					
参考書	使用しない。					
留意事項	平素の練習状況や授業への積極的な参加を重視する。授業は1週間の間に練習してきた成果をチェックする場である。実習や幼・保の就職試験に向けて、しっかり練習する必要がある。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	ガイダンス		(内容) 音楽調査等記入注意事項、計画説明、担当教員紹介 (必要な準備) 教則本を持参すること			
第2回	〔ピアノ〕個人レッスン・〔声楽〕歌唱		(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第3回	〔ピアノ〕個人レッスン・〔声楽〕歌唱		(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第4回	〔ピアノ〕個人レッスン・〔声楽〕歌唱		(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第5回	〔ピアノ〕個人レッスン・〔声楽〕歌唱		(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第6回	〔ピアノ〕個人レッスン・〔声楽〕歌唱		(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第7回	〔ピアノ〕個人レッスン・〔声楽〕歌唱		(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第8回	〔ピアノ〕個人レッスン・〔声楽〕歌唱		(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第9回	〔ピアノ〕個人レッスン・〔声楽〕歌唱		(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第10回	〔ピアノ〕個人レッスン・〔声楽〕歌唱		(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第11回	〔ピアノ〕個人レッスン・〔声楽〕歌唱		(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第12回	〔ピアノ〕個人レッスン・〔声楽〕歌唱		(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第13回	〔ピアノ〕個人レッスン・〔声楽〕歌唱		(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第14回	〔ピアノ〕個人レッスン・〔声楽〕歌唱		(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第15回	総括		(内容) 教則本によるピアノ実技のまとめ (必要な準備) 試験曲を練習しておく			
オフィスアワー	坂口 (週1回 - 曜日と時間は研究室前に掲示) 小川 (週1回 - 曜日と時間は研究室前に掲示) 坂口・小川以外の教員 (担当授業終了後に実施) *坂口・小川以外の教員のレッスンを受ける学生は、坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。					

授業名	音楽Ⅱa・Ⅱb・Ⅱc・Ⅱd	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	MusicⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	坂口みゆき・小川隆昭・阿久津啓・今井順子・遠藤玲子・岡田千秋・加藤雅子・木島佳都子・北村陽子・小鍛治弘美・権田志帆子・千田浩美・高科絵美代・玉井明・内藤規子・永峯翠子・福永圭子・松村佳奈	対象学生	幼児教育1ya~yc・yd~yf・yg~yi・yj~yl		
授業の概要	音楽Ⅰで修得した音楽的感性と音楽的技能を更には発展させ、幼児教育の指導者としてふさわしい能力を身に付ける。				
学習成果到達目標	1) バイエルを終了し、次のステップに進むことができる。 2) 子どものうた・生活のうたのレパートリーを多く持つことができる。 3) 手遊びのレパートリーを多く持つことができる。				
評価方法	定期試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	平常試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> (音楽的能力)	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> (演奏能力)	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	
テキスト	「バイエルピアノ教則本」 バイエル著 (音楽之友社)				
参考書	使用しない。				
留意事項	平素の練習状況や授業への積極的な参加を重視する。授業は、1週間の間に練習してきた成果をチェックする場である。実習や幼・保の就職試験に向けて、しっかり練習する必要がある。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	[ピアノ]個人レッスン・[声楽]歌唱	(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第2回	[ピアノ]個人レッスン・[声楽]歌唱	(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第3回	[ピアノ]個人レッスン・[声楽]歌唱	(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第4回	[ピアノ]個人レッスン・[声楽]歌唱	(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第5回	[ピアノ]個人レッスン・[声楽]歌唱	(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第6回	[ピアノ]個人レッスン・[声楽]歌唱	(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第7回	[ピアノ]個人レッスン・[声楽]歌唱	(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第8回	[ピアノ]個人レッスン・[声楽]歌唱	(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第9回	[ピアノ]個人レッスン・[声楽]歌唱	(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第10回	[ピアノ]個人レッスン・[声楽]歌唱	(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第11回	[ピアノ]個人レッスン・[声楽]歌唱	(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第12回	[ピアノ]個人レッスン・[声楽]歌唱	(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第13回	[ピアノ]個人レッスン・[声楽]歌唱	(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第14回	[ピアノ]個人レッスン・[声楽]歌唱	(内容) ピアノ教則本 弾きうたい 声楽 歌唱 (必要な準備) ステップ毎に練習しておく			
第15回	総括	(内容) 教則本によるピアノ実技のまとめ (必要な準備) 課題を暗譜で練習しておく			
オフィスアワー	坂口 (週1回 - 曜日と時間は研究室前に掲示) 小川 (週1回 - 曜日と時間は研究室前に掲示) 坂口・小川以外の教員 (担当授業終了後に実施) *坂口・小川以外の教員のレッスンを受ける学生は、坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。				

授業名	形象音楽 I a・I b・I c・I d	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Figurative Music I	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	明山 婦美	対象学生	幼児教育1ya~yc・yd~yf・yg~yi・yj~yl		
授業の概要	形象音楽とは音楽を形に表す意味で、インドのラーガ思想を参考に命名した科目である。1回生で履修する音楽Iの基礎技能の上に立って子どものうたの歌唱を中心に、その内容の具象化即ち、折り紙・手あそび・壁面飾り・あやとり等をもって、歌の内容のイメージを具体的に表現させ、創意工夫させ、歌の心をより深く浸透させ、イメージを形作る能力の養成を目指す。				
学習成果到達目標	1) 子どものうたを正確に歌えることが出来る。 2) 手遊びのレパートリーを多く持つことが出来る。 3) 折り紙の折り方を多く覚えることが出来る。				
評価方法	定期試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> （イメージを形作る能力） <input type="checkbox"/> （ ）			
テキスト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室編 プリント カスタネット（リズム楽器）を使用する				
参考書	使用しない。				
留意事項	課題に積極的に取り組み、折り紙・手遊びのレパートリーを増やせるように努力すること。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス 歌唱・手遊び	(内 容) 授業についての説明 子どものうた・手あそび (必要な準備)			
第2回	歌唱・手遊び・折り紙 チューリップ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 折り紙等を用意する			
第3回	歌唱・手遊び・折り紙 こいのぼり	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を仕上げる			
第4回	歌唱・手遊び・折り紙 カーネーション	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を仕上げる			
第5回	歌唱・手遊び・折り紙 ユリ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を提出する			
第6回	歌唱・手遊び・合奏	(内 容) 基本的な楽器の使い方及び合奏 (必要な準備) 幼・保でよく使われる楽器について調べておく			
第7回	歌唱・手遊び・製作 紙ひこうき	(内 容) 子どものうたを中心に紙ひこうきを作る (必要な準備) チラシを用意する			
第8回	歌唱・手遊び・折り紙 ネクタイ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を仕上げる			
第9回	歌唱・手遊び・折り紙 シャツ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を提出する			
第10回	歌唱・手遊び・製作 カード	(内 容) カード作り (必要な準備) 製作内容を考えておく			
第11回	歌唱・手遊び・製作 カード	(内 容) カード作り (必要な準備) 製作を仕上げる			
第12回	歌唱・手遊び・折り紙 あじさい	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 製作を提出する			
第13回	歌唱・手遊び・折り紙 あじさい	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を仕上げる			
第14回	歌唱・手遊び・折り紙 あさがお	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を提出する			
第15回	歌唱・手遊び・製作 船	(内 容) 牛乳パックを用いての製作 (必要な準備) 牛乳パックを用意する			
オフィスアワー	授業終了後				

授業名	形象音楽Ⅱa・Ⅱb	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Figurative Music II	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	明山 婦美	対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	形象音楽とは音楽を形に表す意味で、インドのラーガ思想を参考に命名した科目である。春学期に履修した音楽Ⅰの基礎技能の上に立って子どものうたの歌唱を中心に、その内容の具象化即ち、折り紙・手あそび・壁面飾り・あやとり等をもって、歌の内容のイメージを具体的に表現・創意工夫させ、歌の心をより深く浸透させると共にイメージを形作る能力の養成を目指す。				
学習成果到達目標	1) 子どものうた・手遊びのレパートリーを多く持つことが出来る。 2) 折り紙の折方を更に覚えることが出来る。 3) 創意工夫する能力を養うことが出来る。				
評価方法	定期試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input "="" 5"="" checked="" type="checkbox/>(創意工夫能力)</td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> 「子どものうた」華頂短大音楽研究室編 プリント カスタネット(リズム楽器)を使用する			
参考書	使用しない。				
留意事項	意欲を持って授業に参加し、課題にも積極的に取り組むこと				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス 歌唱・手遊び	(内 容) これからの授業について 子どものうた・手あそび (必要な準備)			
第2回	歌唱・手遊び・合奏	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心に様々な楽器の演奏 (必要な準備) 幼・保でよく使われる楽器の使い方を調べておく			
第3回	歌唱・手遊び・折り紙 赤とんぼ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 折り紙を用意しておく			
第4回	歌唱・手遊び・折り紙 赤とんぼ	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心に折り紙を折る (必要な準備) 歌詞を読みイメージを膨らませておく			
第5回	歌唱・手遊び・折り紙 赤とんぼ	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題提出に向けて仕上げておく			
第6回	歌唱・手遊び・折り紙 証城寺の狸ばやし	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心に折り紙を折る (必要な準備) 折り紙を用意しておく			
第7回	歌唱・手遊び・折り紙 証城寺の狸ばやし	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心に折り紙を折る (必要な準備) 折り紙を用意しておく			
第8回	歌唱・手遊び・あやとり・折り紙 しゅりけん	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題提出に向けて仕上げておく			
第9回	歌唱・手遊び・あやとり・折り紙 クリスマス	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にあやとり、折り紙を折る (必要な準備) 幼・保でよく歌われるクリスマスのうたを調べておく			
第10回	歌唱・手遊び・あやとり・折り紙 クリスマス	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にあやとり、折り紙を折る (必要な準備) 幼・保でよく歌われるクリスマスのうたを調べておく			
第11回	歌唱・手遊び・あやとり・折り紙 クリスマス	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にあやとり、折り紙を折る (必要な準備) 幼・保でよく歌われるクリスマスのうたを調べておく			
第12回	歌唱・手遊び・折り紙 飾りつけ	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心に折り紙を折る。 (必要な準備) 課題提出に向けて仕上げておく			
第13回	歌唱・手遊び・合奏	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にリズム楽器で演奏する (必要な準備) 幼・保でよく使われる楽器の使い方を調べておく			
第14回	歌唱・手遊び・折り紙 節分	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心に折り紙を折る (必要な準備) 節分のうたを調べておく			
第15回	歌唱・手遊び・合奏	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心に様々な楽器の演奏 (必要な準備)			
オフィスアワー	授業終了後				

授業名	図画工作 I a・I b・I c・I d		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Arts and Crafts I		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	山部 泰司・松井 沙都子・服部 正志・藤本 裕紀		対象学生	幼児教育1ya~yc・yd~yf・yg~yi・yj~yl		
授業の概要	絵を描いたり、物をつくったりすることは子どもの発達にとって大切な活動である。この授業では子どもの造形表現を指導・支援するための基礎的な技能や知識について学ぶとともに、制作を楽しみながら、自分の中にある柔軟な発想や感性、造形力に気付くことのできる授業にしたい。					
学習成果到達目標	1) 様々な表現の方法を、体験を通して学ぶ。 2) 表現方法に自分の工夫を加えて作品にする。 3) 制作した作品やその表現技法、考察を、美しく分かりやすくまとめることができる。					
評価方法	定期試験 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 (60%) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 (40%) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> （造形力） <input type="checkbox"/> （ ）				
テキスト	新造形表現・実技編 花篤 實・岡田 愨吾 編著（三晃書房）					
参考書	使用しない					
留意事項	制作活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参すること。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	ガイダンス		(内 容) 授業の概要説明、受講のための諸注意 (必要な準備) 教科書の全体に目を通しておく、必携教材を持参すること			
第2回	水彩絵の具による表現①		(内 容) 水彩絵の具の使い方や技法（にじみ絵など） (必要な準備) 教科書の関連箇所 18～19 項を読んでおく			
第3回	水彩絵の具による表現②		(内 容) 水彩絵の具の技法（デカルコマニーなど） (必要な準備) 教科書の関連箇所 22 項などを読んでおく			
第4回	水彩絵の具による表現・作品のまとめ		(内 容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (必要な準備) 学習した技法について調べておく			
第5回	水彩絵の具による表現③		(内 容) 水彩絵の具の技法（スタンピングなど） (必要な準備) 教科書の関連箇所 23 項などを読んでおく			
第6回	水彩絵の具・パスによる表現		(内 容) 水彩絵の具・パスによる技法（パチックなど） (必要な準備) 教科書の関連箇所 55 項などを読んでおく			
第7回	水彩絵の具・パスによる表現・作品のまとめ		(内 容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (必要な準備) 教科書の関連箇所目を通しておく			
第8回	パスによる表現		(内 容) パスによる技法（スクラッチなど） (必要な準備) 教科書の関連箇所 25 項などを読んでおく			
第9回	パスによる表現・作品のまとめ		(内 容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (必要な準備) 学習した技法について調べておく			
第10回	フロッタージュ(表面の凹凸を写す)		(内 容) フロッタージュ（クーピーペンシルによる） (必要な準備) 教科書 28～29 項を読んでおく			
第11回	コラージュ(フロッタージュからの展開)		(内 容) コラージュの技法による個人の表現 (必要な準備) 自分の作品の構想を持つ			
第12回	フロッタージュ、コラージュ・作品のまとめ		(内 容) 表現方法・活用・展開などについてまとめる (必要な準備) 教科書の関連箇所 29 項などを読んでおく			
第13回	版による表現		(内 容) 紙版画の制作 (必要な準備) 自分の作品のアイデアを考へておく			
第14回	版による表現・作品のまとめ		(内 容) 版画の学習についてまとめる (必要な準備) 教科書の関連箇所 61 項などを読んでおく			
第15回	まとめ・レポート		(内 容) 授業全体の振り返り 作品返却 (必要な準備) 授業で学んだ事をまとめておく			
オフィスアワー	登録学生の時間割により決定し研究室前に掲示する。					

授業名	図画工作Ⅱa・Ⅱb・Ⅱc・Ⅱd		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Arts and CraftsⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	山部 泰司・松井 沙都子・服部 正志・藤本 裕紀		対象学生	幼児教育1ya~yc・yd~yf・yg~yi・yj~yl		
授業の概要	この授業では、「子どもデパート」にむけてさまざまな材料による造形体験を持ち幼児期の造形活動の意味について理解を深める。又、子どもの生活環境や経験、発達に応じた素材や課題の選択、意欲をひき出す動機付けや声かけ、用具の扱い方や環境の整備などについての理解を深める。					
学習成果到達目標	1) 子どもの表現に関心を持ちながら、図画工作についての知識と技術を学習する。 2) 子どもが造形表現によって伝えたい内容を理解できる柔軟な感性を養う。					
評価方法	定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点		<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (造形力) <input checked="" type="checkbox"/> (表現力)			
テキスト	花篤實・岡田敬吾編『新造形表現実技編』(三晃書房)(1回生春学期購入のものを使用)					
参考書	使用しない。					
留意事項	第1回から7回の授業は、ゼミ単位のチームによる創作活動になります。 子どもとの関わりや造形活動にふさわしい服装や態度、言葉遣いを心がけること。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	子どもデパート①		(内 容) 子どもデパートのための課題の説明 (必要な準備) さまざまな技法を復習しておく			
第2回	子どもデパート②		(内 容) 課題についてのグループでの相談する (必要な準備) 配布プリントを読む			
第3回	子どもデパート③		(内 容) 材料について理解し、工夫する (必要な準備) さまざまな素材を探しておく			
第4回	子どもデパート④		(内 容) 展示の環境構成について工夫する (必要な準備) 子どもの動きと活動について考えておく			
第5回	子どもデパート⑤		(内 容) 華頂祭での作品の準備と展示 (必要な準備) 展示作業などの予定を立てておく			
第6回	子どもデパートの発表		(内 容) 子どもと関わり、子どもを理解する (必要な準備) 子どもの発達について調べておく			
第7回	子どもデパートのまとめと考察		(内 容) 課題が達成できたか。レポートと考察 (必要な準備) 自らの取り組みについて考えておく			
第8回	指絵の具をつくる		(内 容) 指絵の具の制作と指絵の表現 (必要な準備) テキスト 24 項を読んでおく			
第9回	小麦粉粘土をつくる		(内 容) 小麦粉粘土の制作と遊び (必要な準備) テキスト 33 項を読んでおく			
第10回	張り子の制作1		(内 容) かたちをつくり、和紙を貼り込む (必要な準備) アイデアを考えておく			
第11回	張り子の制作2		(内 容) 彩色とニス塗り (必要な準備) 前回の内容を完成させておく			
第12回	マーブリング1		(内 容) マーブリング紙をつくる (必要な準備) テキスト 27 項を読んでおく			
第13回	マーブリング2		(内 容) マーブリング紙で何かをつくる (必要な準備) アイデアを考えておく			
第14回	スライムをつくる		(内 容) スライムの制作と遊びへの展開 (必要な準備) テキスト 32 項を読んでおく			
第15回	まとめ		(内 容) しポートと講評 (必要な準備) 自らの活動について考えておく			
オフィスアワー	登録学生の時間割により決定し研究室前に掲示する。					

授業名	小児体育 I a・I b・I c・I d	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Infant Physical Education I	開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択
担当者	佐東 恒子・山本 武司	対象学生	幼児教育1ya~yc・yd~yf・yg~yi・yj~yl		
授業の概要	幼児期は生涯にわたる健康の基礎をつくる時期であり、子どもの発達に適した運動経験を積んでいく必要がある。運動遊びの実践を通して、遊びの中で体を動かす楽しさを体験し、それらの遊びの特性について理解を深める。子どもの発育・発達を視野に入れながら、多様な運動遊びの指導や援助について学習する。				
学習成果到達目標	1) 保育現場で運動遊びを実践する時、理解しておかなければならない理論と実践を学び指導できるようにする。 2) 子どもが楽しいと思う、運動遊びの指導ができる保育者になることを目標とする。 3) 子どもの発育・発達を理解し集団遊びの指導が出来るようになることを目標とする。				
評価方法	定期試験 (60 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	幼児体育（基礎理論と指導の方法） 前橋明編著 発行所 樹村房				
参考書	①『幼児の運動あそび』菊池秀範・石井美晴編著（相川書房） ②『05歳児の運動遊び指導百科』前橋明著かりのくに株式会社				
留意事項	保育者として現場に立つ時の事を考えて、積極的に運動遊びに取り組んでもらいたい。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の目的や、授業の進め方について説明。 子どもの運動遊びの必要性について理解する。 (必要な準備)			
第2回	基本の運動	(内 容) 歩くと走るの違いについて知る。歩く・走る・跳ぶの動きから、いろいろな遊びに発展させる。 (必要な準備) 基本の運動にはどのような運動があるか考える。			
第3回	リズム運動	(内 容) いろんなリズムに反応して動いてみる。(反応遊び) 2拍子～4拍子のリズム遊び (必要な準備) どんなリズムが有るのか考えておく			
第4回	リズムダンス	(内 容) 楽しくリズムに合わせて体を動かし、表現力を身につける。子どもが楽しめるリズムダンス (必要な準備) 幼児の好きな曲を選曲しておく。			
第5回	ボール遊び	(内 容) ボールの特性を知る。つく・蹴る・ころがす・投げる・受ける・などの遊びを行う。 (必要な準備) 少人数のボール遊びを考えておく			
第6回	ボールでゲーム遊び	(内 容) 多人数でのボール遊び。いろんなゲーム遊びを体験し、子ども達に楽しいゲーム遊びを提供出来るようにする。 (必要な準備) 子どものころに遊んだゲーム遊びを書き出す			
第7回	フープ遊び	(内 容) フープの特性を知り、まわす・転がす・くぐる・投げる・跳ぶ遊びを行う。 (必要な準備) 色々なフープ遊びを考えておく。			
第8回	フープでゲーム遊び	(内 容) グループでのフープ遊びを行う。グループで競争ゲームを行う。協力する事を経験する。 (必要な準備) いろいろゲーム遊びを考えておく			
第9回	マット遊び	(内 容) 床を利用していろいろな動きを行う。(床となかよし 這い這いで進む、動物遊び) (必要な準備) いろんな動物のうごきを考える			
第10回	マット遊びの補助	(内 容) マット遊びの注意点について説明。前転・後転側転遊びの補助の方法を学ぶ。 (必要な準備) 補助で大事な事は何かを考える			
第11回	体操をつくる	(内 容) 体操の基本的な考え方を学び、グループで体操をつくる。幼児の年齢に合った体操を考える (必要な準備) 何歳の体操を創るのか、曲を選んでおく。			
第12回	体操をつくる 曲を選択する	(内 容) 体操の動きを見直しより良い体操に仕上げる。 (必要な準備) 体操の動きの流れを見直す。			

第 13 回	体操の発表	(内 容) 発表した体操の評価をする。評価表を配付する。 各自責任を持って評価をする。 (必要な準備) 創作した体操を自分の動きとなるように練習。
第 14 回	パラバルーン遊び	(内 容) パラバルーンの扱い方を知る。みんなと協力して 行う遊びである事を知る。 (必要な準備) パラバルーンの遊びを調べる。
第 15 回	まとめ	(内 容) 授業全体の振り返りを行う。 (必要な準備) 幼児の運動遊びで大切な事をまとめておく。
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。	

授業名	小児体育Ⅱ	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Infant Physical EducationⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	佐東 恒子	対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	幼児の発育発達に応じた運動や遊びを、安全に指導や援助が出来る知識と技術を学ぶ。運動指導のレパトリーを広げることができるように学ぶ。指導内容について話し合い振り返りを行うことで、各自の力を身につけていく。子どもが能動的に運動するには、適切な環境構成と適時な活動の提案が必要であることを学ぶ。集団遊びの指導ができる力を身につける。				
学習成果到達目標	1) 子ども達の年齢にあった運動遊びを考え、指導と援助が出来るようにする。 2) 集団でのゲーム遊びの指導や、一人一人を理解し指導の出来る保育者になることを目標とする。 3) 手具を使って運動遊びを考え、子どもたちが楽しいと思える指導が出来るようにする。				
評価方法	定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	幼児体育（基礎理論と指導の方法） 前橋明編著 発行所 樹村房				
参考書	①『幼児の運動あそび』菊池秀範・石井美晴編著（相川書房） ②『05歳児の運動遊び指導百科』前橋明著かりのくに株式会社） ③『保育と幼児期の運動あそび』岩崎洋子編著（萌文書林）				
留意事項	運動遊びを楽しむ心を持ち続けて、子ども達に遊びを提供出来る指導者を目指してもらいたい。 授業で学習した内容をノートにまとめておく。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス	(内容) 本授業のねらい等についてガイダンスを行う。授業の進め方について説明。 (必要な準備) 小児体育Ⅰの授業内容を振り返っておく。			
第2回	基本の運動	(内容) 歩く・走る・跳ぶからゲーム的な遊びに発展させ、ふれあい遊びと展開する。 (必要な準備) 基本の運動にはどんな動きがあるか調べる			
第3回	リズム運動	(内容) 2歳児から5歳児用のリズムダンスを行いリズムダンスの楽しさを知る。 (必要な準備) 知っているリズムダンスを調べておく			
第4回	リズム遊びの指導	(内容) リズムに乗って動く事の重要性を学ぶ。指導者と子ども役になって行う。 (必要な準備) リズムダンスの復習をしておく			
第5回	用具を使用しない遊び	(内容) 体のふれあい遊び・ジャンケン遊び（少人数の遊び・グループでの遊び） (必要な準備) ジャンケン遊びにはどんな遊びがあるかを調べておく			
第6回	鬼遊び	(内容) いろんな鬼遊びを行い、グループで鬼遊びを考え発表をする。 (必要な準備) 知っている鬼遊びを発表できるようにしておく			
第7回	ウォーミングアップの学習	(内容) 子ども達が積極的に取り組みたくなるウォーミングアップの内容を考え実践していく。 (必要な準備) 各自動きを考えノートにまとめておく。			
第8回	ウォーミングアップの指導	(内容) 各自が考えたウォーミングアップを、それぞれが指導者になり、皆に指導をする。（指導案の作成） (必要な準備) ウォーミングアップの指導が出来るようにする。			
第9回	サーキット遊び	(内容) サーキット遊びの特性について理解する。サーキット遊びを実践して楽しさを知る。 (必要な準備) 配付したプリントを読んでおく			
10回	サーキット遊びを考える	(内容) 各班で子どもの年齢にあったサーキット遊びを考え、用具のセッティングにも注意する。（発表する） (必要な準備) サーキットの内容を年齢別に考えてまとめておく。			
第11回	用具を使つての遊び	(内容) 各班で用具（フープ・ボール）を使って遊びを考える。 (必要な準備) 幼児の年齢に応じた遊びを考えておく。			
第12回	用具を使つてリズム体操	(内容) 用具を使って（ボール・フープ）リズム体操を考える。 (必要な準備) リズム体操にあう曲を選んでおく。			

第 13 回	短縄遊び	(内 容) 短縄を使っているような遊びを行う。短縄を使ってグループで遊びを考え発表する。 (必要な準備) 縄でどんな遊びが出来るか考えておく
第 14 回	長縄遊び	(内 容) 長縄を使っている遊び(縄くぐり・郵便屋さん・伝承遊び・いろんな跳び方をしてみよう。) (必要な準備) 長縄でどんな跳び方をして遊んでいたかまとめておく。
第 15 回	まとめ	(内 容) 授業全体の振り返りを行う。 (必要な準備) 自分が得意とする遊びをノートに書き出しておく。
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。	

授業名	保育内容・健康 a・b	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Child Care:Health	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	山本 明美	対象学生	幼児教育2ya~yg、yh~yn		
授業の概要	子どもが健康で安全な生活を送ることが出来るよう、保育者が配慮すべき事項について学ぶ。子どもたちの運動量の減少と遊び体験の減少による運動不足からくる肥満児の増加や、空腹感や疲労感の減少からくる生活リズムの乱れの問題。家庭生活では孤食や夜型の生活が広がり、園生活に大きな影響を及ぼしつつある現状を理解する。				
学習成果到達目標	1) 幼児期における心身の健康に関する現状を理解すると共に、健康生活に必要な生活習慣の形成やその確立の重要性を理解する。 2) 身体の発育・発達に関する基礎的な知識を習得する。 3) 子どもが安全に過ごすために、保育者はどのような点に気をつけて保育に携わっていくべきかについて理解することを目標とする。				
評価方法	定期試験 (70%)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> ()		
テキスト	保育ライブラリー（保育内容健康）北大路書房				
参考書	演習保育内容健康 建帛社				
留意事項	自分自身は「健康」に関してどのような問題意識をもっているのか考えてみよう。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション		(内 容) 保育内容「健康」の内容について (必要な準備)		
第2回	子どもの健康な生活とは		(内 容) 生活リズムの変化 (必要な準備) 健康な生活リズムについて考えをまとめておく		
第3回	幼児の健康		(内 容) 幼児の健康状態の把握 (必要な準備) 教科書P14～P23を読んでおく		
第4回	幼児の発達理解		(内 容) 乳幼児の体格と生理機能の発達 (必要な準備) 教科書P26～P39を読んでおく		
第5回	運動機能の発達		(内 容) 子どもたちがどのような運動が出来るのか、どの程度能力があるのか把握する。 (必要な準備) 教科書P40～P52を読んでおく		
第6回	心の発達と健康		(内 容) 子どもものの考え方・子どもの道徳判断 (必要な準備) 教科書P53～P64読んでおく。		
第7回	幼児のあそびの発達		(内 容) あそびとは何か・あそびの発達過程 (必要な準備) 今のこどもはどんなあそびをしているのか調べる。		
第8回	あそびを豊かにする保育者の役割		(内 容) 者の役割について理解する。 (必要な準備) 遊びを豊かにする方法を考える。		
第9回	幼児の体格・運動能力測定法		(内 容) 運動能力の年代変化と問題 (必要な準備) 教科書P80～P86 P103～P118読んでおく		
第10回	幼児の生活スタイル		(内 容) 幼児の生活スタイルの現状と問題点 (必要な準備) 生活習慣の形成における保育者の役割を考える。		
第11回	安全管理と安全教育		(内 容) 安全管理と安全教育の必要性 (必要な準備) 教科書P120～P130読んでおく		
第12回	応急処置法		(内 容) 手当の順序・けがに対するてあて (必要な準備) 自分が経験した応急処置を書き出す。		
第13回	保育における健康行事		(内 容) 保育における年間行事 (必要な準備) 幼稚園・保育園の年間行事の内容を調べる。		
第14回	保育の計画と指導案		(内 容) 年間指導計画と短期の指導計画・保育評価 (必要な準備) 教科書P155～P165読んでおく		
第15回	まとめ		(内 容) 保育者の役割について確認する (必要な準備) 保育者の役割についてまとめておく		
オフィスアワー	木曜日 午後16時から18時まで				

授業名	保育内容・人間関係 a	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Child Care: Human Relations	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	鈴木 えり子	対象学生	幼児教育1ya~yf		
授業の概要	乳幼児の心身は周囲の人との出会いやかかわりを基盤として発達していくことを理解する。子どもを取り巻く人々との相互関係のなかで「人とかかわる力」をどのように形成していくかを理解し、そのうえで、保育者がどのような役割を果たさなければならないかについて、具体的な事例を取り上げ、検討していく。				
学習成果到達目標	1) 保育内容「人間関係」のねらいと内容を理解し、基本的知識を身につける。 2) 人間関係の発達過程を、個人・集団の両面からとらえ、人的環境への理解を深める。 3) 子どもが望ましい人間関係を培うことができるようにするための保育者の役割と課題を理解する。				
評価方法	定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	『子どもの心の育ちと人間関係』寺見陽子編 保育出版社 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館				
参考書	授業中に随時紹介する。プリントは適宜配布する。				
留意事項	グループワークや発表があるので、自分自身が人とかかわる力を身につけることを意識して、積極的に授業に臨むこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 自分自身の人間関係を振り返る。 (必要な準備) テキスト 10p-13p を読んでおく			
第2回	保育の基本と領域「人間関係」の歴史の変遷	(内 容) 領域「人間関係」の位置づけを学ぶ。 (必要な準備) テキスト 28p-29p を読んでおく。			
第3回	領域「人間関係」のねらいと内容	(内 容) 領域「人間関係」のねらい・内容を学ぶ。 (必要な準備) テキス 30p-31p を読んでおく。			
第4回	人とかかわる力の発達①(0歳児)	(内 容) 0歳児の発達課題と人と関係を学ぶ。 (必要な準備) テキスト 34p-51p を読んでおく。			
第5回	人とかかわる力の発達②(1, 2歳児)	(内 容) 1.2歳児の発達課題と人との関係を学ぶ。 (必要な準備) テキス 52p-69p を読んでおく。			
第6回	人とかかわる力の発達③(3歳児)	(内 容) 3歳児の発達課題と人との関係を学ぶ。 (必要な準備) テキスト 70p-87p を読んでおく。			
第7回	人とかかわる力の発達④(4歳児)	(内 容) 4歳児の発達課題と「ひと環境」を学ぶ。 (必要な準備) テキスト 88p-103p を読んでおく。			
第8回	人とかかわる力の発達⑤(5歳児)	(内 容) 5歳児の発達課題と人との関係を学ぶ。 (必要な準備) テキスト 106p-123p を読んでおく。			
第9回	個の育ちと集団の育ち、遊びの意義と発達	(内 容) 保育における個の育ちと集団の育ちを理解する。 (必要な準備) テキスト 104-105p、124p を読んでおく。			
第10回	気になる子どもとのかかわりや援助について	(内 容) 個々へのかかわりについて事例を通して学ぶ。 (必要な準備) テキスト 126p-139p を読んでおく。			
第11回	人とのかかわり方を実践する①	(内 容) 人とのかかわり方を実践発表する。 (必要な準備)			
第12回	人とのかかわり方を実践する②	(内 容) 人とのかかわり方を実践発表する。 (必要な準備)			
第13回	人とのかかわり方を実践する③	(内 容) 人とのかかわり方を実践発表する。 (必要な準備)			
第14回	道徳性の芽生えとは	(内 容) 社会規範、道徳性、きまりについて理解する。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。			
第15回	家庭・地域との連携について(園だより、クラスだより・園行事)	(内 容) 園だより、クラスだよりの意義や書き方のポイント、地域との連携を学ぶ。 (必要な準備) 園行事を振り返ってみる。			
オフィスアワー	月曜日 午後15時から17時まで				

授業名	保育内容・人間関係b	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Child Care: Human Relations	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	名賀 亨	対象学生	幼児教育1yg～yl		
授業の概要	子どもは、保育者や友達との遊びや生活の中で、人とかかわる力が育まれる。人とかかわる力の発達過程と課題をふまえ、また、子ども個人と集団を理解する上で大切な視点であるトラブルの意義・道徳性の育ち・協同する力の育ち等にも焦点を当てて、保育内容領域「人間関係」の理解をすすめる。現場の事例やビデオ視聴などを随時取り入れながら、具体的に学んでいく。				
学習成果到達目標	1) 保育内容領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。 2) 人間関係の発達過程を知り、個人・集団の両面から子ども理解をすすめる。 3) 子どもと共に生活をつくり出す保育者の姿勢と適切な援助方法を身につける。				
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』				
参考書	授業中に提示する。				
留意事項	アクティブラーニングの要素を組込んだグループワークやワークショップ形式の授業を取り入れていくため、自分自身が人とかかわることを意識して積極的に授業に参加すること。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の内容と進め方、評価方法などの説明 (必要な準備) シラバスを読んでおくこと			
第2回	保育の基本と「人間関係」	(内 容) 保育の基本と領域「人間関係」について学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく			
第3回	領域「人間関係」のねらいと内容	(内 容) 領域「人間関係」のねらい・内容・注意事項について学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく			
第4回	人とかかわる力の発達 1 (0～3 歳未満児)	(内 容) 人とかかわる力の発達の基礎と乳児期の人間関係の発達の特徴について学ぶ。 (必要な準備) 領域「人間関係」のねらい・内容を覚える			
第5回	人とかかわる力の発達 2 (3 歳児)	(内 容) 3 歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) 授業の復習をしておく			
第6回	人とかかわる力の発達 3 (4 歳児)	(内 容) 4 歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第7回	人とかかわる力の発達 4 (5 歳児)	(内 容) 5 歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) 授業の復習をしておく			
第8回	人とのかかわりを育てる保育内容 1	(内 容) 人とかかわる力を育てる保育内容を考える (必要な準備) 前回までの授業の復習をしておく			
第9回	人とのかかわりを育てる保育内容 2	(内 容) 人とかかわる力の発達を考える (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第10回	トラブルの中で成長する子ども	(内 容) トラブルの必要性と保育者の援助を考える (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第11回	道徳性の芽生え	(内 容) 集団生活を営むために必要な力を考える (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第12回	個と集団の育ち	(内 容) 協同体験が個人と集団を育むことを学ぶ (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第13回	人とのかかわりが難しい子どもへの支援 1 気になる子どもの援助	(内 容) 人間関係が気になる子どもの援助を考える (必要な準備) 授業の復習をしておく			
第14回	人とのかかわりが難しい子どもへの支援 2 発達障がい児の援助	(内 容) 発達障害と子どもへの援助について学ぶ (必要な準備) 授業の復習をしておく。			
第15回	まとめ	(内 容) これまでの授業を振り返りまとめる。 (必要な準備) これまでの内容の復習をしておく。			
オフィスアワー	水曜日 昼休み				

授業名	保育内容・環境a	開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Child Care: Environment	開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	浅田 瞳	対象学生	幼児教育2ya~yg			
授業の概要	子どもが周囲の環境に好奇心や探求心をもって関わるために、保育者として必要な配慮は何かを考えていく。子どもの興味を養うためには、まず保育者自身が好奇心や探求心をもって、自然や社会に関わっていくことが必要である。そこで、日常的に目にする木々や植物の実り、昆虫や小動物の生態に関心をもてるようにすることや、動植物の飼育栽培の実践を紹介する。また、それらを図鑑で調べることによって文字や数に関心をもてるようにするなど、子どもの自発性を重視して、子どもの認識を高めるかかわりを考えていく。					
学習成果到達目標	1) 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容を理解する。 2) 子どもを取り巻く身近な環境とのかかわりについて学ぶ。 3) 身近な環境にかかわって展開する活動を指導する方法について学ぶ。					
評価方法	定期試験 (30 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (70 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技				
評価基準	主たる評価の観点 <input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 4"="" type="checkbox/>()</td> <td colspan="/>					
テキスト	近藤幹生監修 徳安敦・瀧川光治著・編『生活事例からはじめる保育内容環境』（青踏社）					
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）					
留意事項	『環境』に関する理論面は、講義を通し理解を深め、指導の実際面に関しては、学生自身による課題を発表形式で進める。保育における環境領域の活動事例をとりあげ、教材研究や体験を通し学生達自身で深め、レジュメなどに簡潔にまとめ、発表する。授業への積極的な参加をし、日常生活への研究心をもち興味・関心を深める。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション・「環境」とは		(内 容) 授業進め方の説明・人と環境との関わりを理解する。 (必要な準備) 教科書 1～5			
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針改訂及び領域「環境」について、保育内容のとらえ方と考え方		(内 容) 幼稚園教育要領、保育所保育指針における改訂の主旨と領域「環境」・保育内容「環境」について学ぶ (必要な準備) 教科書 11～44			
第3回	子どもの環境と保育者		(内 容) 環境への積極的なかかわりのあそびと子どもについて考え、意見交換をする (必要な準備) 環境領域の発表の準備 話し合い			
第4回	子どもの活動や生活と「環境」		(内 容) 乳幼児の発達と環境との関わりについて学ぶ (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく			
第5回	乳幼児の主体的な生活と領域「環境」		(内 容) 乳幼児の主体的な生活と領域「環境」との関わりについて学ぶ (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第6回	園外活動によって育つもの		(内 容) 散歩、遠足、社会見学などのねらい、保育者の留意点 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第7回	季節による保育活動		(内 容) 身近な植物と保育活動でのかかわり、基礎的な知識を理解し発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第8回	身近な動物と保育活動		(内 容) 身近な動物の飼育など子どもとのかかわり、保育活動について調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第9回	科学性を伸ばすあそびと子ども①		(内 容) 空気、水の遊びについて調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第10回	科学性を伸ばすあそびと子ども②		(内 容) 音、光、磁石の遊びについて調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第11回	数量・図形、文字、標識へのかかわり、その感覚をのばすためのあそびと子ども		(内 容) 数量・図形、文字、標識へのかかわり、その感覚をのばすためのあそびについて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく			

第12回	領域「環境」指導上の問題点	(内 容) 領域「環境」指導上の問題点を理解する (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく
第13回	領域「環境」の留意事項	(内 容) 領域「環境」の留意事項を学ぶ。 (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく
第14回	領域「環境」における保育者の役割	(内 容) 領域「環境」における保育者の役割について学ぶ (必要な準備) 教科書を読んでおく
第15回	環境を通して子どもたちの保育を考える	(内 容) 「環境」と保育の関係性について振り返る。 (必要な準備) 教科書を読んでおく
オフィス アワー	第1回目の授業にて告知。	

授業名	保育内容・環境b	開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Child Care:Environment	開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	浅田 瞳	対象学生	幼児教育2yh～yn			
授業の概要	子どもが周囲の環境に好奇心や探求心をもって関わるために、保育者として必要な配慮は何かを考えていく。子どもの興味を養うためには、まず保育者自身が好奇心や探求心をもって、自然や社会に関わっていくことが必要である。そこで、日常的に目にする木々や植物の実り、昆虫や小動物の生態に関心がもてるようにすることや、動植物の飼育栽培の実践を紹介する。また、それらを図鑑で調べることによって文字や数に関心がもてるようにするなど、子どもの自発性を重視して、子どもの認識を高めるかかわりを考えていく。					
学習成果到達目標	1) 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容を理解する。 2) 子どもを取り巻く身近な環境とのかかわりについて学ぶ。 3) 身近な環境にかかわって展開する活動を指導する方法について学ぶ。					
評価方法	定期試験 (30 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (70 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技				
評価基準	主たる評価の観点 <input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 4"="" type="checkbox/>()</td> <td colspan="/>					
テキスト	近藤幹生監修 徳安敦・瀧川光治著・編『生活事例からはじめる保育内容環境』（青踏社）					
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）					
留意事項	『環境』に関する理論面は、講義を通し理解を深め、指導の実際面に関しては、学生自身による課題を発表形式で進める。保育における環境領域の活動事例をとりあげ、教材研究や体験を通し学生達自身で深め、レジュメなどに簡潔にまとめ、発表する。授業への積極的な参加をし、日常生活への研究心をもち興味・関心を深める。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション・「環境」とは		(内 容) 授業進め方の説明・人と環境との関わりを理解する。 (必要な準備) 教科書 1～5			
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針改訂及び領域「環境」について、保育内容のとらえ方と考え方		(内 容) 幼稚園教育要領、保育所保育指針における改訂の主旨と領域「環境」・保育内容「環境」について学ぶ (必要な準備) 教科書 11～44			
第3回	子どもの環境と保育者		(内 容) 環境への積極的なかかわりのあそびと子どもについて考え、意見交換をする (必要な準備) 環境領域の発表の準備 話し合い			
第4回	子どもの活動や生活と「環境」		(内 容) 乳幼児の発達と環境との関わりについて学ぶ (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく			
第5回	乳幼児の主體的な生活と領域「環境」		(内 容) 乳幼児の主體的な生活と領域「環境」との関わりについて学ぶ (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第6回	園外活動によって育つもの		(内 容) 散歩、遠足、社会見学などのねらい、保育者の留意点 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第7回	季節による保育活動		(内 容) 身近な植物と保育活動でのかかわり、基礎的な知識を理解し発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第8回	身近な動物と保育活動		(内 容) 身近な動物の飼育など子どもとのかかわり、保育活動について調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第9回	科学性を伸ばすあそびと子ども①		(内 容) 空気、水の遊びについて調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第10回	科学性を伸ばすあそびと子ども②		(内 容) 音、光、磁石の遊びについて調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第11回	数量・図形、文字、標識へのかかわり、その感覚をのばすためのあそびと子ども		(内 容) 数量・図形、文字、標識へのかかわり、その感覚をのばすためのあそびについて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく			

第12回	領域「環境」指導上の問題点	(内 容) 領域「環境」指導上の問題点を理解する (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく
第13回	領域「環境」の留意事項	(内 容) 領域「環境」の留意事項を学ぶ。 (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく
第14回	領域「環境」における保育者の役割	(内 容) 領域「環境」における保育者の役割について学ぶ (必要な準備) 教科書を読んでおく
第15回	環境を通して子どもたちの保育を考える	(内 容) 「環境」と保育の関係性について振り返る。 (必要な準備) 教科書を読んでおく
オフィス アワー	第1回目の授業にて告知。	

授業名	保育内容・言葉 a・b・c・d	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Child Care:Language	開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択
担当者	遠藤 純	対象学生	幼児教育2ya~yd, ye~yg, yh~yk, yl~yn		
授業の概要	ことばと思考の関係について考えながら、乳幼児期のことばの発達をおさえて、ことばを育むことばがけ、あそび、児童文化財について考察する。				
学習成果到達目標	1) ことばを育むことの意味を知り、そのための手だてを習得する。 2) ことばと思考との関わりを理解し、子どもと言葉の関係について深く知る。 3) ことばをはぐくむ児童文化について理解を深め、その歴史や現状、特徴を理解する。				
評価方法	定期試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	配布プリント				
参考書	なし				
留意事項	真摯な態度での受講を望む。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	幼児教育におけることばの教育の意味	(内 容) 授業の目的と内容について解説する。 (必要な準備)			
第2回	ことばとは何か	(内 容) ことばとは何か (必要な準備) ことばと思考の関係について調べておく。			
第3回	乳幼児期のことばの発達1	(内 容) 0, 1, 2歳児のことばの発達を考える。 (必要な準備) 実習での子どもの発したことばを振り返っておく。			
第4回	乳幼児期のことばの発達2	(内 容) 3, 4, 5歳児のことばの発達を考える (必要な準備) 実習での子どものことばを振り返っておく。			
第5回	ことばが育つ環境と保育者の役割 聞くこと・話すことの指導	(内 容) 保育者のことばがけについて (必要な準備) 実習で子どもの対して発した保育者としての ことばについて振り返っておく。			
第6回	ことばが育つ環境と保育者の役割 ことばの発達と障がい	(内 容) 子どものことばの発達と障がいのあるこども への指導について (必要な準備) ことばに発達のある子どもへの関わりについ て考えをまとめておく。			
第7回	ことばが育つ環境と保育者の役割 保育者と園の役割	(内 容) 保育者と保護者、園の役割について (必要な準備) 子どもへの関わり方について、三者それぞれの 役割について考えをまとめておく。			
第8回	ことばを育む保育教材 1	(内 容) 絵本とは何か1 (必要な準備) 絵本の基本的な読み方について考えておく。			
第9回	ことばを育む保育教材 2	(内 容) 絵本とは何か2 (必要な準備) 絵本の特徴について考えておく。			
第10回	ことばを育む保育教材 3	(内 容) 童話、お話の歴史 (必要な準備) 童話とお話の違いについて調べておく。			
第11回	ことばを育む保育教材 4	(内 容) 児童文学の歴史 (必要な準備) 子どもの文学の歴史について調べておく。			
第12回	ことばを育む保育教材 5	(内 容) 紙芝居 (必要な準備) 紙芝居の特徴について考えておく。			
第13回	ことばを育む保育教材 6	(内 容) パネルシアター (必要な準備) パネルシアターの特徴について考えておく。			
第14回	文字指導	(内 容) 文字指導の内容と方法について (必要な準備) 文字指導の方法について考えておく。			
第15回	授業のまとめ	(内 容) 授業全体を通しての質疑応答 (必要な準備)			
オフィスアワー	授業の初回に連絡する。				

授業名	保育内容・表現 I a・I b・I c・I d	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Child Care: Expressions I	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	山部 泰司・服部 正志	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	感性と創造力を育てる領域「表現」の理解を深めるための演習。さまざまな演習で仲間と表現を伝えあうことの大切さを学ぶ。毎回、テーマを設定し、さまざまな表現活動を行うとともに、その表現体験のレポートによって体験を記録し考察する力を養う。学習項目は、学生の個性や進度によって変更することがある。				
学習成果到達目標	1) 子どもの表現を理解し、表現の意欲を育てる指導法についての知識を深める。 2) 自ら表現する楽しさ、お互いの「表現」から学ぶことの楽しさ、豊かさを実感する。 3) お互いの個性を理解し、協力しながら活動する力を養う。				
評価方法	定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (表現力) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	花篤實・岡田敬吾編『新造形表現 実技編』（三晃書房）（1回生春学期購入のものを使います）				
参考書	使用しない。				
留意事項	普段からさまざまな表現活動に対する関心を持つこと。 造形表現にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい態度や気持ちを忘れないこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	導入	(内 容) 「表現」領域のねらいとその内容を知る (必要な準備) テキストを用意する			
第2回	教室全体を使って落書きする	(内 容) 身体スケールを超えた空間を感じ表現する (必要な準備) 動きやすい服装で			
第3回	手のフォルムからの見立てによる表現	(内 容) 手に描く (必要な準備) 手の動きを観察しておく			
第4回	大きなこいのぼりをつくる	(内 容) 身近な素材（新聞紙等）による集団での造形 (必要な準備) 季節の行事に関心を持つ			
第5回	クモの巣をつくる	(内 容) 身近な素材（ロープ、紐等）による空間造形 (必要な準備) 動きやすい服装で			
第6回	ケント紙で高さ比べ	(内 容) グループで背の高い構築物を作る (必要な準備) 造形の動機付けについて考えておく			
第7回	個性的な帽子をつくる	(内 容) 和紙、新聞紙による変身遊び (必要な準備) いろいろな帽子の作り方について調べる			
第8回	リレー童話をつくる	(内 容) グループで創作童話を作る (必要な準備) 頭を柔軟にしておく			
第9回	リレー童話の音読	(内 容) リレー童話を発表 (必要な準備) 童話の読み方を練習しておく			
第10回	新聞紙で造形する	(内 容) テーマを決定する力を養う (必要な準備) コミュニケーション力を高めておく			
第11回	折りたたみシアターをつくる	(内 容) 折りたたみシアターの制作 (必要な準備) テーマやアイデアを考えておく			
第12回	折りたたみシアターの発表	(内 容) 折りたたみシアターを発表する (必要な準備) 模擬保育の場を想定しておく			
第13回	季節の絵・「夏」	(内 容) 夏の子どもの生活を描く (必要な準備) 壁面制作について理解する			
第14回	季節の絵・「秋」	(内 容) 秋の子どもの遊びを描く (必要な準備) 就職活動における造形課題について知る			
第15回	まとめ	(内 容) レポートと講評 (必要な準備) 授業での演習を復習、考察しておく			
オフィスアワー	学生の時間割により判断し、研究室前に掲示する。				

授業名	保育内容・表現Ⅱa・Ⅱb	開講学年	2年生	単位数	1単位
英文名	Child Care: Expressions Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	小林 志保	対象学生	幼児教育2ya～yd、ye～yg		
授業の概要	様々な身体表現の実習を通して、リズムによって動く楽しさや、イメージをふくらませて創造的に表現したり、演じたりする楽しさを学ぶ				
学習成果到達目標	1) 子どもの発育・発達に応じた身体表現あそびの指導・援助ができるようになる。 2) 子どもの発育・発達に応じた身体表現活動の展開ができるようになる。				
評価方法	定期試験 (30 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (70 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input "="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checkbox"="" type="checkbox/>(</td> <td><input type="/> 課題発見・解決能力 <input 5"="" type="checkbox/>(</td> <td></td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> 特になし			
参考書	「保育者養成のためのテキスト身体表現 古市久子 北大路書房」「表現するよるこびを伝えるミュージカル遊び 新リズム表現研究会 ひかりのくに」 「元気な子どもを育てる幼児体育 前橋明 他 保育出版社」				
留意事項	積極的な受講姿勢を尊重します。健康維持に留意し、室内シューズ、運動着を着用すること。次々と新しい教材を学ぶので、毎回各自で復習をしっかりとすること。授業の進行具合により、学習項目が変更になる場合もある。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	幼稚園教育要領 領域「表現」のねらいと内容について		(内 容) 領域「表現」について学ぶ (必要な準備) 幼稚園教育要領 領域「表現」を読んでおく		
第2回	心と体を動かすふれあいあそび		(内 容) 心と体をはぐくむふれあいあそびを学ぶ (必要な準備) 自分が小さいころにしていた動きやあそびなどを思い出しておく		
第3回	心と体を巧みに動かす表現		(内 容) 体を操る・動かす、基本動作を学ぶ (必要な準備) 筋肉・骨格・神経系などの基礎知識を調べる		
第4回	リズムダンス実習 - リズムダンスの導入方法		(内 容) 種々のリズム遊びの導入方法を学ぶ (必要な準備) リズムあそびについて調べる		
第5回	リズムダンス実習 - リズムダンスの展開方法		(内 容) 種々のリズム遊びの展開方法を学ぶ (必要な準備) リズムあそびの工夫について調べる		
第6回	リズムダンス創作		(内 容) 自分で考えて振りをつける (必要な準備) いろいろ工夫を考える (高低、強弱、方向)		
第7回	リズムダンス創作発表		(内 容) 創作したダンスを発表する (必要な準備) 他の人の創作を観て学ぶ		
第8回	フォークダンス実習		(内 容) 子ども向けの楽しく簡単なフォークダンスを学ぶ (必要な準備) フォークダンスの背景、歴史、特長などを調べる		
第9回	チアダンス実習		(内 容) チアダンスの基本を学ぶ (必要な準備) 表現としてのチアダンスについて考える		
第10回	チアリーディング実習		(内 容) チアリーディングの基本を学ぶ (必要な準備) チアダンスやチアリーディングを見る		
第11回	表現方法の実習		(内 容) テーマに合った動きの工夫、楽しくなる工夫を学ぶ グループ編成をする (必要な準備) 作品に合う音楽・効果音、小物を探しておく		
第12回	創作		(内 容) グループ練習を行う (必要な準備) 動きと音楽、必要な小物などを合わせてみる		
第13回	創作		(内 容) グループ練習を行う (必要な準備) テーマが表現されているか確認する		
第14回	創作作品発表		(内 容) 創作した作品を発表する (必要な準備) 他の人の創作を観て学ぶ		
第15回	「表現あそび」についてのまとめ		(内 容) 授業を振り返り、表現あそびについて考える (必要な準備) 授業内容を振り返り、学んだ事を整理する		
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授業名	保育内容・表現Ⅱc・Ⅱd	開講学年	2年生	単位数	1単位
英文名	Child Care: Expressions II	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	山本 満佐子	対象学生	幼児教育2yh～yk、2yl～yn		
授業の概要	保育現場で行われる器楽合奏について知り、打楽器の奏法を習得する。リズムに合わせて動く楽しさや、イメージをふくらませて創造的に表現することの楽しさを、演習を通して学ぶ。				
学習成果到達目標	1) 子どもの発育・発達に応じた身体表現あそび・音楽表現活動の指導・援助および活動の展開ができる。 2) 保育の現場で自分にできることを明確にすることができる。 3) 基本的な知識を習得することにより、保育現場で起こりうる様々な問題に柔軟な対応力を身につける。				
評価方法	定期試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 5"="" type="checkbox/>()</td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> 最新保育講座 11 保育内容「表現」平田智久・小林紀子・砂上史子 編 ミネルヴァ書房			
参考書	『幼児の音楽教育』 森田百合子 他 教育芸術社				
留意事項	合奏やアンサンブルなど、練習を要する時は、担当のパート練習をしておくこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方・評価の方法などを説明 (必要な準備) テキスト領域「表現」を読む			
第2回	リズム遊び: 幼児と歌あそび	(内 容) 手あそび 指あそび (必要な準備) 知っている手遊びが正確にできるようにする			
第3回	リズム遊び: 手あそび歌の創作	(内 容) 手あそび 指あそびの動きを考えよう (必要な準備) シートの記入			
第4回	リズム遊び: 発表会	(内 容) オリジナル手あそび歌の発表 (必要な準備) シートの仕上げ			
第5回	器楽合奏: 奏法について	(内 容) 幼児向けの打楽器の奏法を知ろう (必要な準備) 打楽器の正しい持ち方・演奏の仕方を覚える			
第6回	器楽合奏: 楽器のふりわけ	(内 容) 担当楽器を決めて演奏 (必要な準備) 打楽器の名称を覚え、奏法を習得する			
第7回	器楽合奏: 音のバランス	(内 容) 他の楽器の音を聞いてリズムに合わせよう (必要な準備) 自分のパートを練習する			
第8回	器楽合奏: 曲想の表現	(内 容) 音楽の構成を考えて表現しよう (必要な準備) 正確に演奏できるように練習する			
第9回	小編成アンサンブル: 小グループによる選曲	(内 容) 曲の選択: グループ分け (必要な準備) 自分のパートを理解する			
第10回	小編成アンサンブル: 奏法の確認	(内 容) 創作活動 (必要な準備) スコア楽譜を正しく読み取る			
第11回	小編成アンサンブル: 発表会	(内 容) 練習・仕上げ (必要な準備) 正確に演奏できるように練習する			
第12回	リズム表現: いろいろなステップ	(内 容) テーマに合わせた音と動きを考えよう (必要な準備) テキストP44 演習問題1をする			
第13回	リズム表現: ポーズのカノン	(内 容) 動きを創ってみよう (必要な準備) テキストP44 演習問題2をする			
第14回	リズム表現: 速さとリズム	(内 容) 音を聞いて動いてみよう (必要な準備) テキストP79 演習問題2をする			
第15回	リズム表現: まとめ	(内 容) テーマに合わせて動いてみよう (必要な準備) テキストP144 演習問題1をする			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授業名	教育方法の研究 a・b	開講学年	2年生	単位数	2単位
英文名	Educational Method Research	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	堀出 雅人	対象学生	幼児教育2ya～yg、yh～yn		
授業の概要	幼稚園教育にふさわしい教育方法について考える。幼児期に遊びや生活を通して心身の調和のとれた発達の基盤を培うことができるよう保育を計画できる能力養う。授業では、①指導計画の要点と作成方法を学ぶ、②多様な幼児教育を知る、を通して、③これからの幼稚園教育の方法を考え、一人ひとりの教育実践につなげる。				
学習成果到達目標	1) 幼児の生活する姿や、幼児一人一人の幼児理解を深めつつ、幼児に必要な教育方法を考えることができる。 2) 幼児が集団生活の中で喜びと充実した学びの体験をしながら発達に必要な体験が積み重ねていける教育・保育計画を立案し、実践につなげることができる。 以上の2点から学内外において、教育・保育の体験を積み重ね専門知識の幅を広げ、実践力の習得をめざす。				
評価方法	定期試験 (60%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	担当者が作成したプリントを適宜配付する				
参考書	文部科学省(2013)幼稚園教育指導資料第1集 指導計画の作成と保育の展開(平成25年7月改訂)フレーベル館適宜、参考図書を紹介する				
留意事項	定期試験60%、平常試験40%の割合で評価する。平常試験40%のうち、20%が授業でのグループ学習の成果、15%が毎回授業時に提出をもとめるコメントカード、5%が授業への貢献(発言、進行促進など)				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	幼稚園教育における指導の意義が説明できる 「教育方法」を研究する意義を説明できる	(内容) (必要な準備)	幼稚園教育における指導の意義を学ぶ シラバスを読んでくる		
第2回	環境構成の意義が説明できる 結果主義重視の教育方法を説明できる	(内容) (必要な準備)	幼児教育での環境構成の意義を学ぶ 実習園等のホームページを研究してくる		
第3回	教育課程と指導計画の関係を説明できる 児童中心主義による教育方法を説明できる	(内容) (必要な準備)	教育課程と指導計画の関係を学ぶ 実習園等の教育計画を研究してくる		
第4回	指導計画①幼児の生活を捉えた記録ができる 活動主義の教育方法を説明できる	(内容) (必要な準備)	指導計画につなげる記録の取り方を学ぶ これまでの実習の記録をふりかえる		
第5回	指導計画②具体的なねらいや内容を設定できる 海外の教育方法の特色を説明できる イタリア	(内容) (必要な準備)	指導計画の「ねらい・内容」の書き方を学ぶ 責任実習案で取り上げたいテーマを考える		
第6回	指導計画③ねらいに応じた環境構成を説明できる 海外の教育方法の特色を説明できる イギリス	(内容) (必要な準備)	指導計画の環境構成の書き方を学ぶ 責任実習案の「ねらい・内容」を完成させる		
第7回	指導計画④具体的な環境構成の例を挙げられる 日本のしつけの特徴が説明できる	(内容) (必要な準備)	さまざまな場面の環境構成を学ぶ 責任実習案の「指導の要点」を完成させる		
第8回	指導計画④環境構成の予想図を作成できる 幼児のメディア利用について説明できる	(内容) (必要な準備)	環境構成を図式化する方法を学ぶ 責任実習案の「環境構成」を完成させる		
第9回	指導計画⑤指導案を作成できる ソーシャルスキルを伸ばす方法を説明できる	(内容) (必要な準備)	実習を想定して指導案を作成する 指導案の環境構成の予想図を完成させる		
第10回	1日の流れを予想した指導計画を説明できる 理想の幼稚園を創る① 幼稚園教育の課題	(内容) (必要な準備)	短期(週案・日案)の構成を学ぶ 幼稚園教育のよい点・課題点をまとめる		
第11回	行事と長期の指導計画の要点を説明できる 理想の幼稚園を創る②コンセプト(教育方針)	(内容) (必要な準備)	長期の指導計画の構成を学ぶ 幼稚園のコンセプト(教育方針)を考える		
第12回	指導計画の評価・改善のポイントを説明できる 理想の幼稚園を創る③ひと(教員・保護者・地域)	(内容) (必要な準備)	実施した指導計画の評価・改善方法を学ぶ 教員 保護者 地域住民の役割と関係を考える		
第13回	実践例から指導計画の評価・改善ができる 理想の幼稚園を創る④もの(施設設備)	(内容) (必要な準備)	実習で実践した指導計画を評価・改善する 幼稚園の施設設備を考える		
第14回	幼小接続に関する指導計画を説明できる 理想の幼稚園を創る⑤ こと(保育・行事)	(内容) (必要な準備)	幼小接続のねらいを踏まえた指導計画を学ぶ 幼稚園で実施する保育や行事を考える		
第15回	指導計画を作成する際の要点が説明できる グループ発表とその評価ができる	(内容) (必要な準備)	発表を通して本授業で学んだ成果を振り返る グループ発表用の資料		
オフィスアワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み(研究室:1号館3階)				

授業名	保育相談 a	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Consultation of Child care	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	藤井 裕子	対象学生	幼児教育2ya～yg		
授業の概要	幼児理解を深め保護者に適切な養育上の助言指導や支援が実践できるようになることをめざす。 保育相談の意義や役割、内容について知識や方法を学ぶ。 対人関係能力を身につけて保護者との良好な信頼関係を構築する。関係機関について概要を理解し連携や協働できることをめざす。				
成果到達目標	1) 保育相談の意義や役割を学び、保護者との良好な信頼関係を構築する。 2) 保育に関する専門的知識、技術を背景に子どもの養育に関して適切な助言や支援が行うことができる。 3) 親の育児不安や育児ストレスに対応し、安定した親子関係や養育力の向上をめざして援助する。				
評価方法	定期試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	プリント配布する				
参考書	「乳幼児の発達臨床と保育カウンセリング」藤井裕子ほか、ふくろう出版、「子どもの発達と保育カウンセリング」次良丸睦子共著、金子書房、「保育相談支援」笠師千恵ほか著、中山書店				
留意事項	講義を中心とするが自ら課題意識をもって受講すること。実際の保育場面で役立つ内容でありノートにしっかり記録すること。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	科目ガイダンス、保育相談の意義と役割、保育相談の目的		(内 容) 保育相談の意義や目的を理解する。相談に応じる際の基本的知識を習得する。 (必要な準備) 保育相談の基本的知識を知っておく		
第2回	保育相談で用いるコミュニケーションの技術		(内 容) コミュニケーションの方法や技術を学ぶ。 (必要な準備) よりよいコミュニケーションを構築するスキルの習得をめざす。		
第3回	保育相談の内容と支援(1)基本的生活習慣に関する事		(内 容) 基本的生活習慣に関する相談、睡眠や排泄、食事などにおける問題と助言の内容を学ぶ。 (必要な準備) しつけの意義を学んでおく。		
第4回	保育相談の内容と支援(2)子どもの気になる行動		(内 容) 子どもの気になる行動が生じる要因と理解、対応や支援についての助言を学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントを読む。		
第5回	保育相談の内容と支援(3)言葉の遅れが見られる場合		(内 容) 言葉遅れの要因や支援、指導の方法を学ぶ。 (必要な準備) 言葉の発達過程について理解しておく。配布プリントを読む。		
第6回	保育相談の内容と支援(4)友達関係、兄弟関係の問題		(内 容) 友達とのトラブル、兄弟葛藤について知り、乗り越える方法について考えを深める。 (必要な準備) 自分の兄弟関係を見直す。配布プリントを読む。		
第7回	保育相談の内容と支援(5)登園をいやがる場合		(内 容) 子どもの行動や気持ちを理解した上で社会性の発達を促す工夫、家庭との連携について学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントを読む。		
第8回	保育相談の内容と支援(6)保育中に生じた怪我や事故への対応		(内 容) 保育中に生じたけがや事故を想定し、対応と未然防止の方策、安全対策について学ぶ。 (必要な準備) 保育中のけがや事故の種類を調べておく。		
第9回	保護者支援における保育者の役割(1)育児不安、育児ストレスの見られる保護者の場合		(内 容) 育児不安や育児ストレスがなぜ生じるかを考え保護者の気持ちに沿った支援の方法を学ぶ。 (必要な準備) 保護者や家庭の状況について理解し孤立しないように支援する方法を考えておく。		
第10回	保護者支援における保育者の役割(2)知識や気づきの提供		(内 容) 保護者に対して適切な保育知識の提供や行動見本の提示を行うことで支援を深める。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。		
第11回	保護者支援における保育者の役割(3)地域における社会資源や関係機関		(内 容) 児童相談所や保健所等の役割や機能について学び必要に応じて連携がとれるようになる。 (必要な準備) 配布プリントを読む。		
第12回	保育相談の方法と技術(1)アセスメント、支援計画、評価		(内 容) 問題解決に向けて保護者と共にアセスメントする方法を学ぶ。支援計画を立案する。 (必要な準備) 架空の例からアセスメント表の作成を試みる。		

第 13 回	保育相談の方法と技術(2)組織でのカンファレンス、専門家とのコンサルテーション	(内 容) 園内で情報共有や支援方針の共有、守秘義務を踏まえて検討会議の方法を学ぶ。専門家とのコンサルテーションの形態や方法について習得する。 (必要な準備) 配布プリントを読む。
第 14 回	特別な配慮が必要とされる支援(1)児童虐待とその予防	(内 容) 虐待や放任の背景、支援、児童相談所との連携について学ぶ。役割分担を学び、関係機関と連携して支援のネットワークを作っていく。 (必要な準備) 社会的養護について知っておく。関係機関の役割を学んでおく。
第 15 回	特別な配慮が必要とされる支援(2)障害を持つ子どもと家族への支援	(内 容) 障害や発達上の課題が見られる子どもの保護者に対して丁寧な長期的な支援計画について学ぶ。 (必要な準備) ノート、ファイルを持参し総復習を行う。
オフィス アワー	木曜日 15:00 から 17:00	

業名	保育相談 b	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Consultation of Child care	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	岸 優子	対象学生	幼児教育2yh～yn		
授業の概要	保育相談の意義や役割を理解し、特に、対人関係能力を身につけて、保護者との良好な信頼関係を構築できる支援の概要を理解する。そのために、子どもの発達や行動への理解を深め、保育者の立場から、保護者に対して行う適切な援助や支援のあり方を学ぶ。				
成果到達目標	1) 保育相談の意義を理解し、保育の事例を基に、保護者との良好な信頼関係を構築する方法を学ぶ。 2) 保育相談に関する専門的知識、技術を習得し、子どもの養育について適切な援助や支援に活用できるようになる。 3) 保護者の育児不安やストレスに対応し、安定した親子関係や養育力の向上をめざす支援の概要を理解する。				
評価方法	定期試験 (50 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 5"="" type="checkbox/>()</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> 高橋弥生編『新版 保育者論』一藝社、2013年、『親子の絆づくりプログラム“赤ちゃんがきた！”』2011年			
参考書	カナダ・公衆衛生局著、幾島幸子訳『【完璧な親なんていない】子どもの感情・親の感情』遠見書房、2010年				
留意事項	1) 予習、復習することにより保育相談・保護者支援についての基礎的知識を習得し、理解を深めておく。 2) 現代の子どもをめぐる問題状況を把握するため、新聞、テレビ、インターネットにより「子ども」（胎児～18歳）に関する記事をA3ノートにスクラップしておくこと。詳細については、第1回目の授業中に指示する。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	科目ガイダンス、保育相談の意義		(内 容) 保育相談の目的、方法、内容 (必要な準備) 「保育所保育指針」第1章総則、第6章		
第2回	対人援助の原則、コミュニケーションスキル		(内 容) 個人情報保護、守秘義務 (必要な準備) コミュニケーションを構築するスキルの習得		
第3回	保育相談の意義 と役割(1) 乳幼児理解		(内 容) 乳幼児の発達段階、行動、心理 (必要な準備) 乳幼児理解を深めるための資料を収集する。		
第4回	保育相談の意義 と役割(2) 信頼関係の構築、積極的傾聴、共感的理解		(内 容) コミュニケーションスキルの構築と向上 (必要な準備) プリント		
第5回	保育相談の実際(1) 基本的な生活習慣、睡眠、食事、生活リズムの理解		(内 容) 基本的な生活習慣、睡眠、排泄、食事など (必要な準備) しつけの意義を学んでおく。		
第6回	保育相談の実際(2) 子どもの気になる行動のとらえ方		(内 容) 気になる行動の要因 (必要な準備) 行動とその背景にある問題を理解する。		
第7回	保育相談の実際(3) 保育中に生じたけがや事故への対応		(内 容) 保育中のけがや事故への対応と未然防止。 (必要な準備) 保育中のけがや事故の種類を調べておく。		
第8回	保育相談の実際(4) 登園をしづる場合		(内 容) 社会性の発達を促す工夫を学ぶ。 (必要な準備) 登園をしづる理由や背景を考えておく。		
第9回	保育相談の実際(5) 言葉の遅れや発達に歪み・偏りが見られる場合		(内 容) 言葉遅れの要因や支援、指導の方法 (必要な準備) 発達段階について理解しておく。		
第10回	保育相談の実際(6) 保護者関係、友達関係、兄弟関係		(内 容) 対人トラブル、葛藤を理解する。 (必要な準備) 自分の身近な人間関係を見直す。		
第11回	保育相談の実際(7) 育児不安、育児ストレスを抱える保護者への対応		(内 容) 不安を抱える保護者支援の方法を学ぶ。 (必要な準備) プリント		
第12回	保育相談の実際(8) 精神疾患を抱える保護者への理解を深める		(内 容) メンタルヘルスの知識と支援の方法を学ぶ。 (必要な準備) 保護者の状況や問題の背景について調べる。		
第13回	保育相談の実際(9) 児童虐待や放任、過保護の保護者を理解する		(内 容) 児童相談所との連携について学ぶ。 (必要な準備) 要保護児童・要支援児童などについて調べる。		
第14回	保育相談の実際(10) 組織内での協力、地域との関係機関との連携・協働		(内 容) 保護者支援体制のネットワークについて学ぶ (必要な準備) 社会資源や関係機関の役割を調べる。		
第15回	これまでの振り返りをし、保育者として今後につなげる保護者支援の課題を見出す。		(内 容) 各自の課題を点検・整理し課題を明確化する。 (必要な準備) テキスト、ノート、プリント。		
オフィスアワー	月曜日・火曜日 12時10分から13時まで。				

授業名	子どもの食と栄養 a・b・c・d	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Children's Food and Nutrition	開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択
担当者	豊原 容子	対象学生	幼児教育2ya~yd, ye~yg, yh~yk, yl~yn		
授業の概要	成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体をつくるだけでなく生活リズムの形成や健全な心を育むためにも、さらに将来の健康の基礎を築くうえでも大切である。この授業では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、今の子どもたちが抱える食の問題点などについて学び、子どもの食生活がどうあるべきかを理解する。				
学習成果到達目標	1) 子どもにおける食の重要性と特徴を理解する。 2) 正しい食を営むための基本的な知識を取得する。 3) 子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる力を取得する。				
評価方法	定期試験 (50 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 汎用的能力	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力)
テキスト	子どもの食と栄養演習第2版 小川雄二編著 建帛社				
参考書	資料を配布する。				
留意事項	実際の保育における食の問題点を見つけ、改善していくことを考える姿勢をもって受講してもらいたい。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	食の重要性	(内 容) 現代の食の現状と課題、食の特徴 (必要な準備) 自らの食生活を振り返っておく			
第2回	子どもの発育・発達と食生活	(内 容) 食べる機能に関わる子どもの発育・発達 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。			
第3回	三大栄養素について	(内 容) 糖質・たんぱく質・脂質の種類と機能 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。			
第4回	その他の栄養素、水について	(内 容) ビタミン、ミネラルの種類と機能、食物繊維、水の働き (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。			
第5回	からだのしくみと栄養	(内 容) 消化吸収のしくみ、食欲のしくみ (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。			
第6回	一日の食事の考え方	(内 容) 食事摂取基準、食品の分類、食の安全について (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。			
第7回	バランスのとれた献立	(内 容) 献立のたて方、おいしさに関わる因子について (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。			
第8回	乳児期の栄養Ⅰ授乳の実際(実習を含む)	(内 容) 授乳の意義と乳汁の特徴 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。			
第9回	乳児期の栄養Ⅱ離乳の実際(実習を含む)	(内 容) 離乳の意義と離乳食の進め方 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。			
第10回	幼児期の栄養(実習を含む)	(内 容) 幼児期の食生活の特徴と食事の援助 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。			
第11回	食育の基本と内容	(内 容) 食育とは、保育所における食育 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。			
第12回	食育の実際(実習を含む)	(内 容) 食育計画を考える (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。			
第13回	児童福祉施設における食と栄養	(内 容) 児童福祉施設における食生活の現状と課題 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。			
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①食物アレルギー	(内 容) 食物アレルギーの発症機序と対応 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。			
第15回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	(内 容) 体調不良、疾病の子どもへの対応、障がいのある子どもへの対応 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。			
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。				

授業名	精神保健	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Mental Health	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	藤井 裕子	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	乳幼児期から高齢期まで各年代における心の健康について学ぶ。各年代別に見られる基本的な心理的特徴を理解する。その上で心理的な問題がどのように生じるかについて、主な問題の発生機序について学ぶ。心理的問題への対応や予防についても学び、精神保健の重要性について理解する。精神的な健康を維持するための方策についても考察する。				
学習成果到達目標	1) 保育士に必要な精神保健の知識を獲得する。 2) 心理的問題の予防について学び、メンタルヘルスの重要性を認識する。 3) ストレス対処理論を学び、心身の健康的な行動を増進する方法を身につける。				
評価方法	定期試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	<input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()		
テキスト	使用しない				
参考書	「メンタルヘルスを学ぶ」村井俊哉ほか著、ミネルヴァ書房、「これからの精神保健」吉川武彦ほか、南山堂				
留意事項	できるだけ事例や具体例（VTR）を用いて講義を進めるので自分に引き寄せて学んでほしい。毎回、演習問題を行うので講義の内容を理解し、メンタルヘルスの基本知識を習得すること。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	科目及び授業計画のガイダンス	(内 容) 精神保健の概要・授業の進め方 (必要な準備) 授業への要望や期待を問う			
第2回	精神保健の歴史、精神保健の意義	(内 容) わが国の精神保健の流れと課題、こころの健康への基本的知識と理解 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく			
第3回	E・H・エリクソンの理論の紹介 年代別のライフサイクル	(内 容) エリクソンのライフサイクル理論の紹介と年代別の心理的特徴を把握する。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく			
第4回	乳幼児期のメンタルヘルス	(内 容) 乳幼児の愛着形成の問題、情緒や行動上の問題を学び早期の関係性の重要性を理解する。 (必要な準備) 実習時の子どもの心の状態を思い起こす			
第5回	学童期のメンタルヘルス	(内 容) 学童期の感情や社会性の育ちを理解し学童期のウェルビーイングのあり方を考える。 (必要な準備) 配布プリントを読む。			
第6回	思春期・青年期のメンタルヘルス	(内 容) 思春期の特徴と危機、アイデンティティの問題について理解を深める。青年期特有の対人不安を知りメンタルヘルスを保つ方策を知る。 (必要な準備) 配布プリントを読む。			
第7回	成人期のメンタルヘルス	(内 容) 中年期に多いうつ病とその予防、うつ病への対応、バーンアウト等を学び問題解決を考える。 (必要な準備) 配布プリントを読む。			
第8回	老年期のメンタルヘルス	(内 容) 加齢による心理的変化や対象喪失について理解し老年期のウェルビーイングのあり方を考える。 (必要な準備) 配布プリントを読む。			
第9回	ストレスとその対応	(内 容) セリエのストレス学説を学びストレスの概念的定義、ストレス対応について学ぶ。 (必要な準備) 自分の生活をふりかえりストレス対応への力を高める。			
第10回	脳科学から見たメンタルヘルス	(内 容) 脳とこころの関係を学び脳の働きを理解する。脳の各部位の働きと心への影響について基本的知識を得る。 (必要な準備) 配布プリントを読み脳科学への関心を広げる。			
第11回	食に関する問題とメンタルヘルス	(内 容) 過食、拒食など摂食障害と発症の要因、支援について学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントを読み健康的な食生活を学ぶ。			
第12回	社会人基礎力の育成	(内 容) 社会人基礎力について知り意識的に育み、ストレスへの対応力や人間関係力を自ら育成する。 (必要な準備) 自分の生活をふりかえる			
第13回	対人援助職に見るメンタルヘルス	(内 容) 対人援助職におけるメンタルヘルスを考えバーンアウトを避ける手立てを習得する。 (必要な準備) 新聞などで情報を集めておく			
第14回	対象喪失の問題	(内 容) トラウマやPTSDについて理解し、支援の方策を学ぶ。 (必要な準備) 新聞などで情報を集めておく			
第15回	総復習	(内 容) 質疑応答、ノート点検、 (必要な準備) ノート、プリント			
オフィスアワー	火曜日 15:00-17:00				

授業名	音楽Ⅲa・Ⅲb・Ⅲc・Ⅲd・Ⅲe・Ⅲf・Ⅲg・Ⅲh・Ⅲi・Ⅲj・Ⅲk・Ⅲl	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	MusicⅢ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	小川隆昭・後藤由美子・千田浩美・服部さやか・水谷佳代子	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	幼稚園・保育所の実習・就職試験、更には将来保育現場で役立つ実践的な能力を身に付けると同時に「子どもの歌」を通して豊かな感性や表現力、及び音楽の楽しさ・喜びを身に付け、それらを伝える方法を学ぶ。				
学習成果 到達目標	1) 「こどものうた」のレパートリーを拡げる。 2) 初見・伴奏付けの力をつける。 3) 人前で弾くことに慣れることで、実習や幼・保就職試験、更には就職後の保育現場で即、役立つ技術を養う。				
評価方法	定期試験 (70 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の 観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input "="" 5"="" checked="" type="checkbox/>(初見力)</td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> 「こどものうた」華頂短大音楽研究室 編			
参考書	使用しない。				
留意事項	積極的に練習し、実習や幼・保の就職試験を目指して、弾き歌いの出来る曲を増やすことが大事。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	ガイダンス、初見①、歌唱①		(内 容) 春学期授業計画・注意事項 (必要な準備) 「こどものうた」のテキスト		
第2回	教育実習(幼稚園実習)準備①、初見・歌唱②		(内 容) 多くの幼稚園で歌われている「こどものうた」 などの伴奏 (必要な準備) 「こどものうた」の練習		
第3回	教育実習(幼稚園実習)準備②、初見・歌唱③		(内 容) (幼稚園実習準備) 継続、初見・歌唱③ (必要な準備) 継続		
第4回	教育実習(幼稚園実習)準備③、初見・歌唱④		(内 容) (幼稚園実習準備) 継続、初見・歌唱④ (必要な準備) 継続		
第5回	春学期前半のまとめ、初見・歌唱⑤		(内 容) 初見・歌唱⑤、個人チェック曲練習 (必要な準備) 継続		
第6回	第1回個人チェック		(内 容) グループ別に課題曲を一人ずつチェック (必要な準備) 継続		
第7回	コードネーム・伴奏付け①、初見・歌唱⑥		(内 容) コードネーム説明→伴奏付け基本練習 (必要な準備) 継続		
第8回	コードネーム・伴奏付け②、初見・歌唱⑦		(内 容) [伴奏付け] 継続、[初見・歌唱] 継続 (必要な準備) 継続		
第9回	初見・伴奏付け補充練習①		(内 容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習① (必要な準備) 継続		
第10回	初見・伴奏付け補充練習②		(内 容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習② (必要な準備) 継続		
第11回	初見・伴奏付け補充練習③		(内 容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習③ (必要な準備) 継続		
第12回	初見・伴奏付け補充練習④		(内 容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習④ (必要な準備) 継続		
第13回	春学期後半のまとめ、初見・歌唱⑧		(内 容) 初見・歌唱、伴奏付け (必要な準備) 継続		
第14回	初見・伴奏付けテスト		(内 容) 幼・保就職で出題される曲を中心に (必要な準備) 伴奏付けの練習		
第15回	第2回個人チェック		(内 容) グループ別に課題曲を一人ずつチェック (必要な準備) 個人チェックの課題曲の練習		
オフィス アワー	小川以外は担当授業後に実施。小川は後日研究室前に掲示。小川以外の教員のクラスも小川のオフィスアワーも可。				

授業名	音楽Ⅳa・Ⅳb・Ⅳc・Ⅳd・Ⅳe・Ⅳf	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	MusicⅣ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	小川隆昭・後藤由美子・服部さやか・水谷佳代子	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	幼稚園・保育所の実習及び就職試験に即、対応する能力。又幼稚園・保育園に就職する場合は、現場で役立つ実践的な能力を養うと同時に「子どもの歌」や合奏を通して豊かな感性や表現力及び音楽の楽しさ・喜びを身に付ける。				
学習成果 到達目標	1) 幼・保就職試験に対応できるピアノの技術力を養う。 2) 現場で役立つ実践的な能力を養う。 3) 豊かな感性や表現力及び音楽の楽しさ・喜びを身に付ける。				
評価方法	定期試験 (70 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の 観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input "="" 5"="" checked="" type="checkbox/>(初見力)</td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> 「子どものうた」華頂短大音楽研究室 編			
参考書	使用しない。				
留意事項	幼・保の就職試験に対応するため、個人指導を増やし、時間外にもレッスンをする。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業内容の説明、歌唱、初見 (必要な準備) 「子どものうた」のテキスト			
第2回	初見・伴奏付けテスト	(内 容) 就職試験のリハーサル (必要な準備) 初見、伴奏の練習			
第3回	初見・伴奏付け補充練習①	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習			
第4回	初見・伴奏付け補充練習②	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習			
第5回	第1回個人チェック	(内 容) 前半課題曲の小テスト (必要な準備) 個人チェック曲練習			
第6回	リズム変奏	(内 容) マーチ・スキップ・かけ足・ワルツに変奏 (必要な準備)			
第7回	初見・伴奏付け補充練習③	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習			
第8回	初見・伴奏付け補充練習④	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習			
第9回	初見・伴奏付け補充練習⑤	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習			
第10回	合奏①	(内 容) クリスマス曲合奏 (必要な準備)			
第11回	合奏②	(内 容) クリスマス曲合奏 (必要な準備)			
第12回	合奏③	(内 容) クリスマス曲合奏 (必要な準備)			
第13回	合奏④	(内 容) クリスマス曲合奏 (必要な準備)			
第14回	合奏⑤	(内 容) 合奏指導法 (必要な準備)			
第15回	第2回個人チェック	(内 容) 後半課題曲の小テスト (必要な準備) 個人チェック曲の練習			
オフィス アワー	小川以外は担当授業後に実施。小川は後日研究室前に掲示。小川以外の教員のクラスも小川のオフィスアワーも可。				

授業名	ピアノ実技(個人指導) I a・I b・I c・I d		開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Piano(Private Lesson) I		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	坂口みゆき・高科絵美代・服部さやか		対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	1回生で修得した能力を更に発展させ、幼稚園・保育所の就職試験及び卒業後、現場で役立つピアノの基礎能力を向上させる。					
学習成果到達目標	1) ピアノの演奏技術を高めることが出来る。 2) 幼稚園や保育所で役立つ基礎能力を向上させることが出来る。 3) レパートリーを多く持つことが出来る。					
評価方法	定期試験 (80%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技		平常試験 (20%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点		<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> 演奏技術能力) <input checked="" type="checkbox"/> 詳細な読譜力)			
テキスト	教則本を随時使用					
参考書	使用しない					
留意事項	履修条件：①学外でレッスンを受けていない ②幼・保に就職希望している ③ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション		(内 容) レッスン曲決定 (必要な準備)			
第2回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル学生を中心に個人レッスン (必要な準備) レッスン曲の練習			
第3回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル学生を中心に個人レッスン (必要な準備) レッスン曲の練習			
第4回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル学生を中心に個人レッスン (必要な準備) レッスン曲の練習			
第5回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル学生を中心に個人レッスン (必要な準備) レッスン曲の練習			
第6回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル学生を中心に個人レッスン (必要な準備) レッスン曲の練習			
第7回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル学生を中心に個人レッスン (必要な準備) レッスン曲の練習			
第8回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル学生を中心に個人レッスン (必要な準備) レッスン曲の練習			
第9回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル学生を中心に個人レッスン (必要な準備) レッスン曲の練習			
第10回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル学生を中心に個人レッスン (必要な準備) レッスン曲の練習			
第11回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル学生を中心に個人レッスン (必要な準備) レッスン曲の練習			
第12回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル学生を中心に個人レッスン (必要な準備) レッスン曲の練習			
第13回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル学生を中心に個人レッスン (必要な準備) レッスン曲の練習			
第14回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル学生を中心に個人レッスン (必要な準備) レッスン曲の練習			
第15回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル学生を中心に個人レッスン (必要な準備) レッスン曲の練習			
オフィスアワー	坂口(週1回-曜日と時間は研究室前に掲示) 高科・服部(担当授業終了後に実施) *高科・服部のレッスンを受ける学生は、坂口のオフィスアワーも利用してください。					

授業名	ピアノ実技(個人指導)Ⅱa・Ⅱb		開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Piano(Private Lesson)Ⅱ		開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	坂口 みゆき・高科 絵美代		対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	幼稚園・保育所の就職試験に対応できるだけのパiano技術を付けることが最大の目標。教則本だけでなく、初見や弾き歌いなど随時、受験する園に応じた曲を練習する。					
学習成果到達目標	1) ピアノの演奏技術をさらに高めることが出来る。 2) 弾き歌い等のレパートリーを多く持つことが出来る。 3) 初見力を高めることが出来る。					
評価方法	定期試験 (80%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技		平常試験 (20%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> 初見力 <input checked="" type="checkbox"/> 演奏能力				
テキスト	教則本を随時使用					
参考書	使用しない					
留意事項	緊張してもある程度の実力を発揮できるよう、ふだんからしっかり練習して余裕を持って弾けるようにする。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション		(内 容) レッスン曲決定 (必要な準備)			
第2回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) 幼・保の就職試験で弾く自由曲をレッスン (必要な準備) 自由曲の練習			
第3回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) 幼・保の就職試験で弾く自由曲をレッスン (必要な準備) 自由曲の練習			
第4回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) 幼・保の就職試験で弾く自由曲をレッスン (必要な準備) 自由曲の練習			
第5回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) 幼・保の就職試験で弾く自由曲をレッスン (必要な準備) 自由曲の練習			
第6回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) 幼・保の就職試験で弾く自由曲をレッスン (必要な準備) 自由曲の練習			
第7回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) 幼・保の就職試験で弾く自由曲をレッスン (必要な準備) 自由曲の練習			
第8回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) 幼・保の就職試験で弾く自由曲をレッスン (必要な準備) 自由曲の練習			
第9回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) 幼・保の就職試験で弾く自由曲をレッスン (必要な準備) 自由曲の練習			
第10回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) 幼・保の就職試験で弾く自由曲をレッスン (必要な準備) 自由曲の練習			
第11回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) 幼・保の就職試験で弾く自由曲をレッスン (必要な準備) 自由曲の練習			
第12回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) 幼・保の就職試験で弾く自由曲をレッスン (必要な準備) 自由曲の練習			
第13回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) 幼・保の就職試験で弾く自由曲をレッスン (必要な準備) 自由曲の練習			
第14回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) 幼・保の就職試験で弾く自由曲をレッスン (必要な準備) 自由曲の練習			
第15回	ピアノ個人レッスン(教則本)		(内 容) 幼・保の就職試験で弾く自由曲をレッスン (必要な準備) 自由曲の練習			
オフィスアワー	坂口(週1回・曜日と時間は研究室前に掲示) 高科(担当授業終了後に実施・坂口のオフィスアワーも利用してよい)					

授業名	国語 a	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Japanese	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	遠藤 純	対象学生	幼児教育2ya~yg		
授業の概要	読む・書く・聞く・話すという国語にかかる基本的な行為を重視し、その能力を培うことを目的とする。表現力・読解力を養うため、絵本や児童文学作品を用い、それらの読解や分析を行うことで日本語の持つ特質に迫ることを目標とし、表現力育成のための創作や発表等も授業に取り入れる予定である。				
学習成果到達目標	1) 日本語の特質について意見をまとめることができる。 2) 昔話について知ることができる。 3) おもな絵本の基本的な読み方を理解することができる。				
評価方法	定期試験 (40 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (60 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	配布プリント				
参考書	なし				
留意事項	真摯な態度での受講を望む。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	ガイダンス 授業の目的および詳細について		(内 容) 授業の目的や内容、具体的な取り組みについて詳述する。 (必要な準備)		
第2回	日本語の表記について 1		(内 容) 漢字について学ぶ1 (必要な準備) これまでに学習した漢字を復習しておく。		
第3回	日本語の表記について 2		(内 容) 漢字について学ぶ2 (必要な準備) これまでに学習した漢字を復習しておく。		
第4回	日本語の表記について 3		(内 容) 漢字について学ぶ3 (必要な準備) これまでに学習した漢字を復習しておく。		
第5回	作品をよむ 1		(内 容) 昔話について考える1 (必要な準備) 好きな昔話を読みかえしておく。		
第6回	作品をよむ 2		(内 容) 昔話について考える2 (必要な準備) 好きな昔話を読みかえしておく。		
第7回	作品をよむ 3		(内 容) 文学作品の読み方を考える1 (必要な準備) 好きな文学作品を読みかえしておく。		
第8回	作品をよむ 4		(内 容) 文学作品の読み方を考える2 (必要な準備) 好きな文学作品を読みかえしておく。		
第9回	作品をよむ 5		(内 容) 文学作品の読み方を考える3 (必要な準備) 好きな文学作品を読みかえしておく。		
第10回	「絵本」のよむ1		(内 容) 絵本をよみ、絵の記号性について考える (必要な準備) 好きな絵本をよみかえしておく。		
第11回	「絵本」をよむ2		(内 容) 絵本をよみ、絵の記号性について理解する (必要な準備) 好きな絵本をよみかえしておく。		
第12回	児童文学とは何か 1		(内 容) 子どもの文学とは何か、その内容について理解を深める。 (必要な準備) 子どもの頃の読書体験についてまとめておく。		
第13回	児童文学をよむ 1		(内 容) 児童文学作品をよみ、文学言語としてのことばについて理解を深める。 (必要な準備) 絵本と児童文学との違いについて考えておく。		
第14回	児童文学をよむ 2		(内 容) 読者としての子どもの描き方から、児童文学の本質について考える。 (必要な準備) 文学作品が子どもをどのように描いてきたかについてまとめておく。		
第15回	まとめ		(内 容) 授業のまとめを行い、レポートを作成する。 (必要な準備)		
オフィスアワー	授業の初回に連絡する				

授業名	国語 b	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Japanese	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	土井 哲治	対象学生	幼児教育 2yh～yn		
授業の概要	言葉とはどのようなものであるか、日本語とはどのような言語であるか、この二つを十分理解してもらい、教育に必要な国語能力を洗練する。併せて、昔話への理解を深める。				
学習成果 到達目標	1) 国語について基本的な説明ができる。 2) 昔話について語る事ができる。 3) 方言について基本的な知識を持つ				
評価方法	定期試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (真摯な取り組み姿勢) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	配布プリント				
参考書	なし				
留意事項	真摯な態度での受講を望む。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	導入	(内 容) 授業内容の概説 (必要な準備)			
第2回	言葉とは・記号論	(内 容) 言葉と他の記号の違い (必要な準備)			
第3回	「人」の読み方・訓読みと考察課題設定	(内 容) 単語の中の「人」の読み方 (必要な準備) 「人」の付く単語を書き出してくる。			
第4回	「人」の読み方・音読み	(内 容) グループ討議の後レポート作成 (必要な準備) 課題の取りまとめと考察			
第5回	方言・消えゆく方言と調査課題設定	(内 容) 消えゆく関西弁 (必要な準備) 祖父母等の方言の調査			
第6回	方言・我が家の場合	(内 容) 各自の地元の方言についてグループ討議 (必要な準備) 調査結果の整理			
第7回	方言・比較検討	(内 容) 調査結果の地域比較でレポート作成 (必要な準備) 前回討議からの考察			
第8回	五十音図	(内 容) 国語学の基本たる五十音図の講義 (必要な準備) 五十音の発音を表にしてくる。			
第9回	語源探求・事例と考察課題設定	(内 容) 語源について事例紹介と課題設定 (必要な準備)			
第10回	語源探求・考察結果のグループ別発表	(内 容) 調べた語源をグループで説明・共有 (必要な準備) 指示された語の語源調査			
第11回	「浦島太郎」の歴史と昔話課題設定	(内 容) 浦島伝説の変遷の説明と昔話課題設定 (必要な準備) 巖谷小波についての下調べ			
第12回	地元の昔話の改作	(内 容) 昔話を今風に作り替える (必要な準備) 地元の昔話の選択			
第13回	絵本・絵巻	(内 容) 物語の享受方法と絵解き (必要な準備) 奈良絵本の画像を見てくる。			
第14回	昔話改作指導	(内 容) 改作個人指導 オフィスアワー併用 (必要な準備) 昔話を改作してくる			
第15回	まとめ	(内 容) 総括と質疑応答 (必要な準備) 質問の用意			
オフィスアワー	月曜日午後 12時から 15時まで				

授業名	リズム	開講学年	2年生	単位数	1単位
英文名	Rhythm	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	佐東 恒子	対象学生	幼児教育2年生		
授業の概要	心も体も開放させ様々なリズムに合わせて体を動かし、リズムにのって動く楽しさを体験する。子どもを生き生きさせる重要な活動である事を知る。創造性豊かな保育者として、子どもの発達に応じたリズムダンスの指導と援助が出来るように学習する。				
学習成果 到達目標	1) 子どもの発育・発達を考えて、楽しいリズムダンスを子ども達に提供出来る指導者になる。 2) 自分でリズムダンスを創作できる能力を身に付ける。 3) イメージしたものを即興で表現できる体づくり。				
評価方法	定期試験 (60 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	使用しない。				
参考書	「リズムと動き」エルザ・フィンドレイ著 (全音楽譜出版社)				
留意事項	保育者として現場に立つ時のことを考えて、取り組んでもらいたい。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	動ける体づくり(1)リズムに反応して動く		(内 容) リズムに合わせて心と体を開放させて動く (必要な準備) ノートを作成 (授業内容をまとめる)		
第2回	動ける体づくり(2)速い曲に反応して動く		(内 容) リズムエクササイズ (リズムの変化を体で感じる) (必要な準備) 前回の行った動きのリズムを思い出す		
第3回	動きの変化		(内 容) 呼吸と動作について知る (呼吸の仕方での動きが変化することを体験する) (必要な準備) 復習をして身体反応をよくしておく。		
第4回	リズム遊び (1) 音符の体得		(内 容) 手や足で音符を表現する。発令された音符を素早く反応して身体で表現する。 (必要な準備) 呼吸と動きについて体験した動作の復習		
第5回	リズム遊び (2) 異なる音符の表現		(内 容) いろんなリズムを体で感じ表現する (必要な準備) 前回の授業で行った復習をする		
第6回	リズムパターンの体得		(内 容) いろんなリズムパターンを行う 2人組でリズムパターンを行う (カノンで行う) (必要な準備) 前回のリズムパターンを体得しておく		
第7回	音階とステップ		(内 容) 音階を体で表現しながら基本ステップを行う (必要な準備) 基本ステップの復習をしておく		
第8回	子どものリズムエクササイズ		(内 容) 子どもが楽しむリズムエクササイズを行い動く。 (必要な準備) 動きを考えておく		
第9回	子どものリズムエクササイズを作る		(内 容) 各自が考えた動きをつなげる 完成させる (必要な準備) 各自の動きを仕上げておく		
第10回	リズムダンス		(内 容) 幼児のダンスを楽しく表現豊かに動いてみよう (必要な準備) 知っているダンスがあれば書き出しておく		
第11回	創作		(内 容) グループでリズムダンスを創作する (必要な準備) 曲をみつけて準備をしておく		
第12回	創作		(内 容) 曲のリズムと動きがうまく合っているか考える (必要な準備) グループの人と話し合いをする		
第13回	創作		(内 容) リズムダンスの完成 気になるところの修正 (必要な準備) グループでまとめておく		
第14回	発表		(内 容) グループごと発表を行う 各自が評価する (必要な準備) 発表が出来るようにグループで作品の確認		
第15回	まとめ		(内 容) 全体の授業の振り返り (必要な準備) 子どもの前で出来るダンスを用意しておく		
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。				

授業名	子どもの造形	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Children's Art	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	山部 泰司	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	「図画工作Ⅰ・Ⅱ」「保育内容・表現Ⅰ」などで学んだ内容をもとに、子どもの造形活動や造形表現についてさらに深く理解し、実践的に指導支援できる力を身につける。				
学習成果到達目標	1) 技法、材料による多様な造形的表現について研究する。 2) 子どもの意欲や興味関心に寄り添うテーマと課題の設定について考える。 3) 子どもの個性や発達に即した指導法・支援の計画が立てられる力を養う。				
評価方法	定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> 表現力 <input type="checkbox"/>			
テキスト	花篤實・岡田愨吾 編著 『新造形表現 実技編』（三晃書房） 1回生春学期に購入したもの				
参考書	図書館にあるものを活用する				
留意事項	内容等については受講生の人数、学生の求める学習成果によって変更することがある。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス	(内 容) 導入 (必要な準備) シラバスに目を通しておく			
第2回	技法研究・フィンガーペインティング①	(内 容) フィンガーペインティングによる表現 (必要な準備) 指絵の具について復習しておく			
第3回	技法研究・フィンガーペインティング②	(内 容) 市販の指絵の具と土粘土 (必要な準備) 何が指絵の具になるか考えておく			
第4回	技法研究・ローラーで遊ぶ	(内 容) ローラー遊びからの展開 (必要な準備) アイデアを考えておく			
第5回	材料研究・落ち葉を並べる①	(内 容) 落ち葉や自然素材による表現 (必要な準備) つくりたい形を考えておく			
第6回	材料研究・落ち葉を並べる②	(内 容) 自然素材による造形 (必要な準備) 季節感とテーマの設定について考える			
第7回	指導法研究・両手で描く	(内 容) 両手で描く感覚を知る (必要な準備) クレヨン、水性ペンなど			
第8回	指導法研究・新聞粘土	(内 容) 新聞紙の手触りを感じる (必要な準備) 新聞紙、のり			
第9回	材料研究・紙コップ、紙皿による造形①	(内 容) テーマの設定（動く、飾る、変身） (必要な準備) 紙コップと紙皿			
第10回	材料研究・紙コップ、紙皿による造形②	(内 容) 作品の制作 (必要な準備) アイデアを練っておく			
第11回	材料研究・ストローをつかった造形	(内 容) ストローによる動くおもちゃ (必要な準備) ストロー、空き容器			
第12回	頭足人を描く	(内 容) 描画の発達段階の理解 (必要な準備) 配布資料を読む			
第13回	レントゲン画を描く	(内 容) レントゲン画の理解 (必要な準備) 配布資料を読んでおく			
第14回	造形のための環境について	(内 容) 素材、道具の管理について (必要な準備) 物的環境の整備について考えておく			
第15回	まとめ・記録のファイリング	(内 容) 授業全体の総括 (必要な準備) 自分の取り組みについてまとめておく			
オフィスアワー	登録学生の希望により決定し研究室前に掲示する。				